令和３(2021)年度

履修の手引

徳島大学総合科学部

令和３（2021）年度　総合科学部年間行事予定表

前　期（４月１日～９月30日）

新入生オリエンテーション	４月１日㈭　から　４月８日㈭
履修登録期間（Web登録期間）	４月２日㈮　から　４月16日㈮
入学式	４月６日㈫
授業開始	４月９日㈮
履修登録確認期間（Web修正期間）	４月19日㈪　から　５月７日㈮
授業振替日（木曜日）	４月30日㈮
履修登録確認期限（履修登録修正願提出期限）	５月14日㈮
卒業研究題目届提出期限	５月31日㈪
総括授業・定期試験	７月26日㈪　から　８月６日㈮
夏季休業	８月12日㈭　から　８月31日㈫
成績の通知日（追・再試験は10月末までに適宜実施）	８月20日㈮　から

後　期（10月１日～３月31日）

履修登録期間（Web登録期間）	９月22日㈬　から　９月30日㈭
授業開始	10月１日㈮
履修登録確認期間（Web修正期間）	10月１日㈮　から　10月21日㈭
大学祭（休業日）	10月30日㈯　から　10月31日㈰
開学記念日	11月２日㈫
履修登録確認期限（履修登録修正願提出期限）	11月５日㈮
冬季休業	12月25日㈯　から　１月７日㈮
大学入学共通テスト会場設営のため休業	１月14日㈮
コース配属・転学科・転コース願提出期限	１月20日㈭
卒業研究提出期間	１月27日㈭　から　１月31日㈪
総括授業・定期試験	１月27日㈭　から　２月９日㈬
成績の通知日	２月14日㈰　から
追試験・再試験（４年次生は２月18日㈭まで）	２月28日㈰　から　３月４日㈮
卒業式・修了式	３月23日㈬
学年末休業	３月25日㈮　から　３月31日㈭

総合科学部での学びと社会で求められる能力

徳島大学総合科学部新入生の皆さん，ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を教職員一同心よりお祝い申し上げます。

これから新たに大学生活を始めるにあたって，皆さんは大きな夢や希望，目標をお持ちだと思います。この『履修の手引』は，皆さんが卒業するまでの総合科学部での履修方法や単位・資格の修得方法，２年次以降に各コースに所属して専門教育を履修する上で必要な要件や規則をまとめたものです。言わば，皆さんが総合科学部で学修するためのナビゲーターです。皆さんには卒業時までこれらの規則が適用されますので，この『履修の手引』に必ず目を通すとともに，卒業時まで大切に保管しておいてください。

これからの４年間は，徳島大学総合科学部での学びを基礎に，皆さんが「社会で活躍する」ための準備期間となります。その研鑽・学修の「場」が徳島大学であり，総合科学部であるということになります。

徳島大学が掲げる教育の理念は，人間性に富む人格の形成を促し，優れた専門的能力と，自立して未来社会の諸問題に立ち向かう，進取の気風を身につけた人材の育成にあります。すなわち，自らの問題関心あるいは社会の諸課題に対して，自らが培った能力をもって積極的に行動できる人材の育成が，徳島大学の教育目標となっています。

明治７年（1874）の徳島師範期成学校の創設以来140年以上の歴史をもつ総合科学部もまた，そうした教育理念のもとに，総合的・学際的な広い視野を持ちつつ核となる自らの専門性を深めることで，グローバル化する現代社会の諸課題について考察・分析し，その解決方法を模索できる人材の育成を目指しています。「探求心」をもって自らの問題関心･課題テーマに取り組むことで，皆さんは総合科学部において「学問」や「研究」の醍醐味を知ることになります。

もちろん，社会が大学生に求める能力は，大学で培った教養的知識・専門的知識ばかりではありません。「人間力」あるいは「社会人基礎力」とも言われますが，主体性や行動力，チャレンジ精神，問題発見･解決能力や発想力，コミュニケーション能力や協調性･協働性といった，「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」も，社会から期待されている能力です。コミュニケーション能力とは，相手の話を聞き，それに対して自分の意見を伝えられる能力のことです。友達とのコミュニケーションであれば簡単でしょうが，見知らぬ他者との間で相手の立場・考えを理解し，自分の考えを相手にどう伝えるか，となると難しいものです。これらの能力は，「学修する力」にも求められます。

それゆえ，総合科学部では，広い視野の育成や社会人としての人格形成教育の観点から，教養教育科目や学部共通科目・実践学習科目の履修も重視しています。このような能力は，大学での学修の場だけではなく，学内外のサークル活動や社会活動などを通じて会得することもできます。可能

な範囲で，こうした活動に参加し，様々な社会体験を通じて自分を研鑽することも，将来にわたっての皆さんの自己形成につながるといえます。

「大学」には，リベラルアーツ（教養教育），学術研究（専門教育），職業教育（キャリア教育），という３つの顔があります。総合科学部でもこれらの教育プログラム（カリキュラム）が展開されており，これらの教育プログラムを通じて，大学生としての能力･資質を高め，自らの目標に向かってのキャリアデザイン（将来設計）が求められることになります。ただし，大学は高校までのように集団生活をおくる場ではありません。自己責任と自己管理のもとに，大学生には自律的な学修が求められることになります。そのことを皆さんが充分に理解し行動することで，ぜひ，皆さんが将来，「総合科学部で学んで良かった」「総合科学部で有為な学生生活を送ることができた」と振り返ることができる，充実した学生時代を送られることを期待しています。

令和３年４月

徳島大学総合科学部長
髙　橋　晋　一

目　　次

Ⅰ．総合科学部における学びと生活…… 1
1．総合科学部で学ぶための基本事項…… 3
⑴　総合科学部の学びの特長…… 3
⑵　専門教育と教養教育の区別…… 3
⑶　学年暦と授業の形態…… 4
⑷　授業出席確認システムについて…… 4
⑸　履修登録単位の上限（CAP 制）…… 4
⑹　単位と進級・卒業…… 5
⑺　成績の評価…… 5
⑻　試験などにおける不正行為…… 6
⑼　コース配属と転コース…… 6
⑽　教員免許状や各種資格…… 7
2．コース毎の履修上の要望事項・履修例…… 8
国際教養コース…… 8
心身健康コース…… 14
公共政策コース…… 17
地域創生コース…… 19
3．学生生活の基本事項…… 23
学生への連絡方法／大学の連絡先…… 23
学生証の交付…… 23
学生支援の体制…… 23
キャリア支援・就職情報…… 24
定期健康診断…… 25
休学および退学の手続き…… 25
授業料納付および授業料免除…… 26
海外学術交流協定校等への長期交換留学および短期留学…… 26
奨学金制度…… 30
賞罰・表彰…… 30
証明書や届出…… 31
学部内施設の使用方法…… 32
建物・講義室などの使用および入退室…… 32
喫煙の禁止…… 32
構内の交通規制…… 32
交通事故に遭ったとき…… 33
その他…… 33

Ⅱ．規　則　集…… 35
1．徳島大学総合科学部規則…… 37
2．履修細則…… 42
3．試験細則…… 65
4．コース細則…… 67
5．徳島大学総合科学部学友会会則…… 68
6．徳島大学語学マイレージ・プログラム実施要領…… 70

Ⅲ．語学マイレージ・プログラム…… 73
1．目的…… 75
2．概要…… 75
3．卒業要件…… 76
4．特別な単位認定に伴うマイレージポイントの認定…… 78
5．マイレージポイント等の確認…… 82
6．表彰…… 82
7．証明書の発行…… 82

Ⅳ．教員免許状と各種資格…… 83
1．教員免許状の取得…… 85
2．学芸員の資格取得……102
3．公認心理師の資格取得……103
4．認定心理士の資格取得……105
5．健康運動指導士の資格取得……107
6．公認スポーツ指導者養成講習会「免除適応コース」（共通科目Ⅰ）……109
7．アシスタントマネジャーの資格取得……110
8．ジュニアスポーツ指導員の資格取得……111
9．社会調査士の資格取得……112
10．社会福祉主事の資格取得……114
11．GIS 学術士の資格取得……116
12．日本語教師の養成……118
13．グローバル人材育成学習プログラム……119
14．とくしま創生人材教育プログラム（COC+R プログラム）……122

Ⅴ．そ　の　他……125
コース担当教員一覧表……127
総合科学部（教養教育棟を含む）建物配置図……129

Ⅰ．総合科学部における学びと生活

1．総合科学部で学ぶための基本事項

ここでは総合科学部で学んでいくうえで，もっとも基本的な事柄を説明します。詳細は別のページや，『教養教育履修の手引』『学生生活の手引』を参照してください。

(1) 総合科学部の学びの特長

① 専門性と総合性の融合

人文科学や社会科学，人間科学，地域科学，情報科学などの垣根を越えて，幅広く学際的に学ぶと同時に，特定の分野を専門的に深化させていきます。

② 手厚い教員体制による少人数教育

１学年の学生定員が 170 名であるのに対し，教員は 64 名（R ２．４．１現在）を数えます。学部の学生約 10 人（１学年の学生３人）に教員１人という手厚い体制で丁寧，親身な教育を行います。

③ 地域社会との連携や寄与

学生，教員とも学内での学習・教育にとどまらず，地域社会の課題を知り，積極的な協働を図ります。様々な形で学外の自治体や企業・団体などと連携して課題解決にあたることを目指します。

④ キャリア教育の重視

卒業後の就職・進学や人生設計について早い段階から考えていきます。自分の関心，特性，人生観などを振り返りつつ，社会の今と未来を見据える学習です。

⑤ グローバル人材の育成

グローバル化する内外の社会に対応でき，新しい諸問題に対応できる力を身につけます。その一環として語学力の向上や留学・海外研修などを重視します。

⑥ 汎用的技能の習得

情報リテラシーや外国語の基本的運用力，日本語の文章読解・表現力，国際感覚，コミュニケーション力，プレゼンテーション力，リーダーシップ，チームワークなど，社会で必要とされる基礎的技能を身につけます。

⑦ 教員免許などの資格取得

教員免許をはじめ，在学中に様々な資格が取得できます。ただし，そのためには卒業要件に加えてより多くの学習が必要です。特に，教員免許状の取得要件は近年厳しくなっていることから，真剣な取り組みが求められます。

(2) 専門教育と教養教育の区別

教育課程は，総合科学部で行う「専門教育」と教養教育院で行う「教養教育」とに分かれます。主に１年次で教養教育科目を履修し，２～４年次で専門教育科目を履修します。専門教育と教養教育とでは，時間割や履修の手続き，建物・教室，事務担当係なども別になります。

⑶　学年暦と授業の形態

２学期制で，年度は前期（４月～９月）と後期（10 月～３月）とに分かれ，毎学期の初めに授業の履修登録を行います。授業科目により多少の違いがありますが，それぞれ 16 週（16 回）の授業が実施され，学期中の小テストやレポート課題，あるいは学期末試験によって，成績が評価されます。祝日が多い曜日の授業は，他の曜日と振替られる場合があるので注意が必要です。学年暦をよく確認してください。

授業の形態は講義，演習（ゼミ），実験，実習などがあります。授業時間は，１講時を 45 分とし，原則として２講時 90 分を１コマ（ひとまとまり）として実施されます。90 分の講義の場合，予習と復習をそれぞれ，２時間行うのが前提です。演習（ゼミ）や実験，実習など，２コマ連続して実施する授業もあります。

⑷　授業出席確認システムについて

① システムを利用するかどうかは授業によって異なり，各授業の出席確認方法は，初回の授業等において担当教員から説明があります。

② システムを利用する場合は，毎回の授業において自分の学生証をカードリーダにかざして登録操作を行ってください（初回の授業がカードリーダを設置した講義室で行われるときは，システムを利用した出席確認が行われることを仮定し，授業開始前の 10 分間に登録操作をしてください)。

③ カードリーダへの登録操作時，正常な登録を「表示」や「音」等で確認してください。教室によってシステムが異なる場合があります。

④ カードリーダに登録した時刻が，「出席扱い時間」に含まれる場合を出席，「出席扱い時間」に含まれず「遅刻扱い時間」に含まれる場合を遅刻，「出席扱い時間」及び「遅刻扱い時間」のいずれにも含まれない場合を欠席とします。ここに，「出席扱い時間」等は以下を基準としますが，担当教員の変更指定があれば，そちらを優先します。

・出席扱い時間：正規の授業開始時刻の 10 分前から 15 分間

・遅刻扱い時間：出席扱い終了時刻から 15 分間

⑤ 学生証を所持していない場合，授業開始前に教員に申し出ることが必要です。授業開始後及び頻繁に学生証を忘れている場合は，原則として申し出は許可されません。

⑥ 出席記録は定期試験の受験資格に関わり，出席を偽る登録操作は不正行為です。不正登録を行った場合，当該授業科目の試験を受けることができません。この処分は，システムを用いた場合に限らず，他の出席確認方法で不正行為を行った場合においても適用されます。

⑸　履修登録単位の上限（CAP 制）

履修する科目が多すぎると学修時間や内容が不十分になりますので，履修登録できる授業の単位数に上限を設けています。総合科学部では学年にかかわらず，１年間で最大 48 単位（前期と後期の合計）までしか履修ができません。きちんと履修計画を立て，学びたい授業をじっくり選び，しっかり勉強して，確実に単位を修得する必要があります。

ただし，次の科目は単位数の上限に関係なく履修登録できます。①グローバル人材育成学習プログラム（120 頁参照）で指定されている科目（ただし 24 単位まで），②「教育相談」以外の教職科目，③学芸員

科目，④前期・後期の授業期間中以外に行われる集中講義，⑤「SIH 道場」の科目，⑥語学検定により単位が認定される科目，⑦海外の学術交流協定校へ長期留学する場合，現地で単位を修得した科目（＝総合科学部で認定された科目），⑧その他，教務委員会が認めた科目。

また，年間 30 単位以上修得し，その GPA（⑺を参照のこと）が 3.0 以上の場合，次年度は 8 単位を上限に追加して履修登録できます。

⑹ 単位と進級・卒業

授業を受け，試験に合格すると単位が与えられ，その単位の合計数によって進級や卒業が認められます。卒業するためには，大学に 4 年以上在学し，教養教育科目 35 単位以上，専門教育科目 95 単位以上，合計 130 単位以上を修得し，徳島大学語学マイレージ・プログラムについて，マイレージレベルのうちプラチナクラス，ゴールドクラス，ブロンズクラスのいずれかを有していなければなりません（進級に必要な単位数は「履修細則」の 50 頁，語学マイレージ・プログラムについては 73 頁を参照）。通常の講義形式の授業科目の場合，半期受講し試験に合格すると 2 単位が与えられます。授業科目は自分の知的関心に応じて基本的に自由に選べますが，一定の条件にしたがって履修し，進級や卒業に必要な単位をそろえる必要があります。「必修」とされている授業は必ず履修し，「選択必修」とされている授業は，そのカテゴリーの中にある複数の授業科目の中から必ず選択し所定の単位数になるように履修します。コースによって履修要件が異なりますので，所属コースの履修上の要望事項やコース別履修科目表を確認してください。

また，授業科目ごとに配当学年が定められています。たとえば配当学年が「2 年」の場合，2 年次以上の学生は履修できますが，1 年次は履修できません。ほとんどの授業は毎年開講されますが，一部，隔年開講の授業科目もあるので，計画的に履修する必要があります。

⑺ 成績の評価

授業ごとにその内容を説明するシラバス（授業概要）があります。皆さんは，シラバスを読んで学びたい授業科目を選択し，履修します。シラバスに書いてある「到達目標」に照らして，受講生の到達度が成績として示されます。成績は 100 点満点で「秀」（100 ～ 90 点），「優」（89 ～ 80 点），「良」（79 ～ 70 点），「可」（69 ～ 60 点），「不可」（59 点以下）等に区分されます。

また，成績の総合的な指標として GPA（Grade Point Average）があります。GPA には，「総合科学部 GPA」と「徳島大学標準 GPA」の 2 種類があります。

「総合科学部 GPA」は次のような仕組みです。まず，学生が履修した個別の授業科目 GP（Grade Point）を算出します。

・点数が 60 点以上の場合：GP ＝（点数評価－ 50）÷ 10

・点数が 60 点未満の場合：GP ＝ 0

つまり，100 点なら GP は 5.0，73 点なら 2.3，60 点なら 1.0，58 点なら 0 となります。不可や欠席の場合，GP は 0 です。「認定」の評価は，GP の対象外となります。GP を総合して，個人の成績の平均値 Grade Point Average（GPA）が算出されます。

・GPA ＝（科目の単位数× GP）の総和÷（履修登録した単位数の合計）

この GPA の値で個人の成績全体が客観的に示されます。

「徳島大学標準 GPA」は，基本的には「総合科学部 GPA」と同様に成績評価値を示す指標ですが，GP の計算方法が異なり，90 点以上が 4，80 ～ 89 点が 3，70 ～ 79 点が 2，60 ～ 69 点が 1，59 点以下が 0，と整数での段階評価となります。GPA はこの GP 整数値の平均値です。

「総合科学部 GPA」のほうが成績の指標としては精度が高いことから，学内の成績評価にはこちらを用います。他方，国際的に使用されるのは「徳島大学標準 GPA」の形ですので，成績証明書など学外向けの指標としては「徳島大学標準 GPA」を使用します。

正規の手続きで履修を取り消した科目は GPA に換算されませんが，履修登録したままの出席不足や試験を受けなかった場合などは GP ＝ 0 として計算されます。

⑻ 試験などにおける不正行為

試験やレポートなどにおいては，言うまでもなく不正行為をしてはいけません。定期試験等において不正行為が明らかになった場合には，懲戒処分と合わせて，当該の学期に履修した単位がすべて取り消されます。そうなると，その時点でほぼ留年が確定します。

試験における不正行為とは，以下のものをさします。①カンニング（カンニングペーパー，IT 機器，参考書または他の受験者の答案などを見ること。他の受験者から答えを知るなど）をすること，また，答えを教えたり，カンニングに協力したりすること。②使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。③試験場において，試験監督者などの指示に従わないこと。④そのほか，試験の公平性を損なう行為をすること。

また，試験以外であっても，以下のようなことは不正行為とみなされ，上記に準じて処分の対象となりえます。①単位認定にかかわるレポートの作成において，他人のレポートを写すこと，またインターネット上のホームページや著書，論文などから他人の意見やデータを盗用，剽窃（ひょうせつ）すること。②単位認定にかかわるレポートや小テストなどの代筆を行うこと，および代筆をさせること。③授業の出席確認において，不正を行うこと，および不正をさせること。

⑼ コース配属と転コース

２年次に進級すると，コースに分かれて所属します。１年次の 12 月にコースガイダンスがあり，翌１月に志望コースを決めることになります。コースの受入可能数（各コースともに 60 名）を超えた場合は，成績や面接などにもとづいて選抜が行われます。３年・４年次になると，コース内でさらにゼミ・研究室に分かれて専門的に学びます。卒業研究は，原則として，その所属するゼミ・研究室の指導教員の下で取り組みます。いずれの配属についても，自分の知的関心，適性，将来設計などをふまえてじっくり考えて決めましょう。

２年次以上で所属コースを変更したい場合は，転コース制度があり，教育上支障がない場合にのみ許可されます。転コースを希望する場合，熟慮の上，担当の教員や学務係と相談し，所定の願書を１月の定められた日までに提出します。転コースはあくまで例外的な扱いですので，所属コースは当初から慎重に選択してください。

⑽　教員免許状や各種資格

教員免許状や各種資格の取得が可能です（詳しくは「Ⅳ　教員免許状と各種資格」を参照)。教員免許状取得には多くの学生が関心を示しますが，通常の履修に加えて，卒業要件にはカウントされない教職課程の科目を履修する必要があります。近年，教職課程は厳格化されているので安易な気持ちでは教員免許は取得できません。説明会などに必ず参加し，教員養成推進委員会の担当教員にも相談してください。

2．コース毎の履修上の要望事項・履修例

学　科　名	コ　ー　ス　名	受 入 可 能 数
社会総合科学科	国　際　教　養	60　名

Ⅰ　国際教養コースとは

国際教養コースは，高度な語学力にもとづき，多様な価値観に寛容で，異なる文化背景をもつ人々とコミュニケーションをおこないながら，社会や経済のグローバル化がもたらす諸課題に主体性と幅広い視野を持って解決にあたることができる人材を育てることを目指します。

こうした異なる文化やグローバル社会の諸課題への洞察力は，海外留学などの様々な社会体験とともに，自文化や自らの住む地域への深い理解という土台があってこそ育まれます。徳島はドイツ兵捕虜による「第九」の日本初演の地として知られ，ポルトガル人作家モラエスが晩年を過ごした地であり，現代では国際展開する企業を多数有しています。このような自分の暮らす地域と世界とのつながりを認識し，地域のグローバル化によって生じる課題を解決する能力がこれからの時代には必要となるでしょう。

そこで，本コースの学生には，自ら課題を見つけ，問題を掘り下げ研究を完成させる課題解決型の教育により，グローバル化の時代の中で地に足のついた問題意識と主体性，行動力を身につけ，将来，さまざまな組織的なプロジェクトの立案，作成，運営にかかわっていくことが期待されます。

Ⅱ　教育目標

国際教養コースは，異文化および自文化を理解し多面的な思考力を可能にする「教養」，広く世界に情報発信ができ，グローバル化がもたらす地域社会の諸課題に主体的に取り組むための「コミュニケーション能力」，そして，海外留学･海外研修などの社会体験，さらにはキャンパス内外での留学生との交流を通して「異文化対応力」を育成することを目標としています。

このような教育目標を実現するために，本コースでは多様な海外留学プログラム，外国語演習科目，英語による講義科目，日本を含む世界の国や地域の特徴について学ぶ科目，そして国際理解と自文化理解のための授業科目などを段階的に配置しています。まず１年次には，基本的な調査・発表能力を養いつつ，さまざまな分野についての基礎的な知識と技能を身につけます。こうした基礎的な学力にもとづいて，２年次からは，実践力を養っていきます。とりわけ，実践的な外国語教育・体験プログラムなどで語学力とコミュニケーション能力を磨いていきます。そのうえで，3・４年次には応用力を培っていきます。短期・長期の留学や国際交流体験を通じて異文化対応能力を培いつつ，自文化理解と国際理解を深めるために，個々の関心や資質に応じて日本・アジアや欧米，その他の地域の言語や文学，文化，思想，歴史，経済，政治，社会について学んでいきます。またそれらの地域を相互に比較して学ぶこともできます。そして，ゼミナールを中心に自ら設定した問題を掘り下げ，議論を積み上げながら卒業研究にまとめていきます。

Ⅲ　履修パターン

本コースでは，こうした教育目標を実現するために次の５つの履修パターンを設けています。

1）グローバル履修パターン：豊かなコミュニケーション力，国際的視野をもって企業や諸団体の国際展開に必要とされる人材を育成する。

2）ヨーロッパ履修パターン：ヨーロッパの歴史や文化を学ぶなかで，異文化としての西洋の視点や価値観に対する理解を深め，そこから国内および国外のさまざまな現象や問題について考察し発信する能力を育成する。

3）東アジア履修パターン：東アジア地域に関する知見を高め，中国語を中心に国際社会で活躍できる人材を育成する。

4）日本語教育履修パターン：日本語・日本文学，異文化，外国語への理解を深め，国際人に求められる幅広い知識を習得することで，外国語としての日本語を教授できる人材を育成する。

5）日本文化履修パターン：国際教養を基盤としながら日本文学・日本語学を中心とする日本文化を深く理解し，修得した知見を広く発信できる人材を育成する。

主な進路としては，国際機関やNGO，外資系企業，貿易商社，グローバル展開する地元企業，外国人観光客交流支援機関，文化交流機関，さらには博物館学芸員，公務員，中学校・高等学校教員，大学院への進学が考えられます。取得可能な資格としては，中学校・高等学校教諭１種，日本語教員資格，学芸員資格などがあります。

Ⅳ　履修上の要望事項

【一般的な要望事項】

国際教養コースでは，さまざまな専門分野にわたる授業を履修することができます。これは「総合科学」を学ぶうえで重要な特徴です。ただし，しっかりとした問題意識・目的意識がないと，学習が散漫になってしまう可能性もあります。指導教員とよく相談し，履修計画を立てるようにしてください。

１年次の指導教員は，学部の教務委員・学生委員です。２年次には「コース入門講座」の担当教員が指導教員となります。３年次以降には，「演習」の担当教員が指導教員となります。

また，卒業に必要な単位を間違いなくそろえるために，この『履修の手引』と，別冊の『教養教育履修の手引』を熟読してください。

【国際教養コースでの履修の道筋】

１年次末にみなさんは国際教養コースを選択します。国際教養コースでは，みなさんが履修計画を立てる際の指針となるように上述の５つの「履修パターン」を用意しています。この５つの「履修パターン」から１つを選択し，そこに示された科目を中心に選択することで，ある領域について一貫性のある履修計画を立てることができます。

２年次初めに５つの「履修パターン」のうちの１つを仮選択し，その「履修パターン」に即して履修します。

３年次初めには，「履修パターン」を本選択します。必ずしも，２年次で仮選択した「履修パターン」と

同じパターンを選択する必要はありません。ただし，履修内容が大きく異なる「履修パターン」への変更は勧めません。

【1年次の履修】

1年次には，教養教育科目と学部共通科目，実践学習科目の授業から履修します。

1）教養教育科目

・別冊の『教養教育履修の手引』を参照して履修してください。

2）学部共通科目

・学部共通科目は，必修科目を1単位，選択必修科目Ⅰを2単位，選択必修科目Ⅱを10単位以上，合計13単位以上修得するように履修してください。

3）実践学習科目

・実践学習科目はまず，必修科目を4単位修得するように履修してください。

【2年次の履修】

2年次には，教養教育科目，学部共通科目，実践学習科目に加えて，コース入門科目とコース基礎科目，一部のコース応用科目を受講します。実践学習科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目については，自分が仮選択した「履修パターン」に提示された科目を中心に履修してください。

1）教養教育科目

・別冊の『教養教育履修の手引』を参照して履修してください。

2）学部共通科目

・学部共通科目は，選択必修科目Ⅱの残った単位分の科目を修得するように履修してください。

3）実践学習科目

・実践学習科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。選択必修科目Ⅰを8単位以上，選択必修科目Ⅱを2単位以上，1年次の必修科目と合計で14単位修得するように履修してください。なお，「総合科学実践プロジェクトJ（海外体験単位認定科目）」で4単位を修得した場合，そのうちの2単位は他コース選択科目に含めることができます。

4）コース入門科目

・コース入門科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。必修科目を2単位，選択必修科目を12単位以上，合計14単位以上修得するように履修してください。

5）コース基礎科目

・コース基礎科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。選択必須科目を12単位以上修得するように履修してください。

6）コース応用科目

・コース応用科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。

7）コース自由選択科目・他コース選択科目

・コース自由選択科目・他コース選択科目は，自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。

【３・４年次の履修】

３・４年次では，コース基礎科目，コース応用科目を中心に履修します。自分が選択した「履修パターン」に即して履修してください。コース自由選択科目や他コース選択科目については，視野を広げて自分の専門領域外も俯瞰できるように履修してください。

１）コース基礎科目

・コース基礎科目は，「履修パターン」を参考にして履修計画を立て，選択してください。

２）コース応用科目

・コース応用科目は，「履修パターン」を参考にして履修計画を立て，選択してください。

３）コース自由選択科目・他コース選択科目

・コース自由選択科目・他コース選択科目は，自分が選択した「履修パターン」を参考にして履修計画を立て，選択してください。

４）卒業研究

「演習」での指導に基づいて，卒業研究（必修）を行ってください。

【４年次進級のための語学力要件】

総合科学部では，全卒業生が，国際化の進む社会で必要な語学力を有することを保証するため，４年次に進級し，卒業研究を開始するための要件となる語学試験基準点を設けています。国際教養コース所属学生については，英語についての要件が他コース所属学生よりも高いので，下記 ACE プログラムを計画的に履修することが必要です。４年次進級のための語学力要件については，本冊子の 50 頁を熟読しておいてください。

【ACE プログラム】

国際教養コースの目標である国際的なコミュニケーション･情報発信の力， 海外での社会体験にもとづく多様な価値観への理解力，グローバル化が進む現代社会・国際経済の問題への対処能力を身につけるためには，そのためのツールとしての高度な語学力が要求されます。とくに，英語による資料調査，レポート，ディベート，交渉やプレゼンテーションの能力をつけるために，国際教養コースでは，１年次より一貫して，英語の運用能力を高めてゆくためのプログラムを用意しています。それが ACE プログラム（Academic Communications in English）です。

国際キャリアでの実務をこなすための英語力の目安としては，海外の大学での英語開講授業でのレベルが基準になります。そこで「アカデミック」（academic）というのは，「大学での授業にかかわる」という意味で，大学レベルの学習活動を行うために必要な，英語での「読む」「書く」「聞く」「話す」のコミュニケーション四技能を身につけることを目標としています。この目標は，同時に，国際教養コースの中で重要な位置づけをされている海外長期留学に必要な英語力を身につけるということも意味します。ACE プログラムで伸ばした英語力を長期留学で国際的実戦レベルまで高め，それを卒業後国際キャリアで生かしてもらうことを意図しています。

国際教養コースを選ぶことを考えている学生は１年次より Academic English Ⅰ・Ⅱを履修してください。２年次の Academic Communications Ⅰ・Ⅱにおいては，英語で行われるそれぞれ週２回の授業により，留

学先での英語で授業を受けるのに必要なレベルに到達できるようにします。同時に Extensive Reading も受講して速読力を養成してください。３年次の Advanced Academic Communications Ⅰ・Ⅱにおいては，国際キャリアで必要な英語力をつけるため，留学先で課されるのに近いレベルのライティング，プレゼンテーションの活動を行います。ACE プログラムは，修了することでTOEIC 得点にして730点以上のレベルまで英語力を高めることができるよう組まれています。

【留学による修得単位の認定】

国際教養コースに所属するみなさんの多くは，短期あるいは長期の海外留学を経験することになるでしょう。留学先で修得した単位は 40 単位まで卒業要件に算定されます。これについては，本冊子の 26 頁および46 頁を熟読しておいてください。

【履修パターンごとの履修推奨科目】

パターン名称				グローバル	東アジア	日本語教育	日本文化	ヨーロッパ
学部共通科目	必修	1	総合科学入門講座	※	※	※	※	※
	選択必修Ⅰ	2以上	科学論	○		†		○
			情報処理基礎論			○	○	
	選択必修Ⅱ	10以上	総合科学の基礎A		○	◎	◎	
			総合科学の基礎B	○	○		○	○
			総合科学の基礎C	○	○		○	○
			総合科学の基礎D					
			総合科学の基礎E					
			総合科学の基礎F		○			
			総合科学の基礎G	○	○			
			総合科学の基礎H	○	○			○
			総合科学の基礎J					
			Academic English Ⅰ	◎	○	◎	◎	◎
			Academic English Ⅱ	◎	○	◎	◎	◎
			Extensive Reading	◎			○	
実践学習科目	必修	4	キャリアプラン入門	※	※	※	※	※
			課題発見ゼミナール	※	※	※	※	※
	選択必修Ⅰ	8以上	キャリアプラン	○	○	○	○	○
			短期インターンシップ	○	○	○	○	○
			総合科学実践講義A	◎	◎	◎	◎	◎
			総合科学実践講義B					
			総合科学実践講義C	○				
			総合科学実践講義D					
			総合科学実践講義E					
			総合科学実践講義F	◎	◎	◎	◎	◎
	選択必修Ⅱ	2以上	総合科学実践プロジェクトA		○	◎	○	○
			総合科学実践プロジェクトB			○		○
			総合科学実践プロジェクトC					
			総合科学実践プロジェクトD					
			総合科学実践プロジェクトE		○			○
			総合科学実践プロジェクトF					
			総合科学実践プロジェクトG					
			総合科学実践プロジェクトH					
			総合科学実践プロジェクトJ	◎	◎	○	○	◎
コース入門科目	必修	2	コース入門講座	※	※	※	※	※
	選択必修	12以上	ジェンダー論	○	○			○
			比較宗教学	○	○			◎
			国際語としての英語	◎				○
			英語圏文学研究	○				○
			国際関係論	◎	○			○
			近現代世界の成立と展開	○	○			○
			グローバル交渉史	◎	○			○
			東アジア文化研究		◎		◎	○
			日本史研究Ⅰ				◎	
			地理学の基礎Ⅰ				○	
コース基礎科目	選択必修	12以上	日本研究Ⅰ（Japanese Studies Ⅰ）	○			○	○
			日本研究Ⅱ（Japanese Studies Ⅱ）	○			○	○
			現代日本社会論（Contemporary Japanese Society）	○			○	
			日本言語概説				◎	
			方言と社会				◎	
			日本表象文化論Ⅰ				◎	
			日本表象文化論Ⅱ				◎	
			現代アジア社会Ⅰ		○		○	
			現代アジア社会Ⅱ		○		○	
			異文化間コミュニケーション	○				○
			現代国際情勢概論（Current World Issues）	○				○
			国際ジャーナリズム	○				○
			Academic Communications Ⅰ	◎		◎	○	◎
			Academic Communications Ⅱ	◎		◎	○	◎
			実用外国語基礎演習Ⅰ		◎		○	○
			実用外国語基礎演習Ⅱ		◎		○	○
			実用中国語演習		◎		○	

			Advanced Academic Communications Ⅰ	○		○		
			Advanced Academic Communications Ⅱ	○		○		
			英語研究Ⅰ	○				
			英語研究Ⅱ	○				
			英語研究Ⅲ	○				
			カルチュラルスタディーズ	○	○	○		○
			比較社会論	○	○			○
			国際協力論	○	○			○
			平和学	○	○			○
			グローバル・ヒストリー	○	○	○		○
			ヨーロッパ史研究	○	○			○
			北米地域研究	○	○			○
			イスラーム世界研究	○	○			○
			アフリカ地域研究	○	○			○
			東アジア社会文化研究Ⅰ		◎	◎		○
			東アジア社会文化研究Ⅱ		◎	◎		○
			現代科学論研究	○				○
			環境倫理学	○				○
			芸術文化論	○		○		○
			比較文化研究	○	○	○		○
			ヨーロッパ研究	○	○			○
			ヨーロッパ文化研究	○	○			○
			応用日本語学概説		○		◎	
コース応用科目	選択必修	16以上	日本言語研究		○	◎	◎	
			日本語教授法Ⅰ		○	◎		
			日本語教授法Ⅱ		○	◎		
			日本語教育方法論Ⅰ		○	◎		
			日本語教育方法論Ⅱ		○	◎		
			日本語教材研究		○	◎		
			応用日本語学研究		○	◎	◎	
			日本文化研究Ⅰ		○	○	†	
			日本文化研究Ⅱ		○	○	†	
			書道			○		
			日本史基礎研究Ⅰ				○	
			日本史基礎研究Ⅱ				○	
			日本史研究Ⅱ		○		○	
			考古学概説		○		○	
			日本文化研究演習Ⅰ				†	
			日本文化研究演習Ⅱ				†	
			言語コミュニケーション演習Ⅰ	○				
			言語コミュニケーション演習Ⅱ	○				
			言語メディア研究演習Ⅰ	○				
			言語メディア研究演習Ⅱ	○				
			国際教養演習Ⅰ	○	○			○
			国際教養演習Ⅱ	○	○			○
			日本言語演習Ⅰ（地域言語）			○	†	
			日本言語演習Ⅱ（地域言語）			○	†	
コース自由選択科目	選択必修	10以上	「コース入門科目」,「コース基礎科目」,「コース応用科目」から選択					
			学習心理学			○		
			社会心理学					○
			認知心理学			○		
			マクロ経済学入門					○
			地域経済論	○				
			国際経済学Ⅰ	○	○			○
他コース選択科目	選択必修	10以上	国際経済学Ⅱ	○	○			
			ブランド戦略論	○				
			社会変動論		○	○		
			地域文化論Ⅰ	○	○	○	○	○
			地域文化論Ⅱ		○	○	○	
			市民活動論					○
			地域変容論					○
			美術概論				○	
卒業研究	必修	6		※	※	※	※	※
専門教育科目　合計		95以上						

必修　※　　強く推奨　◎　　推奨　○　　担当教員の指導による　†

学　科　名	コ　ー　ス　名	受入可能数
社会総合科学科	**心　身　健　康**	60　名

Ⅰ　心身健康コースとは

キーワードは「健康・心理・身体・スポーツ」です。心身健康コースでは，心と身体，および，人間を取り巻く社会環境について，心理学とスポーツ健康科学の二つの領域から学び，それぞれの専門性を高めます。また，心身相関の観点から人間の心と身体の健康を理解し，心理的支援や健康増進の面から健康社会づくりや対人支援に寄与できる人材となるための能力を身につけることを目指します。

Ⅱ　教育目標

心身健康コースでは，人間の健康な生活や社会づくりに向けた諸問題を，人間行動と社会環境という視点から広く学際的な視野に立って理解し，現実の課題と関連付けて実践的に処理する能力を身につけるための教育を目標にしています。具体的な教育目標は以下の通りです。

1）人間の心の仕組みについて心理学的に理解し，心理現象一般および心と関連する健康問題について研究および評価・支援できる能力を身につける。
2）人間の身体の仕組みと働きについて生理学や解剖学を中心に理解し，健康に関わる身体の諸問題について分析・評価できる能力を身につける。
3）人間の健康行動を生活環境・文化環境・社会環境との関連性から捉え，地域における人々の健康的な暮らしや健康維持のための取り組みを企画・経営・評価できる能力を身につける。
4）海外の健康づくり政策や健康課題を学び，グローバルな視点にたった健康社会づくりの知識を身につけ，地域における健康問題の解決に還元できる能力を身につける。

心身健康コースの授業は，心の働きとその仕組みを個人・集団・社会との関わりから探求する心理学と，健康体力づくりに関わる科学的・実践的アプローチであるスポーツ健康科学の二領域から構成されており，自分の興味にあわせてテーマごとに学ぶことができます。

知覚・認知心理学，社会・集団・家族心理学，臨床心理学概論をはじめとする心理学諸分野の講義，運動生理学，スポーツ社会学などのスポーツ健康科学諸分野の講義をとおして，基礎的な知識を体系的に学ぶとともに，心理学実験，スポーツ科学実験実習などをとおして心身健康支援のためのデータ解析の知識とスキルを習得します。また，総合科学実践講義・プロジェクトにおいて実践的な取り組みに触れるとともに，地域スポーツ文化論や心理学的支援法をとおして地域社会と心身健康との関連を学びます。さらに，社会福祉に関する科目など，その周辺諸科学の知識を身につけることによって，理論と実践の両面を兼ね備えた学際的視点から，その成果を全人的な健康増進に生かし，教育・福祉・医療などの分野で，人々の心身の健康生活を総合的に支援できる人材を養成します。

Ⅲ　履修上の要望事項

【コース入門科目・コース基礎科目について】

心身健康コースにおける基礎的な知識を習得するために，コース入門科目とコース基礎科目が開設されています。心理学とスポーツ健康科学の専門的な教育の前に，２年次で履修することが望まれます。コース入門科目は14単位以上必要で，各コースの研究目的・方法や基礎的知識を学びます。コース基礎科目は12単位以上必要で，専門領域を学ぶにあたっての基礎的知識・スキルを習得します。なお，「心身行動研究法（心理学研究法)」（コース入門科目）および「行動統計学（心理学統計法)」（コース基礎科目）は，「心身健康総合演習Ⅰ・Ⅱ」等で必要となりますので，履修してください。

【コース応用科目について】

「心身健康総合演習Ⅰ・Ⅱ」は3，４年次で履修します。ⅠからⅡへと段階的に進み，卒業研究に直接繋がっていく科目ですので，原則として同一教員の演習と卒業研究をひとまとまりで履修してください。演習の受講者調整は２年次の後期に行います。また，中学校・高等学校の「保健体育」の教員免許取得を目指す場合，スポーツ健康科学教室の教員による「心身健康総合演習」を履修してください。

その他のコース応用科目は，各自の興味や進路に合わせて選択し，心身健康総合演習と合わせて16単位以上履修します。

また，コース自由選択科目（10単位以上），および他コース選択科目（10単位以上）についても，各自の興味や進路を十分に考慮して総合的な視点から履修してください。

【取得資格について】

心身健康コースでは，次の資格取得ができます。取得を希望する場合は，第Ⅳ章（83頁~122頁）および以下の補足説明を参照し，履修計画を立ててください。

１）公認心理師（国家資格）について

公認心理師は我が国初の国家資格で，許可を受けた４年制大学および大学院において指定の科目を履修すること等で受験資格を得ることができます。心理学に関する専門的知識及び技術をもって，心理学的支援を必要とする方に適切な援助を行うこと等を通して，国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とした資格です。

２）認定心理士（(公社）日本心理学会）について

この資格は，公益社団法人日本心理学会が認定する心理学の基礎資格で，大学で心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術を修得していることを認定するものです。ただし，専門職としての職務を遂行することを想定したものではありません。

３）中学校・高等学校「保健体育」の教員免許の履修クラスについて

２年次のコース配属から，中学校・高等学校「保健体育」の教員免許の取得希望者を履修クラスに編成し，担当教員がついて履修指導します。また，応用科目における地域実習（ウェルネス・プロジェク

ト実習等）では教員免許取得のために，受け入れ先は学校関係や競技団体等に限定されます。また，履修クラスでは，２年次から３年間，保健体育教育の学生ゼミを授業以外で行い，指導実践力を高めていきます。

４）健康運動指導士養成クラスについて

２年次のコース配属から，健康運動指導士養成クラスを編成し，指導教員を置き，資格取得のためにサポートを行います。

５）日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格に関して，次のコースが承認されています。

・共通科目Ⅰ（講習免除）コース
・アシスタントマネジャー（講習免除）コース
・ジュニアスポーツ指導員（講習免除）コース

学　科　名	コ　ー　ス　名	受 入 可 能 数
社会総合科学科	**公　共　政　策**	60　名

Ⅰ　公共政策コースとは

本コースは，社会科学のうち，法律学，政治学，経済学，並びに経営学の基盤となる知識を総合的に習得した上で，現代社会が抱える様々な問題に対して，公共政策的観点から解決策を提示できる能力を身につけることを目指します。

Ⅱ　教育目標

持続可能な社会を創生することに貢献できる人材を養成するために，専門の講義，演習，実習などの履修を通じて以下のような教育目標を追求していきます。

1）法律学，政治学，経済学，経営学という社会科学の四分野をそれぞれ理解する能力の習得

2）法律学，政治学，経済学，経営学という社会科学の四分野を，総合的・融合的に理解する能力の習得

3）上記1），2）の能力を基礎として，現代社会が直面している具体的な課題に対し，公共政策的観点からの解決策を提示，実行できる能力の習得

それらの能力を習得した上，グローバル化が進む現代社会や経済などの課題に対応できるジェネラリストを養成し，公共政策的視点から問題解決策を提示できるマネジメント能力を育成する。

また本コースでは，社会科学を総合的・融合的に理解する能力を習得できるように，各分野間に単位修得上の垣根を設けておりません。さらに公共政策の基礎能力を習得できるよう，公共政策学を開講しています。

Ⅲ　履修上の要望事項

1）演習（ゼミナール）について

本コースのカリキュラムの中核は，3・4年次に開講される「演習」（ゼミナール）です。所属する演習によって専攻が確定し，原則として演習担当教員の指導の下に，専門についての学習が深められ，卒業研究が行われます。2年次後期に演習の所属が決定されますが，できるだけ早い時期にどの演習を選択するのが自分にとってふさわしいか，各関係教員と十分に相談の上，慎重に検討してください。具体的には以下の演習が開講されます。

公共政策総合演習Ⅰ：3年次配当の法律・政治・経済学系演習

公共政策総合演習Ⅱ：4年次配当の法律・政治・経済学系演習

2）卒論について

本コースでは，卒業研究（6単位）が必修となります。4年次に所属する演習の担当教員の指導の下，卒業研究（卒論）を作成します。

3）学修モデルについて

本コースでは，上記の教育目標を達成するために，標準的な学修モデルをふたつ用意しております。

① ビジネス学修モデル

ビジネス学修モデルは経済学と経営学を中心に学び，グローバル化が進む現代社会や経済などの課題に対応できるジェネラリストを養成するためのモデルであり，たとえば企業経営，少子高齢化，地域興しなどに関心を持ち，あるいは年金，財政や雇用創出などの問題に取り組みたい学生のための履修例です。この学修モデルを中心に履修する学生は，以下の分野の科目を受講することを強く推奨します。

経営学
会計学
総合科学の基礎G（経済学の基礎），ミクロ経済学
マクロ経済学入門，マクロ経済学
財政学
地域経済論
国際経済学
公共政策学
なお，演習に関しては，経済学系演習を推奨します。

② 政策学修モデル

政策学修モデルは法律学と政治学を中心に学び，公共政策的観点から問題解決策を提示し，それをマネジメントできる人材を育成するためのモデルであり，例えば政策設計のあり方，政治とメディアの関係，憲法改正などに興味を持ち，あるいは環境保護や男女平等をはじめとするさまざまな社会問題に関わる法律に取り組みたい学生のための履修例です。この学修モデルを中心に履修する学生は，以下の分野の科目を受講することを強く推奨します。

憲法
民法
商法
行政法
平和学
国際関係論
環境政策論
総合科学の基礎F（公共政策学の基礎），公共政策学
なお，演習に関しては，法律・政治学系演習を推奨します。

4）その他

教養教育科目でも法律学，政治学，経済学，経営学の授業が多数開講されています。これらの授業科目を履修しておかないと公共政策コースの専門科目として開講される科目を受講できないわけではありませんが，当然両者は関連していますので，自分の関心の分野がある程度絞れているのであれば，教養教育科目の授業でもその関心分野に沿ったテーマの授業の履修を心がけてください。

学　科　名	コ　ー　ス　名	受 入 可 能 数
社会総合科学科	**地　域　創　生**	60　名

Ⅰ　地域創生コースとは

キーワードは「まちづくり・地域づくり」です。実際のまちづくり活動に関わりながら，現代社会を，社会学，文化人類学・民俗学，地理学，都市計画，地域政策，歴史学・考古学，言語学，情報，芸術の視点で総合的・重層的に捉え，表現し，創造できる人材を養成することを目指しています。

Ⅱ　教育目標

グローバリゼーションが進行するなか，産業空洞化や経済的不均衡の拡大，過疎化，少子高齢化やコミュニティの変質，ICT（Information and Communication Technology）社会への適応など，現代の地域社会は多くの問題に直面しています。これらの問題の改善や解決に向けて，的確な判断と柔軟な発想に基づき，ICT に関する知識とスキルを身につけた文理融合型「まちづくり・地域づくり」政策を，積極的に推進する人材を養成することを目標にしています。公共政策コース開講の科目も専門科目として多く取り入れ，政策に実践的に関わる人材を育成します。

４年間の学びを通じて育てたいのは，以下に掲げる５つの能力です。

① 統計データの活用と分析（データサイエンス），GIS（地理情報システム）を用いた空間解析など，高度な社会情報処理能力（GIS 学術士）

② 地域社会の現場におけるフィールドワークを重視し，調査の企画･設計から，インタビューやアンケートの実施，報告書の作成，プレゼンテーションに至るトータルなプロセスをこなせる能力（社会調査士）

③ 地域の歴史や文化に対する基本的な知識を身につけ，郷土史や伝統行事の継承と活用に際して指導的な立場で関われる能力（学芸員）

④ 情報処理に関連する基礎的な知識と技術を身につけ，地域づくりに活用できる能力（システムエンジニア・プログラマー）

⑤ コンテンツクリエーターとして論理的な思考能力とともに，それを芸術的に表現する能力（コンテンツクリエーター）

本コース在学生には，上記のうちの少なくとも１つの能力をコアに，複数の能力を横断的に身につけてもらいたいと考えています。

Ⅲ　履修上の要望事項

【卒業研究について】

地域創生コースでは，卒業研究が必修になっています。２年次の１月に希望する指導教員を届け出て，３年次からゼミを受講し，最終的には４年次に指導教員を決定します。教員のアドバイスを参考にしながら，体系的な履修計画を心がけてください。卒業研究は，卒業論文または卒業制作のどちらかになります。卒業研究を指導する教員ごとに異なりますので，指導教員に相談してください。

【学修モデルについて】

本コースでは，それぞれ関連し合った３つの学修モデルを想定しており，それぞれのモデルの科目を体系的に受講してもらうことで，教育目標の５つの能力を身につけてもらいたいと考えています。これらの科目は，学部共通科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目にまたがっています。各自，自分なりの履修計画を立ててください。

地　域　社　会　学　修　モ　デ　ル
地域社会学修モデルは，「地域」と「調査実習」をキーワードにしています。地理学や社会学の観点から地域社会の構造を理解し，都市計画・地域政策学の観点から政策を立案できるような履修が可能となります。現地調査（フィールドワーク）に加えて，GIS や社会統計分析など，基礎的な調査に必要な手法も学ぶことができます。地方公務員となって地域づくり・まちづくりを担ってみたい方にお勧めのモデルです。このモデルを中心に履修する学生は，以下の科目を受講することを強く推奨します。

地理学の基礎Ⅰ・Ⅱ	２前後（コース入門科目）
地域政策論Ⅰ	２前（コース入門科目）
社会変動論	２前（コース入門科目）
地域計画Ⅰ	２前（コース基礎科目）
空間情報論Ⅰ	２前（コース基礎科目）
比較社会論	２後（コース応用科目）
福祉社会論	２前（コース応用科目）
まちづくり地域社会論	２後（コース入門科目）
地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

調　査　実　習　（　フ　ィ　ー　ル　ド　ワ　ー　ク　）
この学修モデルで卒業論文を執筆される方は，２年次か３年次で地域調査法と地域調査演習を通年で履修することが前提となります。「地域調査法」は調査に必要な基礎的な理論や分析手法を身につけるための授業で，「地域調査演習」はその応用と実践（フィールドワーク）にあたります。調査法と調査演習は一体として運営され，担当する教員によって特色ある内容から構成されます。GIS 学術士や社会調査士の資格を取得するには，地域調査法と地域調査演習の履修が必須となります。

地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

地域文化学修モデル

地域文化学修モデルは，「行動する文化・歴史研究」をキーワードにしています。歴史学・考古学，文化人類学・民俗学，社会言語学，地理学の観点から地域の歴史と文化を学ぶ科目から成り立っています。地域に根ざした「発展」のあり方について考え，実践するためには，その地域の歴史的な成り立ちや文化，言語について深く理解する必要があります。そのために，GIS を用いて過去の景観を復原する時空間分析の手法や，フィールドワークによる地域の文化や方言に関する調査，古文書や考古学的な資料の収集･分析･保存など多様な学びが可能です。博物館の学芸員や社会科の教員，国家・地方公務員やメディアや観光業界といった，ひろく地域ならではの歴史・文化資源の探究と活用に関わりたい方にお勧めのモデルです。この学修モデルでは，以下の科目の履修を強く推奨します。なお，卒業論文執筆については，文化人類学･民俗学と地理学では地域調査法と地域調査演習，考古学では考古学調査法と考古学調査実習，日本史学では日本史基礎研究Ⅰ又は日本史基礎研究Ⅱ，社会言語学では応用日本語学概説，日本言語研究を２年次か３年次に受講しておくことが前提となります。

日本史研究Ⅰ	２前（コース入門科目）
考古学概説	２前（コース入門科目）
日本言語概説	２前（コース基礎科目）
地域変容論	２後（コース応用科目）
地域文化論Ⅰ・Ⅱ	２後（コース応用科目）

調査実習（フィールドワーク）

この学修モデルで文化人類学･民俗学や地理学に関連した卒業論文を執筆する学生は,２年次か３年次で地域調査法と地域調査演習を通年で履修することが前提となります｡「地域調査法」は調査に必要な基礎的な理論や分析手法を身につけるための授業で,「地域調査演習」その応用と実践(フィールドワーク)にあたります｡調査法と調査演習は一体として運営され,担当する教員によって特色ある内容から構成されます。GIS 学術士や社会調査士の資格を取得するには,地域調査法と地域調査演習の履修が必須となります。

地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

情報・表現学修モデル

情報・表現学修モデルは，プログラミングやアプリ開発のような情報学とデザインや絵画表現のようなアートの融合を目指しています。情報という観点により，地域社会をネットワークやコミュニケーションの視点から分析できるようにします。プログラミングを通じて，コンピューターに自分の意図した情報処理を行わせるスキルを習得できるようになります。その上で，アートや言語といった対象に即して効果的に表現する手法を習得し，実践します。この学修モデルでは，以下の科目をまず受講しておくことを強く推奨します。

ネットワーク・アプリケーション研究	２前（コース入門科目）
情報創生プロジェクト	２前（コース基礎科目）
環境アート	２前（コース基礎科目）
メディア情報論	２後（コース応用科目）

【コース独自の教育でとれる資格】

社　会　調　査　士
社会調査士の資格取得には，社会調査士認定機構により認定されたＡ～Ｇの中から６科目を受講する必要があります（詳しくは履修の手引の社会調査士の項目を参照)。調査設計から実査･フィールドワークを通じての報告書作成といった社会調査に必要な能力が身につきます。認定科目は年度ごとに変わるので，申請の際には必ず，社会調査士認定機構の HP を参照すること。

フィールドワーク入門Ⅰ	１前（教養教育科目）
フィールドワーク入門Ⅱ	１後（教養教育科目）
情報処理基礎論	１後（学部共通科目）
社会統計学Ⅰ	２前（コース基礎科目）
社会統計学Ⅱ	２後（コース基礎科目）
地域調査法Ａ・Ｂ	２前後（コース基礎科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）

Ｇ　Ｉ　Ｓ　学　術　士
GIS 学術士の資格取得には，日本地理学会より認定されたＡ～Ｄに対応する科目を受講する必要があります（詳しくは履修の手引の GIS 学術士の項目を参照)。地理情報をコンピューターで系統的に取得・構築，管理，分析，総合，表示・伝達することに関わる能力が身につきます。対応科目は，年度ごとに多少の変動があるので，申請の際には必ず日本地理学会の GIS 学術士の HP を参照すること。

情報科学入門	１前（教養教育科目）
地理空間情報と人間社会	１前（教養教育科目）
空間情報論入門	１後（教養教育科目）
情報処理基礎論	１後（学部共通科目）
社会統計学Ⅰ	２前（コース基礎科目）
空間情報論Ⅰ	２前（コース基礎科目）
空間情報論Ⅱ	２後（コース応用科目）
地域調査演習Ａ・Ｂ	２前後（コース応用科目）
地域総合演習Ⅰ・Ⅱ	３・４前後（コース応用科目）

3．学生生活の基本事項

総合科学部では，みなさんが充実した学生生活を送ることができるように，様々な支援体制をとっています。以下では，そうした情報や学生生活を送る上での注意事項を紹介しています。よく目を通し，有意義な学生生活を送るようにしてください。

なお，学務部発行の『学生生活の手引』も併せてよく読んでおいてください。

学生への連絡方法／大学の連絡先

みなさんに対する通知や連絡（講義室の変更，試験，休講，呼び出しなど）は，すべて掲示によって伝えられます。常に所定の掲示板（教養教育については教養教育４号館１階，専門教育については総合科学部１号館学務係前および１号館西側の外）を必要に応じて確認し，主要な事項が掲載されている総合科学部のホームページ（https://www.tokushima-u.ac.jp/ias/）や，教務システムを一日に一回は必ず見るようにして，自己に不利な結果を招かないように注意してください。

大学への問い合わせや**緊急連絡**等が必要な場合には，総合科学部事務課学務係まで連絡してください。

◎総合科学部事務課学務係（総合科学部１号館西棟１階）

TEL. 088 － 656 － 7108　　FAX.088 － 656 － 9314　　E-mail：skgakumk@tokushima-u.ac.jp

学生証の交付

学生証は，本学の学生であることの証明ですから，常に携帯してください。学生証を所持していないと，講義室，研究室，図書館，情報センターなどの本学諸施設が利用できなかったり，証明書等の交付や試験が受けられない場合があります。紛失した場合には，直ちに学生証汚損（紛失）届に写真（更新する場合のみ）を添え，学務部教育支援課教務・情報係で再交付を受けてください（徳島大学学部共通細則第７条～第11条,『学生生活の手引』関係諸規則参照）。

学生支援の体制

総合科学部では，留学生・社会人・帰国生徒・編入生を含むすべての学生の大学生活を支援する体制を組織的に整えています。

授業の履修や学習等の支援については「教務委員会」，学生生活の支援については「学生委員会」，将来の進路や就職に関わる支援については「就職委員会」が中心になって担当しています。

また，それ以外の教員も含めて，各学年に担任教員を配置しています。１年次については，各コースの教務委員･学生委員のいずれかが主担任であり，「課題発見ゼミナール」の各クラス担当教員が副担任です。２年次については，所属するコースの教員のいずれかが主担任であり，そのコースの教務委員・学生委員が副担任です。３・４年次については，所属するゼミ（卒業研究のための演習）の担当教員が主担任であり，所属コースの教務委員・学生委員が副担任です。

この他，各コースに就職委員がいます。何かわからないこと，気になることがあれば，これらの教員に遠慮なく相談してください。また，どこに相談してよいかわからないときは，総合科学部事務課学務係に尋ねてください。

オフィスアワー

総合科学部の教員が，毎週決まった曜日・時間に研究室で皆さんの相談に応じています。また，相談内容によっては，専門分野の先生方を紹介しています（詳しくは，総合科学部のホームページ，シラバスおよび各教員研究室のドアの表示をご覧ください)。

キャリア支援・就職情報

将来の進路とキャリア教育

将来の進路（就職・進学）をどうするかは，学生生活で最大の課題です。就職・進学それぞれの進路には，それなりの準備と能力が求められます。早めに自分の将来設計（キャリアデザイン）を立て，その実現に向けて努力が必要になります。

総合科学部では，そうした皆さんの将来設計を支援するキャリア教育として，必修科目「キャリアプラン入門」を１年次の前期に履修することになります。この科目では，大学での学びの意義と社会との関わり方について学修するとともに，社会人基礎力（人間力・就業力）やキャリアデザイン設計について学びます。コース配属後の２年次以降も，「キャリアプラン」あるいは「短期インターンシップ」という授業科目を履修することができますので，自らの専門分野を深める中で，将来設計の一助としてください。

キャリア支援室

就職に関する情報は，キャリア支援室（教養教育４号館１階）で提供されています。ここでは，皆さんが将来の進路を考える参考になるように，全国の企業および公務員試験・教員採用試験等の情報が整理されており，必要に応じて自由に閲覧できるようになっています。

また，キャリアカウンセラーや職員が皆さんの相談に応じていますので，3・４年次のみならず１・２年次の皆さんも気軽に相談してください。なお，キャリア支援室には次のような資料等があります。

- ○企業からの求人票・企業パンフレットなど
- ○就職ガイダンスや企業説明会・業界研究セミナーの案内
- ○公務員等受験案内
- ○教員採用試験案内
- ○就職関係図書・DVD
- ○各種就職雑誌（受験ジャーナル・教職課程など）
- ○新聞（徳島新聞・日本経済新聞）
- ○卒業生の就職先一覧
- ○企業等受験報告書
- ○就職に関する情報検索のためのパソコン，プリンター　　など

就職委員会

就職については，各コースの就職委員（教員）で組織する就職委員会を中心に，企業開拓，情報収集，就職説明会・講演会，就職相談，助言指導，進路調査などにあたっています。就職委員は皆さんの進路選択へのアドバイスも行っていますので，将来設計についても積極的に相談してください。就職は人生の一大選択です。家族や指導教員，就職委員，あるいはキャリア支援室のキャリアカウンセラーや職員などともよく相談しながら，悔いのない選択をしてください。

なお，民間企業を中心とした就職ガイダンスや企業説明会，業界研究セミナー，求人紹介などは，全学組織である「キャリア支援室」を中心に実施しています。早い段階から積極的に利用し，自らの意識を高めるように心がけてください。

就活サポート室

総合科学部では独自に就活サポート室を設けており，人事担当等経験豊富なキャリアコーディネーターが，就活のアドバイスを始め，企業紹介，履歴書・エントリーシートの添削指導，企業研究，面接練習といった個人指導や，経済・雇用状況についての分析を行っています。

３年次後期になって実際の就職活動が始まってみると戸惑う人も多いのですが，ベテランのキャリアコーディネーターの助言は有益です。少しでも就職活動を有利に進めるために就活サポート室を活用してください。

また１・２年次の皆さんも，将来に向けて役立つ情報を提供しておりますので立ち寄ってください。

◎総合科学部就活サポート室（総合科学部１号館中棟３階）

TEL：088 － 656 － 7158　　E-mail：syukatu@tokushima-u.ac.jp

定期健康診断

毎年４月～５月に健康診断を実施していますので，**必ず受診してください**。また，４年次学生で就職活動などに必要な健康診断証明書は，定期健康診断受診者に対して諸証明自動発行機で発行しています。

休学および退学の手続き

１）休学の理由

次の理由により，２か月以上就学できない場合，許可されれば休学できます。休学にあたっては保護者（保証人）や指導教員と事前に十分に話し合ってください。それぞれの理由に応じて休学願のほか，カッコ内の書類が必要です。休学願は学務係で随時受け付けます。

① 疾病又は負傷（医師の診断書）
② 学資の支弁が困難な場合（理由書）
③ 災害等により修学困難と認められた場合（罹災証明書）
④ 海外の教育・研究施設において修学する場合（受入先の証明書（写））
⑤ 自主的な海外留学や長期海外生活体験のための休学（理由書及び指導教員等の意見書）
⑥ 大学院における研究を継続するために必要な期間の休学（理由書及び指導教員等の意見書）
⑦ 勤務の都合（理由書）（夜間主コース及び大学院各教育部の学生のみを対象とする）
⑧ 出産又は育児に従事する場合（母子健康手帳の写し等）
⑨ 家族の看病又は介護をする場合（理由書）
⑩ 公共的な事業に参加する場合（受入先の証明書（写））
⑪ その他，やむを得ない理由であると認められた場合（理由書及び指導教員等の意見書）

２）休学にともなう授業料の免除

休学しようとする学期の前に休学が許可されれば，当該の学期中，授業料は発生しません。そのためには学期の始まる１か月前（前期だと２月中，後期であれば８月中）までに休学願を提出してください。

学期が始まってからの休学は一部または全額の授業料が必要です。

3）退学

退学の場合は，退学願のほか，指導教員等の意見書が必要です。学務係で随時受け付けますが，学期の途中での退学の場合は授業料が発生します。学期が始まる前の退学許可を希望する場合，学期の始まる１か月前（前期だと２月中，後期であれば８月中）までに退学願を出してください。在学期間中の授業料の納付は必要です。

退学にあたっては保護者（保証人）や指導教員と事前に十分に話し合ってください。

授業料納付および授業料免除

1）授業料納付

授業料は前期（４月から９月）分を５月末日までに，後期（10 月から翌年３月）分を 11 月末日までに納入しなければなりません。

なお，申出により，前期分納入の際，窓口納付の場合は，後期分もまとめて納入することができます。

授業料の納入方法として，本学では，原則「口座振替制度」を実施しています。口座振替制度とは，指定金融機関（阿波銀行・三菱 UFJ 銀行・四国銀行・徳島大正銀行・ゆうちょ銀行）に開設された学生，保護者又は保証人名義の預金口座から，前・後期ごとに自動引落が行われる納入方法で，手数料は不要です。

■注意事項

① 授業料口座振替申込書は合格通知書に同封されています。

② 正当な理由もなく納付を怠り，催告してもなお納付しない者は，学則第 28 条第２号により除籍されます。

2）授業料免除

本学の授業料免除制度は，国の高等教育の修学支援新制度と大学独自の授業料免除制度があります。対象者や申請手続きについては，本学ホームページでご確認ください。

※申請期間等については，本学ホームページ，教務システムのお知らせ等で通知します。申請期間を過ぎてからの受付はできませんので，ご注意ください。

海外学術交流協定校等への長期交換留学および短期留学

徳島大学は海外の大学と学術交流協定を結んでおり，協定校への交換留学制度などを整えています（大学院生対象分も含む）。また，さまざまな奨学金制度もあります。ここでは概要のみを示しますので，詳細は以下に問い合わせてください。カルチャー・ラウンジ（１号館北棟２階）でも資料を閲覧できます。

・国際課留学生支援係（地域創生・国際交流会館４階，メールアドレス　ryugakuk@tokushima-u.ac.jp）
・田久保　浩　教員（英語圏の場合）h.takubo@tokushima-u.ac.jp
・荒武　達朗　教員（中国語圏の場合）aratake@tokushima-u.ac.jp

1．学術交流協定締結校への長期留学（単位取得を目的とする１学期以上の留学）

学術交流協定締結校へ交換留学をするためには，応募要件として次の３点を満たすことが必要です。希望する学生は計画的に準備をしておく必要があります。

1）グローバル人材育成学習プログラム（119 頁参照）に登録すること

2）現地使用言語の充分な能力

英　語：以下に示すいずれかの検定試験の得点以上のスコアを持っていなければ派遣候補にはなれません。また，高スコアを持っているほうが選考上有利です。

TOEIC　スコア 500，TOEFL　スコア 470

（TOEIC IP，TOEFL は ITP Level 1 を基準とする）

中国語：HSK，中国語検定試験，TECC による資格に基づいて審査をします。未取得でも応募できますが，上級，高スコアを持っているほうが有利になります。

3）応募時点での「総合科学部 GPA」2.6 以上

（2.6 未満では派遣候補になれません）

これらの条件を満たした上で，書類選考，面接により派遣が決定されますが，同時に各受入れ校の語学基準を満たさなければなりません。なお，「外国留学願」および「海外留学誓約書」は出発の 2 ヶ月前までに国際課留学生支援係に，「海外渡航届」は学務係に提出すること（短期留学の場合も提出する必要あり）。

さらに長期留学をする者は「留学に伴う履修計画書」を学務係に提出する必要があります。これには単位認定を希望する科目などの情報を書き込みます。また，留学により修得した単位の本学部での認定については，「9　留学及び外国語技能検定試験による単位認定」（46 頁）を参照してください。

・学術交流協定締結校等と使用言語

① ルンド大学（スウェーデン）（英語）
② ビショップス大学（カナダ）（英語）
③ ヴァレンシアカレッジ*（アメリカ合衆国）（英語）
④ フロリダアトランティック大学（アメリカ）（英語）
⑤ ラトヴィア大学（ラトヴィア）（英語）
⑥ ザグレブ大学（クロアチア）（英語）
⑦ ゲント大学（ベルギー）（英語）
⑧ リュブリャナ大学（スロベニア）（英語）
⑨ ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学（ベトナム）（英語）
⑩ 慶北大学校（韓国）（英語）
⑪ サビトリバイ　プーレ　プネ大学（インド）（英語）
⑫ マラヤ大学（マレーシア）（英語）
⑬ レイリア工科大学（ポルトガル）（英語）
⑭ 開南大学（台湾）（英語）（中国語）
⑮ 復旦大学（中国）（中国語）
⑯ 武漢大学（中国）（中国語）
⑰ 南京大学（中国）（中国語）
⑱ 寧波大学（中国）（中国語）
⑲ 吉林大学（中国）（中国語）

⑳　西安交通大学（中国）（中国語）

㉑　国立嘉義大学（台湾）（中国語）

㉒　育達科技大学（台湾）（中国語）

人数，締め切り時期については問い合わせてください。なお，毎年複数回，留学制度の説明会を開催します。

＊ヴァレンシアカレッジへの留学は，ディズニー・ワールド（カリフォルニア州オーランド）でのインターンシップを含みます。英語でのジョブ・インタビューに合格する必要があります。

＊協定校等へ長期留学する学生は，渡航日程の関係上，不都合があれば学部専門科目の定期試験を繰り上げて受験できる場合があります。詳しくは学務係に問い合わせてください。

2．短期留学プログラム

	プログラム	派遣先	海外研修期間	単位
1	南イリノイ大学 CESL 英語研修	アメリカ	8月中旬～9月中旬	4
2	モナッシュ大学 MULEC 英語研修	オーストラリア	8月中旬～9月中旬	4
3	クイーンズ大学　英語研修	カナダ	8月上旬～9月上旬	4
4	慶北大学校韓国文化体験研	韓国	8月上旬～中旬	2
5	復旦大学中国語研修	中国	8月上旬～下旬	4
6	US-JAPAN FORUM カリフォルニア・イノベーション研修	アメリカ	9月中旬	2
7	グレナンガ国際高校　美術・日本語教育インターンシップ	オーストラリア	8月～9月	4
8	ラトヴィア文化交流研修	ラトヴィア	9月中旬～下旬	2
9	スペイン　地域創生文化研修	スペイン	8月～9月	2
10	ディズニー・ユース・カレッジプログラム	アメリカ	8月下旬～9月中旬	2
11	開南大学での中国語／英語研修	台湾	8月中旬～下旬	2
12	寧波大学　日中文化交流研修	中国	9月中旬～下旬	2
13	台湾育達科技大学文化交流研修	台湾	9月中旬～下旬	2
14	オークランド大学 ELA　英語研修	ニュージーランド	2月中旬～3月中旬	4
15	クイーンズ大学　英語研修	カナダ	2月中旬～3月中旬	4
16	南イリノイ大学　CESL　英語研修	アメリカ	2月中旬～3月中旬	4
17	ベトナム文化体験研修	ベトナム	2月中旬～下旬	2
18	US-JAPAN FORUM グローバルプロ基礎コース	アメリカ	2月中旬～3月中旬	2
19	復旦大学中国語研修	中国	2月下旬～3月下旬	4
20	台湾育達科技大学文化交流研修	台湾	3月上旬～中旬	2
21	ポルトガル　文化交流研修	ポルトガル	3月上旬～中旬	2

・上記語学研修はいずれも「総合科学実践プロジェクト J」（44 頁）による単位認定のプログラムです。

・南イリノイ大学，モナシュ大学，オークランド大学，復旦大学，開南大学の語学研修については，教養教育院の語学科目の単位認定を受けることも可能です。（ただし，開南大学の語学研修で教養教育院の語学科目の単位に認定されるのは中国語のみです。）

・同一のプログラムについては，「総合科学実践プロジェクト J」，教養教育院科目いずれかでしか単位認

定を申請できません。

・事情により，これらのプログラムが実施されない年があります。

3．学術交流協定締結校への長期留学及び短期留学に対する援助

① JASSO（独立行政法人日本学生支援機構）奨学金

申請プログラムが採択された場合のみ。

派遣期間：31 日以上 12 ヶ月以内，月額 6 ～ 8 万円

支給実績：2017 年度～ 2019 年度

短期　73 名／長期　34 名

※新型コロナ感染症による海外渡航自粛のため，2020 年度は実績なし

2021 年度　支給可能数

短期　10 名／長期　14 名

② 「徳島大学海外留学支援制度　徳島大学アスパイア奨学金」

派遣期間：８日以上 12 ヶ月未満

奨学金額：短期（8 日以上 1 ヶ月未満）　4 万円～ 6 万円

短期（1 ヶ月以上 2 ヶ月未満）　5 万円～ 7 万円

長期（2 ヶ月以上 12 ヶ月未満）　月額 4 万円～ 6 万円

応募締切：募集要項は下記 URL を参照 インターナショナルオフィスホームページ

http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/documents_list/

支援実績：2017 年度～ 2019 年度

※新型コロナ感染症による海外渡航自粛のため，2020 年度は実績なし

短期 74 名／長期 6 名

③ 「徳島大学学生後援会」による学生の海外派遣支援助成

派遣期間：28 日以上

奨学金額：大学院生　5 万円

学部学生　3 万円　※ 1 度の派遣につき 1 回限り

応募締切：随　時

いずれも「外国留学願」を提出し，学長の許可を得る必要があります。また，本学及び他の機関から海外留学に関わる他の奨学金による給付を受ける場合は，原則として支給対象となりません。上記以外に援助が出る場合もありますので，国際課留学生支援係に問い合わせてください。

海外留学プログラムについては下記 URL を参照してください。随時新しい情報がアップされます。また，カルチャー・ラウンジでも情報を提供していますので訪問してみてください。

http://www.souka-international-tokushima-u.net

徳島大学の留学生のための奨学金制度

私費留学生が応募できる奨学金には下記のようなものがあります。

・日本学生支援機構による文部科学省外国人留学生学習奨励費
申請時期：３月末～４月初旬

・徳島大学国際教育研究交流資金による外国人留学生に対する奨学金事業
申請時期：３月～４月末頃

・各種民間財団による奨学金
詳細については国際課留学生支援係に問い合わせてください。

奨学金制度

日本学生支援機構奨学金は，経済的理由で修学が困難な優れた学生に学資の給付又は貸与される奨学金制度で，給付型奨学金及び貸与型奨学金（第一種（無利子）奨学金，第二種（有利子）奨学金）があります。学業成績が著しく不良な者は，奨学金の給付又は貸与が停止になることがあります。

これ以外にも，地方公共団体および民間奨学会による奨学金制度があります。募集等の条件は，団体により種々異なり，大学を通して応募するものと団体へ直接応募するものがあります。

奨学生の募集は教務システムや掲示により通知しますので，希望する学生は募集内容及び申請方法を確認の上，お申し込みください。(詳細は学務部発行の『学生生活の手引』を参照)。

賞罰・表彰

学業や課外活動，社会活動において高い評価を受けた学生は，「徳島大学学生表彰」を受けることがあります。また，学業・人物が優秀な学生は「康楽賞」による表彰制度もあります。一方，本学学生としての本分に反した者は，退学・停学などの懲戒処分を受ける場合があります（「徳島大学学則第 51・52 条」)。

１）徳島大学学生表彰

「徳島大学学生表彰要項」にもとづいて推薦されますが，表彰を受ける基準は次のようになっています。

① 学業その他において得られた成果が，学会又は国内外の公的機関等において表彰された者
② 全国規模のスポーツ競技会等において３位以内に入賞した者
③ 西日本大会等において優勝した者
④ 中・四国大会等において優勝した者
⑤ 四国地区大学総合体育大会（通称インカレ）において優勝した者
⑥ 文学，絵画，彫刻，音楽，演劇等の芸術・文化活動で作品・公演等が，全国規模の審査等で賞を受けた者
⑦ ボランティア活動，人命救助，犯罪または火災防止等で，国内外の公的機関等において表彰された者

２）総合科学部学生表彰

総合科学部では，学業成績（GPA）が優秀であった３年生及び４年生を「総合科学部学生表彰要項」に基づいて表彰します。

3）康楽賞

本学には，康楽会から贈られる康楽賞（学術研究と奨学金の２種類）の制度があります。いずれも，各年度の卒業年次学生に対して優先的に授与されます。募集は毎年７月頃に掲示により通知されますので，希望者は推薦書などの所定の書類を揃えて総合科学部事務課学務係へ提出してください。

康楽賞（学術研究）は人物および学業成績が優秀で，卒業研究などで優れた研究成果等をあげた者（３件）に賞状と賞金（５万円）が授与されます。応募時には研究報告書が必要です。また，康楽賞（奨学金）は学業成績が優秀で，経済的に困難である者（３名）に賞状と賞金（10万円）が授与されます。

4）徳島大学総合科学部渭水会会長賞

本学部には，同窓会である渭水会から贈られる渭水会会長賞の制度があります。渭水会会長賞は，指導教員の推薦に基づき，学業成績優秀で研究活動及び学生としての活動全般について，模範となる優れた学生（３名）に賞状と副賞（５万円）が授与されます。

5）試験などの不正行為

試験でカンニングをはじめ不正行為をした者は，徳島大学学則により懲戒処分（退学，停学，訓告）を受けます。また，当該の科目はもとより，その学期中に履修した他のすべての科目の成績が取り消されます。

不正行為とは，次の行為をいいます。

① カンニング（カンニングペーパー・IT機器・参考書・他の受験者の答案等を見ること，他人から答えを教わることなど）をすること。カンニングに協力することも不正行為です。
② 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
③ 試験場において，試験監督者等の指示に従わないこと。
④ 試験場において，他の受験者の迷惑となる行為をすること。
⑤ その他，試験の公平性を損なう行為をすること。

試験時以外に，不正行為と見なされるものとして，次のような行為があります。

① インターネット上からのコピペや文献・書籍を丸写しすること。レポートなどで，他人の書いた文章を自分が書いた文章のようにして提出するのは盗用・剽窃にあたります。他人の文章を引用，参照する際は出典を明記してください。
② 代筆や代返など他人がなりすまして出席を装うこと。

学業成績も考慮されます

授業料免除と同様に，学生交流協定締結校への留学や，奨学金・康楽賞の応募には，「学業成績が優秀」であることも条件となっています。各選考の学業成績基準は若干異なりますが，１）１年次の場合には高校の評点が3.5以上，2年次以上は標準修得単位数（２年32単位，3年64単位，4年96単位以上）を取得したうえで，２）成績が学科の同学年で上位１／２以上か，３）修得単位ごとの各科目の成績に［優５／良３／可１］の数字を乗じ，その総和を総単位数で除した成績が3.0以上であることが，一つの目安になります。

証明書や届出

各種証明書の発行や各種届の手続き・窓口は，内容によって違います。成績証明書，在学証明書，学割証，

卒業（修了）見込証明書，健康診断書などは，諸証明自動発行機（４号館１階・教育支援課）で発行されます。他の証明や届は総合科学部事務課学務係，学務部教育支援課・学生支援課（４号館１階）などに分かれますので，詳細は『学生生活の手引』で確認してください。

身上調書に記入した内容に変更があった場合は，１週間以内に学務係に届け出てください。

学部内施設の使用方法

運動場およびテニスコートの使用

⑴　使用の受付は総合科学部事務課学務係が担当しています。

⑵　使用調整のため，前期･後期に使用の希望調査（仮予約）を実施します。希望調査は「希望調査表」を学務係に提出してください。

⑶　希望調査期間等は，それぞれの学期の初めに掲示板で周知します。

⑷　「希望調査表」に基づき「使用日の仮予約」を学務係が行います。

⑸　使用責任者は，仮予約後に実際に使用する場合は必ず使用日の３日前までには，「運動場及びテニスコート使用願」を学務係に提出してください。

⑹　仮予約をしていない使用予定者は学務係で「使用状況表」を確認し，「運動場及びテニスコート使用願」を必ず提出してください。

建物・講義室などの使用および入退室

建物や部屋は夜間・休日は施錠されますが，学生証（カードキー）をかざせば開錠できます。ただし建物や部屋，学年，学科，コースなどにより入場できる条件は違いますので，掲示や説明会などで確認してください。各教室やゼミ室は空いている時間に限り利用できます。使用については，総合科学部事務課学務係まで問い合わせてください。

喫煙の禁止

キャンパス内は原則禁煙です。常三島キャンパスでは，非喫煙者の受動的喫煙による不快感を解消し，その健康被害を予防するために，建物内を全面禁煙としています。喫煙場所は生協前の憩い広場（喫煙コーナー）など指定された場所のみです。

構内の交通規制

交通事故防止のため構内では自転車，オートバイ，自動車等の車両の通行が規制されていますので，次の事を厳守してください。

１）**自転車**は自転車置場に整然と駐輪してください。通路をふさぎ歩行者の迷惑にならないように。

２）**オートバイ**

ア．学内に駐輪する場合は，登録申請が必要です。総合科学部オートバイ登録申請書を総合科学部事務課学務係へ提出してください。

イ．オートバイの構内走行は禁止しています。

ウ．オートバイは必ずオートバイ専用置場に駐輪してください。

3）自　動　車

ア．公共交通機関を利用して通学するのが原則ですが，通学距離が片道10㎞以上で，公共交通機関による通学が著しく不便である第４年次生（卒業研究受講資格者）に限り，希望すれば自動車通学が可能です。駐車許可申請書を総合科学部事務課総務係へ提出してください。選考の上，駐車許可証を発行します。なお，駐車許可証の発行は年１回で，申請時期は３月下旬～４月です。詳細は掲示で通知します。

イ．駐車許可証の交付を受けた者の駐車場は，附属図書館南側の第１駐車場です。入構時には，駐車許可証を車外から確認できるようにしてください。

ウ．休日や休業期間も含め，総合科学部構内への学生の乗り入れは原則禁止しています。

交通事故に遭ったとき

日頃から交通安全及び交通規則の遵守を心掛けてください。万一，学内外で交通事故が発生し，事故の当事者になった場合は，すみやかに以下へ届けてください。

・平　日　昼　間　　総合科学部事務課学務係　　TEL　088－656－7108

・平日夜間と休日　　セ　コ　ム　　TEL　088－655－4001

その他

エレベーターの利用は，障がいのある人，けがや病気の人，大きな荷物を持つ人などに限られます。

学生個人や団体が総合科学部の掲示板を利用したい場合は，掲示物を学務係に持参して許可を受けてください。掲示期間は１週間です。期限後は責任者が撤去してください。

Ⅱ. 規　　則　　集

1．徳島大学総合科学部規則

第１章　総則

（通則）

第１条　徳島大学総合科学部（以下「本学部」という。）に関する事項は，徳島大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか，この規則の定めるところによる。

２　学則及びこの規則に定めるもののほか，本学部に関する事項は，本学部教授会が定める。

（教育研究上の目的）

第１条の２　本学部は，人文，人間，社会，地域及び情報等の諸科学における専門知識や専門技能及び技術を身につけるとともに，専門分野の融合を図ることでグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解し，問題解決に対応し得る実践的な人材の育成を目的とし，人類の福祉と文化の向上に貢献することをめざす。

第２章　入学者選考

（入学者選考）

第２条　本学部の入学者の選考は，学則の定めるところによって行うものとする。

第３章　教育課程及び履修方法

（コース）

第３条　本学部社会総合科学科に次のコースを置く。

国際教養コース
心身健康コース
公共政策コース
地域創生コース

（コースの配属及び変更）

第４条　本学部の学生は，前条に掲げる各コースのうち，いずれか一つに所属するものとする。

２　前項のコースの配属時期は，第２年次の初めとする。

３　第１項のコースを変更しようとするときは，第２年次以降の学年末に，所定の願書を本学部長に提出しなければならない。

４　前項の願出については，教育上支障がない場合に限り選考の上，許可することがある。

（教育課程）

第４条の２　本学部の教育課程は，教養教育の授業科目（以下「教養教育科目」という。）及び専門教育の授業科目（以下「専門教育科目」という。）により編成する。

（教養教育科目の履修等）

第４条の３　教養教育科目の履修等に関することは，徳島大学教養教育履修規則（以下「教養教育履修規則」という。）の定めるところによる。

２　教養教育履修規則第５条に定める履修要件は，別表第１のとおりとする。

（専門教育科目）

第５条　専門教育科目は，学部共通科目，実践学習科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目，コース自由選択科目，他コース選択科目及び卒業研究に区分する。

２　専門教育科目及びその単位数は，別表第２のとおりとする。この場合において，コース自由選択科目は所属コースの授業科目を，他コース選択科目は所属以外のコースの授業科目を選択するものとする。

３　他の学部に属する専門教育科目は自由科目とし，これを履修することができる。

４　前項の規定により修得した単位は，20単位を超えない範囲で本学部における修得単位として認定することができる。

（履修手続）

第６条　専門教育科目を履修するためには，所定の期日までに当該専門教育科目担当教員に受講申請し，承認を受けるものとする。

第７条　第５条第３項の規定により履修するためには，本学部長を経て関係学部長の許可を得た後，当該専門教育科目担当教員に受講申請するものとする。

（進級要件）

第７条の２　上級学年に進級するためには，本学部長が別に定める要件を満たさなければならない。

（卒業研究）

第８条　卒業研究を行うには，各コースにおいて必要と認めた授業科目について，その単位を修得していなければならない。

（留学及び他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第９条　学則第27条の２の規定に基づき外国の大学又は短期大学に留学しようとする者及び第34条の２の規定に基づき他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとする者は，所定の願書を本学部長を経て学長に提出し，許可を受けなければならない。

（単位の認定）

第10条　前条の規定により許可を受けた者（以下「派遣学生」という。）が修得した単位又は学則第34条の４第１項の規定に基づき学生が休学期間中に，外国の大学若しくは短期大学において履修した授業科目について修得した単位の認定は，当該大学又は短期大学が発行する成績証明書により行う。

２　学則第34条の３第１項の規定に基づき大学以外の教育施設等において学修した授業科目について修得した単位の認定は，当該教育施設等が発行する成績証明書等により行う。

（履修報告書）

第11条　派遣学生は，履修を終えたときは，速やかに（外国の大学又は短期大学に留学する者については，帰国の日から１月以内），所定の履修報告書を本学部長を経て学長に提出しなければならない。

（外国人留学生に対する特例）

第11条の２　学則第49条の規定により入学を許可されたものに対し，日本語科目を置く。

２　日本語科目の授業科目，単位数及び履修方法については，本学部長が別に定める。

第４章　試験，卒業，教員の免許状及び学芸員の資格

（試験）

第12条　授業科目の試験は，原則として定められた試験期間に行う。ただし，演習，実験及び実習については，試験を行わないことがある。

２　授業科目の試験を受けるには，授業時間数の３分の２以上出席していなければならない。

（成績評価等）

第13条　試験及び卒業研究の成績は，100点をもって満点とし，秀（90点以上），優（80点以上），良（70点以上），可（60点以上）及び不（59点以下）の評語をもってあらわし，秀，優，良及び可を合格とし，不を不合格とする。

２　秀，優，良，可及び不の評価基準は，次の表のとおりとする。

評語	評価基準
秀	科目の到達目標を充分に達成し，極めて優秀な成果を収めている。
優	科目の到達目標を充分に達成している。
良	科目の到達目標を達成している。
可	科目の到達目標を最低限達成している。
不	科目の到達目標の項目の全て又はほとんどを達成していない。

３　前２項の規定にかかわらず，入学前の既修得単位，放送大学の修得単位，外国語技能検定試験等による単位により判定する授業科目の成績は，認の評語をもってあらわすことができるものとし，合格とする。

（追試験）

第14条　病気その他やむを得ない事情のため，定められた期日に受験できなかった者は，その学年末までに追試験を受けることができる。

（再試験）

第15条　試験を受けて合格しなかった者は，その学年末までに再試験を受けることができる。

（卒業）

第16条　本学部を卒業するためには，次の単位を修得し，徳島大学語学マイレージ・プログラムについて本学部が定める基準を満たさなければならない。

教育課程	授業科目区分	単位数
教養教育科目		35単位以上
専門教育科目	学部共通科目	13単位以上 （ただし，選択必修科目Ⅰから２単位以上必修，選択必修科目Ⅱから10単位以上必修）

	実践学習科目	14単位以上 （ただし，選択必修科目Ⅰから8単位以上必修，選択必修科目Ⅱから2単位以上必修）
	コース入門科目	14単位以上
	コース基礎科目	12単位以上
	コース応用科目	16単位以上
	コース自由選択科目	10単位以上
	他コース選択科目	10単位以上
	卒業研究	6単位
	計	95単位以上
合　　計		130単位以上

2　前項の基準については，別に定める。

（教員の免許状）

第17条　教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2　前項の単位を修得するために必要な授業科目及び履修方法については，本学部長が別に定める。

（学芸員の資格）

第17条の2　学芸員となる資格を取得しようとする者は，博物館法（昭和26年法律第285号）及び博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2　前項の単位を修得するために必要な授業科目及び履修方法については，本学部長が別に定める。

（公認心理師試験の受験資格）

第17条の3　公認心理師試験の受験資格を取得しようとする者は，公認心理師法（平成27年法律第68号）及び公認心理師法施行規則（平成29年文部科学省・厚生労働省令第3号）に定める科目の単位を修得しなければならない。

2　前項の単位を修得するために必要な授業科目及び履修方法については，本学部長が別に定める。

第5章　転学部並びに再入学及び補欠入学

（転学部）

第18条　学則第22条の3の規定により本学部に転学部を願い出た者があるときは，教育上支障がない場合に限り選考の上，許可することがある。

2　転学部を許可する時期は，入学後1年以上を経過した学年の初めとする。

3　転学部を許可した学生を在籍させる年次は，本学部教授会の議を経て定める。

4　転学部を許可した学生の既修得単位の認定は，本学部教授会の議を経て定める。

（再入学及び補欠入学）

第19条　学則第21条の5及び第22条の規定により入学した者の在学期間及び既修得単位の認定については，次のとおりとする。

⑴　在学期間は，第2年次に入学した者は6年，第3年次に入学した者は4年とする。

⑵　既修得単位の認定は，本学部教授会の議を経て定める。

別表第1

教養教育科目の履修要件

区　分	授　業　科　目	所　要　単　位　数	
教養科目群	歴　史　と　文　化	2単位	左記に加え，2単位
	人　間　と　生　命	2単位	
	生　活　と　社　会	2単位	
	自　然　と　技　術	4単位	
	ウェルネス総合演習		
創成科学科目群	グローバル科目	4単位	
	イノベーション科目	2単位	
	地　域　科　学　科　目	2単位	
基礎科目群	S　I　H　道　場	1単位	
	情　報　科　学	2単位	
外国語科目群	英　　語	8単位	
	初　修　外　国　語	4単位	
合　　計		35単位	

別表第2

専門教育科目表

学部共通科目

区　分	授　業　科　目	単　位　数
必　修　科　目	総合科学入門講座	1
選択必修科目Ⅰ	科学論	2
	情報処理基礎論	2
選択必修科目Ⅱ	総合科学の基礎A	2
	総合科学の基礎B	2
	総合科学の基礎C	2
	総合科学の基礎D	2
	総合科学の基礎E	2
	総合科学の基礎F	2
	総合科学の基礎G	2
	総合科学の基礎H	2
	総合科学の基礎J	2
	Academic English Ⅰ	2
	Academic English Ⅱ	2
	Extensive Reading	2

実践学習科目

区　分	授　業　科　目	単　位　数
必　修　科　目	キャリアプラン入門	2
	課題発見ゼミナール	2
選択必修科目Ⅰ	キャリアプラン	2
	短期インターンシップ	2
	実践力養成型インターンシップ	2
	総合科学実践講義A	2
	総合科学実践講義B	2
	総合科学実践講義C	2
	総合科学実践講義D	2
	総合科学実践講義E	2
	総合科学実践講義F	2
選択必修科目Ⅱ	総合科学実践プロジェクトA	2
	総合科学実践プロジェクトB	2
	総合科学実践プロジェクトC	2
	総合科学実践プロジェクトD	2
	総合科学実践プロジェクトE	2
	総合科学実践プロジェクトF	2
	総合科学実践プロジェクトG	2
	総合科学実践プロジェクトH	2
	総合科学実践プロジェクトJ	4

国際教養コース

コース入門科目

区　分	授　業　科　目	単　位　数
必　修　科　目	コース入門講座	2
選択必修科目	ジェンダー論	2
	比較宗教学	2
	国際語としての英語	2
	英語圏文学研究	2
	国際関係論	2
	近現代世界の成立と展開	2
	グローバル交渉史	2
	東アジア文化研究	2
	日本史研究Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅰ	2

国際教養コース

コース基礎科目

授業科目	単位数
日本研究Ⅰ（Japanese Studies Ⅰ）	2
日本研究Ⅱ（Japanese Studies Ⅱ）	2
現代日本社会論	2
日本言語概説	2
方言と社会	2
日本表象文化論Ⅰ	2
日本表象文化論Ⅱ	2
現代アジア社会Ⅰ	2
現代アジア社会Ⅱ	2
異文化間コミュニケーション	2
現代国際情勢概論	2
国際ジャーナリズム	2
Academic Communications Ⅰ	4
Academic Communications Ⅱ	4
実用外国語基礎演習Ⅰ	2
実用外国語基礎演習Ⅱ	2
実用中国語演習	4

国際教養コース

コース応用科目

授業科目	単位数
Advanced Academic Communications Ⅰ	4
Advanced Academic Communications Ⅱ	2
英語研究Ⅰ	2
英語研究Ⅱ	2
英語研究Ⅲ	2
カルチュラルスタディーズ	2
比較社会論	2
国際協力論	2
平和学	2
グローバル・ヒストリー	2
ヨーロッパ史研究	2
北米地域研究	2
イスラーム世界研究	2
アフリカ地域研究	2
東アジア社会文化研究Ⅰ	2
東アジア社会文化研究Ⅱ	2
現代科学論研究	2
環境倫理学	2
芸術文化論	2
比較文化研究	2
ヨーロッパ研究	2
ヨーロッパ文化研究	2
応用日本語学概説	2
日本言語研究	2
日本語教授法Ⅰ	2
日本語教授法Ⅱ	2
日本語教育方法論Ⅰ	2
日本語教育方法論Ⅱ	2
日本語教材研究	2
応用日本語学研究	2
日本文化研究Ⅰ	2
日本文化研究Ⅱ	2
書道	2
日本史基礎研究Ⅰ	2
日本史基礎研究Ⅱ	2
日本史研究Ⅱ	2
考古学概説	2
日本文化研究演習Ⅰ	8
日本文化研究演習Ⅱ	4
言語コミュニケーション演習Ⅰ	4
言語コミュニケーション演習Ⅱ	4
言語メディア研究演習Ⅰ	4
言語メディア研究演習Ⅱ	4
国際教養演習Ⅰ	4
国際教養演習Ⅱ	4
日本言語演習Ⅰ	8
日本言語演習Ⅱ	4

心身健康コース

コース入門科目

区分	授業科目	単位数
必修科目	コース入門講座	2
選択必修科目	心身行動研究法（心理学研究法）	2
	健康教育学	2
	健康科学の基礎	2
	健康体力科学の展開	2
	発達心理学	2
	臨床心理学概論	2
	神経・生理心理学	2
	心理学概論	2

心身健康コース

コース基礎科目

授業科目	単位数
障害者・障害児心理学	2
教育・学校心理学	2
心理学実験A	2
コーチング論	2
スポーツ心理学	2
学習・言語心理学	2
行動統計学（心理学統計法）	2
運動生理学	2
知覚・認知心理学	2
社会・集団・家族心理学	2
スポーツ社会学	2
スポーツ経営学	2

心身健康コース

コース応用科目

授業科目	単位数
心理学的支援法	2
精神疾患とその治療	2
心理学実験B	2
応用解剖生理学	2
衛生・公衆衛生学	2
コーチング論実習Ⅰ	1
コーチング論実習Ⅱ	1
コーチング論実習Ⅲ	1
コーチング論実習Ⅳ	1
コーチング論実習Ⅴ	1
コーチング論実習Ⅵ	1
コーチング論実習Ⅶ	1
コーチング論実習Ⅷ	1
地域スポーツ文化論	2
スポーツ栄養学	2
心身健康総合演習Ⅰ	4
心身健康総合演習Ⅱ	4
感情・人格心理学	2
教育相談	2
健康・医療心理学	2
スポーツマーケティング論	2
救急処置法	2
スポーツ科学実験実習	2
ウェルネス・プロジェクト実習（武道実習を含む）	2
ウェルネス・プロジェクト実習（健康増進施設実習）	2
応用生理学	2
福祉心理学	2
健康行動論	2
司法・犯罪心理学	2
産業・組織心理学	2
人体の構造と機能及び疾病	2
心理的アセスメント	2
学校保健論	2

公共政策コース

コース入門科目

区　分	授　業　科　目	単　位　数
必　修　科　目	コース入門講座	2
選択必修科目	マクロ経済学入門	2
	経営学Ⅰ	2
	憲法Ⅰ	2
	民法Ⅰ	2
	国際関係論	2
	地域政策論Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅱ	2
	まちづくり地域社会論	2

公共政策コース

コース基礎科目

授　業　科　目	単　位　数
公共政策学	2
環境政策論Ⅰ	2
行政法Ⅰ	2
商法Ⅰ	2
地域経済論	2
マクロ経済学Ⅰ	2
ミクロ経済学Ⅰ	2
財政学Ⅰ	2
国際経済学Ⅰ	2
会計学Ⅰ	2

公共政策コース

コース応用科目

授　業　科　目	単　位　数
憲法Ⅱ	2
行政法Ⅱ	2
商法Ⅱ	2
経営学Ⅱ	2
民法Ⅱ	2
民法Ⅲ	2
マクロ経済学Ⅱ	2
ミクロ経済学Ⅱ	2
国際経済学Ⅱ	2
財政学Ⅱ	2
平和学	2
環境政策論Ⅱ	2
会計学Ⅱ	2
近現代世界の成立と展開	2
グローバル・ヒストリー	2
国際協力論	2
公共政策総合演習Ⅰ	4
公共政策総合演習Ⅱ	4
知的財産の基礎と活用	2
ブランド戦略論	2
社会変動論	2
福祉社会論	2
比較社会論	2
市民活動論	2
スポーツ社会学	2
スポーツ経営学	2
スポーツマーケティング論	2
地域計画Ⅰ	2
地域計画Ⅱ	2
都市・交通計画	2
アフリカ地域研究	2
現代国際情勢概論	2
国際ジャーナリズム	2
現代アジア社会Ⅱ	2

地域創生コース

コース入門科目

区　分	授　業　科　目	単　位　数
必　修　科　目	コース入門講座	2
選択必修科目	地理学の基礎Ⅰ	2
	地理学の基礎Ⅱ	2
	社会変動論	2
	まちづくり地域社会論	2
	日本史研究Ⅰ	2
	考古学概説	2
	グローバル交渉史	2
	近現代世界の成立と展開	2
	地域政策論Ⅰ	2
	経営学Ⅰ	2
	ネットワーク・アプリケーション研究	2
	国際関係論	2
	憲法Ⅰ	2
	マクロ経済学Ⅰ	2

地域創生コース

コース基礎科目

授　業　科　目	単　位　数
社会統計学Ⅰ	2
社会統計学Ⅱ	2
行政法Ⅰ	2
C言語プログラミング	2
情報創生プロジェクト	2
環境アート	2
日本言語概説	2
空間情報論Ⅰ	2
地域調査法A	4
地域調査法B	4
地域計画Ⅰ	2
考古学調査法	2
日本史基礎研究Ⅰ	2
日本史基礎研究Ⅱ	2
東アジア社会文化研究Ⅰ	2
方言と社会	2
現代絵画論	2
写真画像保存技術概論	2

地域創生コース

コース応用科目

授　業　科　目	単　位　数
総合情報研究	2
地域文化論Ⅰ	2
福祉社会論	2
比較社会論	2
国際協力論	2
市民活動論	2
日本言語研究	2
応用日本語学研究	2
応用日本語学概説	2
地域環境論	2
地域文化論Ⅱ	2
地域構造論	2
空間情報論Ⅱ	2
地域変容論	2
地域計画Ⅱ	2
アフリカ地域研究	2
地域政策論Ⅱ	2
地域調査演習A	4
地域調査演習B	4
日本史研究Ⅱ	2
日本史基礎研究Ⅲ	2
日本史基礎研究Ⅳ	2
考古学調査演習	2
メディア表現	2
メディア情報研究	2
映像デザイン	2

アート表現基礎	2
工芸表現と技法	2
彫刻研究	2
美術概論	2
データ表現研究	2
芸術創生基礎演習	2
メディア情報論	2
日本言語演習Ⅰ	8
日本言語演習Ⅱ	4
絵画表現演習Ⅰ	4
絵画表現演習Ⅱ	4
デザイン表現演習Ⅰ	4
デザイン表現演習Ⅱ	4
メディア表現演習Ⅰ	4
メディア表現演習Ⅱ	4
メディア情報演習Ⅰ	4
メディア情報演習Ⅱ	4
情報創生演習Ⅰ	4
情報創生演習Ⅱ	4
地域総合演習Ⅰ	4
地域総合演習Ⅱ	4
スポーツ経営学	2
商法Ⅰ	2
民法Ⅰ	2
財政学Ⅰ	2
行政法Ⅱ	2
平和学	2
比較文化研究	2
スポーツ社会学	2
現代日本社会論	2
東アジア社会文化研究Ⅱ	2
グローバル・ヒストリー	2
北米地域研究	2
ヨーロッパ史研究	2
環境倫理学	2
計画の論理	2
環境を考える	2
自然災害のリスクマネジメント	2
生態系の保全	2
都市・交通計画	2
最適化論	2
データベース基礎論	2
計算機概論	2
計算機数学	2
ネットワーク論	2
制御概論	2
現象数理１	2
コンピュータ・グラフィックス基礎論	2
知的財産の基礎と活用	2
地域経済論	2

卒業研究

授業科目	単位数
卒業研究	6

2．履　修　細　則

1　授業科目の科目区分

⑴　授業科目は，教養教育科目及び専門教育科目に大別される。

⑵　専門教育科目は，学部共通科目，実践学習科目，コース入門科目，コース基礎科目，コース応用科目，コース自由選択科目，他コース選択科目，卒業研究（必修科目）とする。

2　科目区分と卒業に必要な単位数

詳しくは，16 コース別履修科目表を参照すること。

教育課程	授業科目群	授業科目名	単位数	単位数
教養教育科目	教養科目群	歴史と文化	２単位	左記に加え，２単位
		人間と生命	２単位	
		生活と社会	２単位	
		自然と技術	４単位	
		ウェルネス総合演習		
	創成科学科目群	グローバル科目	４単位	
		イノベーション科目	２単位	
		地域科学科目	２単位	
	基礎科目群	SIH 道場	１単位	
		情報科学	２単位	
	外国語科目群	英語	８単位	
		初修外国語	４単位	
教養教育科目　合　計			３５単位	
教育課程	授業科目区分	副区分	単位数	
専門教育科目	学部共通科目	必修科目	１単位	
		選択必修科目Ⅰ	２単位以上	
		選択必修科目Ⅱ	１０単位以上	
	小　計		１３単位以上	
	実践学習科目	必修科目	４単位	
		選択必修科目Ⅰ	８単位以上	
		選択必修科目Ⅱ	２単位以上	
	小　計		１４単位以上	
	コース入門科目	必修科目	２単位	
		選択必修科目	１２単位以上	
	小　計		１４単位以上	
	コース基礎科目	選択必修科目	１２単位以上	
	コース応用科目	選択必修科目	１６単位以上	
	コース自由選択科目	選択必修科目	１０単位以上	
	他コース選択科目	選択必修科目	１０単位以上	
	卒業研究	必修科目	６単位	
専門教育科目　合　計			９５単位以上	
合　計（卒業要件単位数）			１３０単位以上	

3　授業等に関する担当係及び掲示

教養教育科目に関する担当係は教育支援課教養教育係であり，関連事項は教養教育用の掲示板に掲示される。専門教育科目に関する担当係は総合科学部事務課学務係であり，関連事項は総合科学部掲示板に掲示される。

4　履修要件と履修方法

⑴　単位の定義

授業時間数と単位の関係は，徳島大学学則第 30 条の規定に基づき下表のように定められている。十分な予習及び復習をすることが，授業の理解と単位の修得のために必要となる。

単位の定義　　大学設置基準に準拠（学則第 30 条）

科　　目	1 単位の時間	内　　容
講義・演習科目	45 時間	（予習 1 時間＋授業 1 時間＋復習 1 時間）×15 回
実験・実習科目	45 時間	（予習・復習 1 時間＋授業 2 時間）×15 回
卒　業　研　究		学修の成果を評価して定める

⑵　年間の履修単位数

①　各学年において 1 年間に履修する総単位数は，原則として 48 単位を上限とする。

②　前項の規定にかかわらず，総合科学部長が教育上特別の必要があると認める場合は，上限を超えて履修登録を認めることができる。

なお，上限を超えて履修登録を認めることができる要件及び単位数は別途定める。

⑶　教養教育科目の履修要件と履修方法

教養教育科目の詳しい説明は，「教養教育履修の手引」を参照すること。

⑷　専門教育科目の履修要件と履修方法

①　学部共通科目

ア　履修科目表に従って 13 単位以上修得すること。

イ　「総合科学入門講座」は必ず修得すること。

ウ　選択必修科目Ⅰから 2 単位，選択必修科目Ⅱから 10 単位以上を必ず修得すること。

エ　学部共通科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，他コース選択科目の単位として自動的に算定する。

②　実践学習科目

ア　履修科目表に従って 14 単位以上修得すること。

イ　「キャリアプラン入門」及び「課題発見ゼミナール」は必ず修得すること。

ウ　選択必修科目Ⅰから 8 単位，選択必修科目Ⅱから 2 単位以上を必ず修得すること。

エ　「総合科学実践プロジェクト A ～ H」の履修に当たっては，関連する「総合科学実践講義 A ～ F」を必ず履修済みであること。関連する総合科学実践講義は下記のとおりとする。

総合科学実践プロジェクト	関連する総合科学実践講義
総合科学実践プロジェクトA	総合科学実践講義A，F
総合科学実践プロジェクトB	総合科学実践講義A，F

総合科学実践プロジェクトC	総合科学実践講義B
総合科学実践プロジェクトD	総合科学実践講義B
総合科学実践プロジェクトE	総合科学実践講義A，F
総合科学実践プロジェクトF	総合科学実践講義C，E
総合科学実践プロジェクトG	総合科学実践講義D
総合科学実践プロジェクトH	総合科学実践講義C，D，E

オ　「総合科学実践プロジェクトJ」は，海外体験等による単位認定科目とし，短期語学研修（英語・中国語），海外フィールドスタディ，海外キャリア実習，長期インターンシップなどの研修等において，一定の条件を満たしたと認められる場合に2単位もしくは4単位を認定する。

カ　実践学習科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，他コース選択科目の単位として自動的に算定する。

③　コース入門科目

ア　コース別履修科目表に従って14単位以上修得すること。

イ　「コース入門講座」は必ず修得すること。

ウ　選択必修科目から12単位以上を必ず修得すること。

エ　コース入門科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，コース自由選択科目の単位として自動的に算定する。

④　コース基礎科目

ア　コース別履修科目表に従って12単位以上修得すること。

イ　コース基礎科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，コース自由選択科目の単位として自動的に算定する。

⑤　コース応用科目

ア　コース別履修科目表に従って16単位以上修得すること。

イ　コース応用科目の必要単位数を超えて修得した単位数は，コース自由選択科目の単位として自動的に算定する。

⑥　コース自由選択科目

コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択し，原則として3年次以降に10単位以上履修すること。

⑦　他コース選択科目

自コース専門科目表の上記③から⑤以外の科目の中から10単位以上修得すること。

5　授業科目の配当学年

⑴　授業科目の配当学年は時間割表に記載する。

⑵　専門教育科目は，配当学年以上の学年の学生のみが履修できる。

6　受講申請

⑴　毎学期の始めに，履修しようとする科目の授業担当教員に受講申請を行わなければならない。

ただし講義室等の関係で受講者を制限する場合がある。

受講申請は，その学期に履修しようとする科目を履修登録期限までに Web 履修システムにおいて履修登録をすることにより行う。

⑵　履修登録していない科目は受講できない。

⑶　履修登録の変更について

①　履修登録確認期間中（Web 修正期間）には担当教員の承認なしで履修登録を削除することができる。

②　履修登録確認期限までは履修登録の変更は可能であるが，担当教員の承認を必要とする。

なお，本人の責に帰さない事由で承認印を得られない場合は仮提出理由書（所定様式）を学務係に提出する。

③　履修登録確認期限（履修登録修正願提出期限）を過ぎての変更はできない。

7　授業科目区分の変更

転コースをした場合は，転コース先の科目区分に従って，修得した専門教育科目の科目区分を自動的に変更する。

8　他大学（単位互換協定校），本学理工学部及び生物資源産業学部における授業科目の履修

他大学（単位互換協定校），本学理工学部及び生物資源産業学部における授業科目の履修については次のように定める。

⑴　鳴門教育大学及び放送大学の授業科目の履修を希望する学生は事前に「願書」を担当係へ提出し，許可を受けなければならない。

⑵　履修可能な授業科目名及び科目区分等は学務係で閲覧できる。

⑶　修得した成績は本学部の評価に読み替え，修得大学名または学部名を付記する。

⑷　鳴門教育大学・放送大学，本学理工学部及び生物資源産業学部で修得した単位は，合計で 20 単位まで卒業要件に算定される。

①　鳴門教育大学での履修

鳴門教育大学で修得できる単位数は，他コース選択科目又は教職に関する科目で合計 8 単位までである。なお，教職に関する科目の単位は卒業要件に算定されない。

②　放送大学での履修

ア　放送大学で修得できる単位数は，専門教育科目と教養教育科目を合わせた 12 単位まで含めることができる。ただし，教養教育科目（外国語科目を含む）は e －ラーニング科目（大学間の単位互換協定に基づく他大学開設の科目）を含めた 8 単位以下とする。

イ　放送大学の授業科目の単位数（2 単位）は本学部の 2 単位とするが，外国語及び保健体育科目の 2 単位は本学部の 1 単位とする。

ウ　放送大学の授業科目は下記の範囲内で本学部の授業科目として履修できる。

⑺　放送大学の共通科目

ⅰ）外国語科目と保健体育科目を除く基盤科目は，教養教育科目における教養科目群の授業科目として履修できる。ただし，教養教育科目の 2 つの授業科目区分（教養科目群・創成科学科目

群）からは少なくとも合計６単位分は本学の授業題目で履修すること。

ⅱ）外国語科目（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）は，教養教育の外国語科目群として履修できる。

ⅲ）保健体育科目は，教養教育科目の教養科目群（ウェルネス総合演習）として履修できる。

⑷　放送大学の専門科目

本学部の他コース選択科目として履修できる。

③　本学理工学部及び生物資源産業学部での履修

本学理工学部及び生物資源産業学部で修得した単位は８単位まで，他コース選択科目に含めることができる。

9　留学及び外国語技能検定試験による単位認定

留学により修得した成績や，外国語技能検定試験により修得した成績は，教養教育科目や本学部の専門教育科目の単位として認めることがある。教養教育科目の単位認定については，『教養教育履修の手引』に示される基準に基づいて行うものとする。

⑴　留学

留学の申請は，留学を希望する学生が，「外国留学願」に健康診断書を添えて担当係に提出することにより行うものとする。また，留学中に修得した成績を本学部の専門教育科目の単位として認定する申請は，帰国後速やかに「外国留学における成績に基づく単位認定申請書」等を学務係に提出することにより行うものとする。

①　交流協定校への留学

ア　修得した成績は審査により本学部の専門教育科目の単位として認める。

イ　修得した成績は「認定」と表記し，修得大学名を付記する。

ウ　修得した成績の科目区分は，留学時の学年及び所属するコースの科目区分に基づき判定する。

②　交流協定校以外への留学

ア　修得した成績は審査により本学部の専門教育科目の単位として認める。ただし，成績認定の申請時には留学先の大学概要・シラバス等を併せて学務係に提出し，認定可能かどうか審査を受けなければならない。この審査は出発前に受けておくのが望ましい。

イ　修得した成績は「認定」と表記し，修得大学名を付記する。

ウ　修得した成績の科目区分は，留学時の学年及び所属するコースの科目区分に基づき判定する。

③　上記①，②において認定された単位は，40 単位まで卒業要件に算定される。

④　上記①，②は本学部を休学する場合にも適用する。

⑵　外国語技能検定試験

外国語技能検定試験により修得した成績は本学部の専門教育科目の単位として審査の上認めることがある。単位の認定の申請は，学務係に所定の申請書を提出することにより行うものとする。申請の期限は，当該の試験を受験した日から２年以内とする。なお，入学前に受験した試験の結果，得られた級及び得点についても単位が認定される。下記の単位認定に際して，既に認定又は単位の修得がなされている場合は，「Academic English Ⅰ」，「Academic English Ⅱ」においては各２単位から，「Academic Communications Ⅰ」，

「Academic Communications Ⅱ」及び「Advanced Academic Communications Ⅰ」においては４単位から，既に認定及び修得された単位数の合計を差し引いた単位数を認定の上限とする。

認定基準については言語ごとに次のように定める。

① 英語

実用英語技能検定（英検）（財団法人　日本英語検定協会）

１級：「Academic English Ⅰ」２単位，「Academic English Ⅱ」２単位，
「Academic Communications Ⅰ」４単位，「Academic Communications Ⅱ」４単位
及び「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

TOEFL（国際教育交換協議会）

iBT（Internet-based Testing）90 点以上もしくは

ITP（Institutional-Testing Program）577 点以上：「Academic English Ⅰ」２単位及び
「Academic English Ⅱ」２単位

iBT（Internet-based Testing）100 点以上もしくは

ITP（Institutional-Testing Program）600 点以上：「Academic Communications Ⅰ」４単位，
「Academic Communications Ⅱ」４単位及び
「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

TOEIC（財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会）

800 点以上：「Academic English Ⅰ」２単位及び
「Academic English Ⅱ」２単位

900 点以上：「Academic Communications Ⅰ」４単位，
「Academic Communications Ⅱ」４単位及び
「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

IELTS（ブリティッシュカウンシル他　日本英語検定協会）

6.5 以上：「Academic English Ⅰ」２単位及び
「Academic English Ⅱ」２単位

7.0 以上：「Academic Communications Ⅰ」４単位，
「Academic Communications Ⅱ」４単位及び
「Advanced Academic Communications Ⅰ」４単位

※　ただし，「教養教育」の「英語」に加えて認定することができる。

② ドイツ語

ドイツ語技能検定試験（独検）（財団法人　ドイツ語学文学振興会）

３級　　：「実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）」２単位

２級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）」２単位及び
「実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）」２単位

※　ただし，いずれの場合も「教養教育」の「ドイツ語」に加えて認定することができる。

③　フランス語

実用フランス語技能検定試験（仏検）（財団法人　フランス語教育振興協会）

準２級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）」２単位及び
「実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）」２単位

※　ただし，「教養教育」の「フランス語」に加えて認定することができる。

④　中国語

中国語検定試験（日本中国語検定協会）

３級　　：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位及び
「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位

２級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位，
「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位及び
「実用中国語演習」４単位

※　ただし，「教養教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

中国政府漢語水平考試（HSK）（中国国家漢語水平考試委員会）

４級　　：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位及び
「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位

５級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位，
「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位及び
「実用中国語演習」４単位

※　ただし，「教養教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

なお，平成21年度以前に実施された旧HSKにおいて取得した級については，次のとおり認定する。

初等４級もしくは初等５級：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位及び
「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位

中等６級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」２単位，
「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」２単位及び
「実用中国語演習」４単位

※　ただし，「教養教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

10　入学前の既修得単位の認定

⑴　他大学又は本学において修得した科目の単位（科目等履修生として修得した単位を含む）は，下記に定める単位を上限として，本学部で修得した単位として認めることがある。ただし，成績は，本学で修得した場合を除き，「認定」と表記する。

⑵　本学部において修得した科目の単位（科目等履修生等として修得した単位を含む）は⑴の上限規定にかかわらず上限なしで認めることができる。

⑶　科目及び単位認定は，入学時の学年及び所属するコースの科目区分に従って，対応する科目について行う。

⑷　既修得単位の認定申請は，本学部の入学時に行わなくてはならない。

①　第１年次入学者

ア　他大学卒業者又は中途退学者の場合

㋐　教養教育科目	３０単位まで
教養科目群	８単位まで
創成科学科目群	７単位まで
基礎科目群	３単位まで
外国語科目群	１２単位まで
㋑　専門教育科目	８単位まで
合　計	３８単位まで

イ　徳島大学卒業者又は中途退学者の場合

㋐　教養教育科目	３５単位まで
教養科目群	１１単位まで
創成科学科目群	９単位まで
基礎科目群	３単位まで
外国語科目群	１２単位まで
㋑　専門教育科目	８単位まで
合　計	４３単位まで

②　第２年次入学者（転学部入学者が対象）

ア　教養教育科目

本学で修得した，あるいは認定された科目について，医療基盤科目を除きすべてそのまま認定する。

イ　専門教育科目　　６単位まで

③　第３年次入学者（転学部入学者及び補欠入学者が対象）

ア　転学部入学者の場合

㋐　教養教育科目

本学で修得した，あるいは認定された科目について，医療基盤科目を除きすべてそのまま認定する。

㋑　専門教育科目　　３８単位まで

イ　補欠入学者の場合

㋐　教養教育科目	
教養科目群	１１単位まで
創成科学科目群	９単位まで
基礎科目群	３単位まで
外国語科目群	１２単位まで
合　計	３５単位まで
㋑　専門教育科目	３８単位まで

11　進級要件及び卒業研究の受講資格

⑴　修得単位による進級要件

①　２年次に進級するためには，１年次末において教養教育科目と専門教育科目を合わせて 20 単位以上を修得していなければならない。

②　３年次に進級するためには，２年次末において教養教育科目と専門教育科目を合わせて 60 単位以上を修得していなければならない。

③　４年次に進級するためには，３年次末において教養教育科目 30 単位以上，専門教育科目 76 単位以上，合計 106 単位以上を修得していなければならない。

④　上記の専門教育科目は，徳島大学総合科学部規則第５条第２項の別表第２に掲げる専門教育科目を言う。

⑤　後期より半年以上留学する学生は，翌年４月に進級するためには，出国前にあらかじめ留学先での修得単位の認定を希望する科目を申請するとともに，２月末までに留学先での単位修得見込みを証明する文書を提出し，その修得見込みの単位数を加算した単位数が上記の進級要件を満たしていなければならない。

⑵　語学検定成績・資格取得による進級要件

４年次に進級するためには，語学検定成績・資格取得において下記要件のいずれかを満たしていなければならない。４年次に進級するために必要な語学検定の成績及び資格は，本学部入学後に受験して取得したものを用いる。

ア　英語検定等

（国際教養コース）

実用英語技能検定（英検）	２級以上
TOEFL iBT	60 点以上
TOEFL ITP	500 点以上
TOEIC	550 点以上
IELTS	5.0 以上

（心身健康コース，公共政策コース，地域創生コース）

実用英語技能検定（英検）	準２級以上
TOEFL iBT	30 点以上
TOEFL ITP	397 点以上
TOEIC	350 点以上
IELTS	3.0 以上

イ　中国語検定等

（全コース）

中国語検定	３級以上
漢語水平考試（略称 HSK，筆記・リスニング試験）	３級以上
漢語水平考試口頭試験（略称 HSK 口試，会話能力試験）	初級以上
中国語コミュニケーション能力検定（TECC）	500 以上

ウ　ドイツ語検定等

（全コース）

ドイツ語技能検定試験（独検）　　３級以上

エ　フランス語検定等

（全コース）

実用フランス語技能検定試験（仏検）　　３級以上

ただし，３年次末の進級判定時までに，上記の語学検定成績・資格取得による要件のみ満たせない場合は，４年次への仮進級を認める。４年次への仮進級を認められた者（以下，「仮進級者」）は，「Extensive Reading（仮進級者用）」を４年次に履修して単位を修得した時点，または語学検定成績・資格取得による進級要件を満たした時点で，正式に進級したものと認める。

なお，「Extensive Reading（仮進級者用）」の単位は，卒業要件単位に含めることはできない。また，３年次以前に同名称の科目「Extensive Reading（ACE プログラム）」を修得していても，それをもって「Extensive Reading（仮進級者用）」の代替とすることはできず，新たに「Extensive Reading（仮進級者用）」を履修しなければならない。

４年次への仮進級後に「Extensive Reading（仮進級者用）」の単位修得ができず，語学検定成績・資格取得による要件を満たすこともできなかった場合は，卒業が認められない。

⑶　卒業研究の受講資格

卒業研究は４年次の履修科目であり，これを受講するには，４年次への進級要件を満たしていなければならない。なお，長期留学中の４年次生は，５月末までに卒業研究の題目とともに留学中における通信指導の方法などを示す，卒業研究指導教員の指導証明書を提出しなければならない。

12　卒業の要件

本学部を卒業するには，大学に４年以上在学して，総合科学部規則の規定に従って 130 単位以上を修得し，徳島大学語学マイレージ・プログラムについて，マイレージレベルのうちプラチナクラス，ゴールドクラス，ブロンズクラスのいずれかを有していなければならない。

13　卒業研究の題目の届出及び成果の提出

⑴　卒業研究の題目は，５月末日までに指導教員の認印を得て，学務係へ提出しなければならない。

なお，卒業研究の指導教員は，総合科学部の教員であれば必ずしも所属コースの教員であることを要しない。

⑵　卒業研究の成果は，１月末日までに指導教員又は学務係へ提出しなければならない。ただし，年度を超えて留学する学生については，卒業研究の成果の提出は次年度の７月末日又は１月末日までとする。

14　学習プログラムの単位修得による証明書の発行

総合科学部で開設している学習プログラムの所定の単位を修得した場合は，そのことを証明する証明書を本学部が発行するので，希望者は所定の手続きをとること。

15　気象警報が発令された場合の休講措置

台風等により，気象警報等が徳島市に発表された場合の授業の休講措置は，次のとおりとする。

⑴　昼間に開講する授業については，午前７時に「暴風警報と大雨警報」，「暴風警報と洪水警報」，「大雪警報」（以下「警報」という。）又は特別警報（波浪特別警報を除く。以下同じ。）が発表中の場合は，午前の授業を休講とする。午前 11 時に警報又は特別警報が発表中の場合は，午後の授業を休講とする。

⑵　夜間に開講する授業については，午後４時に警報又は特別警報が発表中の場合は，すべて授業を休講とする。

⑶　授業開始後に警報が発表された場合は，次の時限以降の授業を休講とする。ただし，特別警報が発表された場合は，直ちに休講とする。

⑷　⑴から⑶に定める以外の場合又は特別な事情がある場合は，総合科学部長が措置を決定する。

⑸　⑴から⑷の措置により休講となった授業は後日に補講を行う。

⑹　上記のほか，授業の休講措置に関し必要な事項は，総合科学部長が別に定める。

16　コース別履修科目表

国際教養コース

教養教育科目	教養科目群		歴史と文化	2単位	左記に加え，2単位
			人間と生命	2単位	
			生活と社会	2単位	
			自然と技術	4単位	
			ウェルネス総合演習		
	創成科学科目群		グローバル科目	4単位	
			イノベーション科目	2単位	
			地域科学科目	2単位	
	基礎科目群		ＳＩＨ道場	1単位	
			情報科学	2単位	
	外国語科目群		英語	8単位	
			初修外国語	4単位	
	教養教育科目　計			35単位	
専門教育科目	学部共通科目	必修	総合科学入門講座	1	
			計	1単位	
		選択必修Ⅰ	科学論	2	
			情報処理基礎論	2	
			計	2単位以上	
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｊ（SDG's と地域イノベーション）	2	
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2	
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2	
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2	
			計	10単位以上	
	実践学習科目	必修	キャリアプラン入門	2	
			課題発見ゼミナール	2	
			計	4単位	
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2	
			短期インターンシップ	2	
			実践力養成型インターンシップ	2	
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2	
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2	
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2	
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2	
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2	
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論） (Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2	
			計	8単位以上	
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2	
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2	
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2	
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2	
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2	
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2	
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2	
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2	
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4	
			計	2単位以上	
	コース入門科目	必修	コース入門講座	2	
			計	2単位	
		選択必修	ジェンダー論	2	
			比較宗教学	2	
			国際語としての英語（English as an International Language）	2	
			英語圏文学研究	2	
			国際関係論（国際法を含む）	2	
			近現代世界の成立と展開	2	
			グローバル交渉史	2	
			東アジア文化研究（漢文学）	2	
			日本史研究Ⅰ	2	
			地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2	
			計	12単位以上	
	コース基礎科目	選択必修	日本研究Ⅰ（Japanese Studies Ⅰ）	2	
			日本研究Ⅱ（Japanese Studies Ⅱ）	2	
			現代日本社会論（Contemporary Japanese Society）	2	
			日本言語概説	2	
			方言と社会	2	
			日本表象文化論Ⅰ（日本古典文学）	2	
			日本表象文化論Ⅱ（日本近現代文学）	2	

専門教育科目	コース基礎科目	選択必修	現代アジア社会Ⅰ	2
			現代アジア社会Ⅱ	2
			異文化間コミュニケーション（Cross-Cultural Communication）	2
			現代国際情勢概論（Current World Issues）	2
			国際ジャーナリズム（International Journalism）	2
			Academic Communications Ⅰ（英語文章表現）	4
			Academic Communications Ⅱ（英語スピーチ＆ネゴシエーション）	4
			実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語） 実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語） 実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）	2＊
			実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語） 実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語） 実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）	2＊
			実用中国語演習	4
			計	12単位以上
	コース応用科目	選択必修	Advanced Academic Communications Ⅰ（ライティング＆ディスカッション）	4
			Advanced Academic Communications Ⅱ（論文作成＆ディベート）	2
			英語研究Ⅰ（Studies in English−Linguistic Approaches）	2
			英語研究Ⅱ（Studies in English−Phonetics）	2
			英語研究Ⅲ（Studies in English−Semantics and Pragmatics）	2
			カルチュラルスタディーズ	2
			比較社会論	2
			国際協力論	2
			平和学	2
			グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2
			ヨーロッパ史研究	2
			北米地域研究	2
			イスラーム世界研究	2
			アフリカ地域研究	2
			東アジア社会文化研究Ⅰ	2
			東アジア社会文化研究Ⅱ	2
			現代科学論研究	2
			環境倫理学	2
			芸術文化論	2
			比較文化研究	2
			ヨーロッパ研究	2
			ヨーロッパ文化研究	2
			応用日本語学概説	2
			日本言語研究	2
			日本語教授法Ⅰ	2
			日本語教授法Ⅱ	2
			日本語教育方法論Ⅰ	2
			日本語教育方法論Ⅱ	2
			日本語教材研究	2
			応用日本語学研究	2
			日本文化研究Ⅰ（日本古典文学）	2
			日本文化研究Ⅱ（日本近現代文学）	2
			書道	2
			日本史基礎研究Ⅰ	2
			日本史基礎研究Ⅱ	2
			日本史研究Ⅱ	2
			考古学概説	2
			日本文化研究演習Ⅰ（日本古典文学）	4
			日本文化研究演習Ⅰ（日本近現代文学）	4
			日本文化研究演習Ⅱ（日本古典文学） 日本文化研究演習Ⅱ（日本近現代文学）	4＊
			言語コミュニケーション演習Ⅰ（Seminar in Language and Communication Ⅰ）	4
			言語コミュニケーション演習Ⅱ（Seminar in Language and Communication Ⅱ）	4
			言語メディア研究演習Ⅰ（Seminar in Language and Media Ⅰ）	4
			言語メディア研究演習Ⅱ（Seminar in Language and Media Ⅱ）	4
			国際教養演習Ⅰ	4
			国際教養演習Ⅱ	4
			日本言語演習Ⅰ（地域言語学）	4
			日本言語演習Ⅰ（社会言語学）	4
			日本言語演習Ⅱ（地域言語学） 日本言語演習Ⅱ（社会言語学）	4＊
			計	16単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10単位以上
	卒業研究	必修		6単位
	専門教育科目　計			95単位以上
合計				130単位以上

＊2又は3科目の内，所定の単位までしか卒業に必要な単位に参入されない。

心身健康コース

教養教育科目	教養科目群		歴史と文化	2単位	左記に加え，2単位
			人間と生命	2単位	
			生活と社会	2単位	
			自然と技術	4単位	
			ウェルネス総合演習		
	創成科学科目群		グローバル科目	4単位	
			イノベーション科目	2単位	
			地域科学科目	2単位	
	基礎科目群		ＳＩＨ道場	1単位	
			情報科学	2単位	
	外国語科目群		英語	8単位	
			初修外国語	4単位	
	教養教育科目　計			35単位以上	
専門教育科目	学部共通科目	必修	総合科学入門講座	1	
			計	1単位	
		選択必修Ⅰ	科学論	2	
			情報処理基礎論	2	
			計	2単位以上	
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｊ（SDG's と地域イノベーション）	2	
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2	
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2	
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2	
			計	10単位以上	
	実践学習科目	必修	キャリアプラン入門	2	
			課題発見ゼミナール	2	
			計	4単位	
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2	
			短期インターンシップ	2	
			実践力養成型インターンシップ	2	
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2	
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2	
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2	
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2	
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2	
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論） (Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2	
			計	8単位以上	
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2	
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2	
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2	
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2	
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2	
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2	
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2	
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2	
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4	
			計	2単位以上	
	コース入門科目	必修	コース入門講座	2	
			計	2単位	
		選択必修	心身行動研究法（心理学研究法）	2	
			健康教育学（小児保健・学校安全を含む）	2	
			健康科学の基礎	2	
			健康体力科学の展開（運動学（運動方法学を含む)）	2	
			発達心理学	2	
			臨床心理学概論	2	
			神経・生理心理学	2	
			心理学概論	2	
			計	12単位以上	
	コース基礎科目	選択必修	障害者・障害児心理学	2	
			教育・学校心理学	2	
			心理学実験Ａ	2	
			コーチング論（体育原理を含む）	2	
			スポーツ心理学	2	
			学習・言語心理学	2	
			行動統計学（心理学統計法）	2	
			運動生理学	2	
			知覚・認知心理学	2	
			社会・集団・家族心理学	2	
			スポーツ社会学	2	
			スポーツ経営学	2	
			計	12単位以上	

専門教育科目	コース応用科目	選択必修	心理学的支援法	2
			精神疾患とその治療	2
			心理学実験Ｂ	2
			応用解剖生理学	2
			衛生・公衆衛生学	2
			コーチング論実習Ⅰ（器械運動）	1
			コーチング論実習Ⅱ（ダンス）	1
			コーチング論実習Ⅲ（陸上競技）	1
			コーチング論実習Ⅳ（バスケットボール）	1
			コーチング論実習Ⅴ（ソフトボール）	1
			コーチング論実習Ⅵ（水泳）	1
			コーチング論実習Ⅶ（バレーボール）	1
			コーチング論実習Ⅷ（体つくり運動）	1
			地域スポーツ文化論（体育史を含む）	2
			スポーツ栄養学（生理学を含む）	2
			心身健康総合演習Ⅰ 心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ社会学） 心身健康総合演習Ⅰ（健康体力学） 心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ心理学） 心身健康総合演習Ⅰ（応用生理学） 心身健康総合演習Ⅰ（健康教育学）	4＊
			心身健康総合演習Ⅱ	4
			感情・人格心理学	2
			教育相談	2
			健康・医療心理学	2
			スポーツマーケティング論	2
			救急処置法	2
			スポーツ科学実験実習（運動生理学を含む）	2
			ウェルネス・プロジェクト実習（武道実習を含む）	2
			ウェルネス・プロジェクト実習（健康増進施設実習）	2
			応用生理学	2
			福祉心理学	2
			健康行動論（学校安全を含む）	2
			司法・犯罪心理学	2
			産業・組織心理学	2
			人体の構造と機能及び疾病	2
			心理的アセスメント	2
			学校保健論	2
			計	16単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10単位以上
	卒業研究	必修		6単位
	専門教育科目　計			95単位以上
合計				130単位以上

＊8科目の内，所定の単位までしか卒業に必要な単位に参入されない。

公共政策コース

教養教育科目	教養科目群		歴史と文化	2単位	左記に加え，2単位
			人間と生命	2単位	
			生活と社会	2単位	
			自然と技術	4単位	
			ウェルネス総合演習		
	創成科学科目群		グローバル科目	4単位	
			イノベーション科目	2単位	
			地域科学科目	2単位	
	基礎科目群		ＳＩＨ道場	1単位	
			情報科学	2単位	
	外国語科目群		英語	8単位	
			初修外国語	4単位	
	教養教育科目　計			35単位以上	
専門教育科目	学部共通科目	必修	総合科学入門講座	1	
			計	1単位	
		選択必修Ⅰ	科学論	2	
			情報処理基礎論	2	
			計	2単位以上	
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｊ（SDG's と地域イノベーション）	2	
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2	
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2	
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2	
			計	10単位以上	
	実践学習科目	必修	キャリアプラン入門	2	
			課題発見ゼミナール	2	
			計	4単位	
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2	
			短期インターンシップ	2	
			実践力養成型インターンシップ	2	
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2	
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2	
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2	
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2	
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2	
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論）(Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2	
			計	8単位以上	
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2	
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2	
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2	
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2	
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2	
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2	
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2	
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2	
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4	
			計	2単位以上	
	コース入門科目	必修	コース入門講座	2	
			計	2単位	
		選択必修	マクロ経済学入門	2	
			経営学Ⅰ	2	
			憲法Ⅰ	2	
			民法Ⅰ	2	
			国際関係論（国際法を含む）	2	
			地域政策論Ⅰ	2	
			地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2	
			地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2	
			まちづくり地域社会論	2	
			計	12単位以上	
	コース基礎科目	選択必修	公共政策学	2	
			環境政策論Ⅰ	2	
			行政法Ⅰ	2	
			商法Ⅰ	2	
			地域経済論	2	
			マクロ経済学Ⅰ	2	
			ミクロ経済学Ⅰ	2	
			財政学Ⅰ	2	
			国際経済学Ⅰ	2	
			会計学Ⅰ	2	
			計	12単位以上	

専門教育科目	コース応用科目	選択必修	憲法Ⅱ 行政法Ⅱ 商法Ⅱ 経営学Ⅱ 民法Ⅱ 民法Ⅲ マクロ経済学Ⅱ ミクロ経済学Ⅱ 国際経済学Ⅱ 財政学Ⅱ 平和学 環境政策論Ⅱ 会計学Ⅱ 近現代世界の成立と展開 グローバル・ヒストリー（イギリス近代史） 国際協力論 公共政策総合演習Ⅰ 公共政策総合演習Ⅱ 知的財産の基礎と活用 ブランド戦略論 社会変動論 福祉社会論 比較社会論 市民活動論 スポーツ社会学 スポーツ経営学 スポーツマーケティング論 地域計画Ⅰ 地域計画Ⅱ 都市・交通計画 アフリカ地域研究 現代国際情勢概論 国際ジャーナリズム（International Journalism） 現代アジア社会Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
			計	16単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10単位以上
	卒業研究	必修		6単位
	専門教育科目　計			95単位以上
合計				130単位以上

地域創生コース

教養教育科目	教養科目群		歴史と文化	2単位	左記に加え，2単位
			人間と生命	2単位	
			生活と社会	2単位	
			自然と技術	4単位	
			ウェルネス総合演習		
	創成科学科目群		グローバル科目	4単位	
			イノベーション科目	2単位	
			地域科学科目	2単位	
	基礎科目群		ＳＩＨ道場	1単位	
			情報科学	2単位	
	外国語科目群		英語	8単位	
			初修外国語	4単位	
	教養教育科目　計			35単位以上	
専門教育科目	学部共通科目	必修	総合科学入門講座	1	
			計	1単位	
		選択必修Ⅰ	科学論	2	
			情報処理基礎論	2	
			計	2単位以上	
		選択必修Ⅱ	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｄ（スポーツ科学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2	
			総合科学の基礎Ｊ（SDG's と地域イノベーション）	2	
			Academic English Ⅰ（日本文化・時事発信型英語）	2	
			Academic English Ⅱ（４技能アカデミック英語入門）	2	
			Extensive Reading（英語文法・語彙構築プログラム）	2	
			計	10単位以上	
	実践学習科目	必修	キャリアプラン入門	2	
			課題発見ゼミナール	2	
			計	4単位	
		選択必修Ⅰ	キャリアプラン	2	
			短期インターンシップ	2	
			実践力養成型インターンシップ	2	
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2	
			総合科学実践講義Ｂ（心身健康論）	2	
			総合科学実践講義Ｃ（日本社会経済論）	2	
			総合科学実践講義Ｄ（メディアアート論）	2	
			総合科学実践講義Ｅ（地域創生論）	2	
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論）(Foundations of Integrated Arts and Sciences：F（Multicultural Society))	2	
			計	8単位以上	
		選択必修Ⅱ	総合科学実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2	
			総合科学実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2	
			総合科学実践プロジェクトＣ（心身健康維持）	2	
			総合科学実践プロジェクトＤ（心身健康問題）	2	
			総合科学実践プロジェクトＥ（国際交流・協力体験）	2	
			総合科学実践プロジェクトＦ（政策実践）	2	
			総合科学実践プロジェクトＧ（アート創生）	2	
			総合科学実践プロジェクトＨ（地域社会文化）	2	
			総合科学実践プロジェクトＪ（海外体験単位認定科目）	4	
			計	2単位以上	
	コース入門科目	必修	コース入門講座	2	
			計	2単位	
		選択必修	地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2	
			地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2	
			社会変動論	2	
			まちづくり地域社会論	2	
			日本史研究Ⅰ	2	
			考古学概説	2	
			グローバル交渉史	2	
			近現代世界の成立と展開	2	
			地域政策論Ⅰ	2	
			経営学Ⅰ	2	
			ネットワーク・アプリケーション研究	2	
			国際関係論（国際法を含む）	2	
			憲法Ⅰ	2	
			マクロ経済学Ⅰ	2	
			計	12単位以上	
	コース基礎科目	選択必修	社会統計学Ⅰ	2	
			社会統計学Ⅱ	2	
			行政法Ⅰ	2	
			Ｃ言語プログラミング（実習を含む）	2	
			情報創生プロジェクト（実習を含む）	2	

専門教育科目	コース基礎科目	選択必修	環境アート	2
			日本言語概説	2
			空間情報論Ⅰ	2
			地域調査法Ａ	4
			地域調査法Ｂ	4
			地域計画Ⅰ	2
			考古学調査法	2
			日本史基礎研究Ⅰ	2
			日本史基礎研究Ⅱ	2
			東アジア社会文化研究Ⅰ	2
			方言と社会	2
			現代絵画論	2
			写真画像保存技術概論	2
			計	12単位以上
	コース応用科目	選択必修	総合情報研究（実習を含む）	2
			地域文化論Ⅰ	2
			福祉社会論	2
			比較社会論	2
			国際協力論	2
			市民活動論	2
			日本言語研究	2
			応用日本語学研究	2
			応用日本語学概説	2
			地域環境論（自然地理学）	2
			地域文化論Ⅱ	2
			地域構造論（人文地理学）	2
			空間情報論Ⅱ	2
			地域変容論（地誌学）	2
			地域計画Ⅱ	2
			アフリカ地域研究	2
			地域政策論Ⅱ	2
			地域調査演習Ａ	4
			地域調査演習Ｂ	4
			日本史研究Ⅱ	2
			日本史基礎研究Ⅲ	2
			日本史基礎研究Ⅳ	2
			考古学調査演習	2
			メディア表現	2
			メディア情報研究（実習を含む）	2
			映像デザイン	2
			アート表現基礎	2
			工芸表現と技法	2
			彫刻研究	2
			美術概論	2
			データ表現研究	2
			芸術創生基礎演習	2
			メディア情報論	2
			日本言語演習Ⅰ（地域言語学）	4
			日本言語演習Ⅰ（社会言語学）	4
			日本言語演習Ⅱ（地域言語学）	4＊
			日本言語演習Ⅱ（社会言語学）	
			絵画表現演習Ⅰ（水性木版画）	2
			絵画表現演習Ⅰ（油性木版画）	2
			絵画表現演習Ⅱ（平面表現）	2
			絵画表現演習Ⅱ（造形表現）	2
			デザイン表現演習Ⅰ（映像とデザイン）	2
			デザイン表現演習Ⅰ（視覚伝達デザイン）	2
			デザイン表現演習Ⅱ（デザイン表現におけるテクノロジー）	2
			デザイン表現演習Ⅱ（映像メディア表現）	2
			メディア表現演習Ⅰ（メディアアート）	2
			メディア表現演習Ⅰ（インスタレーション）	2
			メディア表現演習Ⅱ（インタラクション）	2
			メディア表現演習Ⅱ（映像表現）	2
			メディア情報演習Ⅰ（バーチャルリアリティ）	2
			メディア情報演習Ⅰ（3 DCG シミュレーション）	2
			メディア情報演習Ⅱ（空間デザインへの応用）	2
			メディア情報演習Ⅱ（システム評価）	2
			情報創生演習Ⅰ（WEB アプリケーション）	2
			情報創生演習Ⅰ（オープンソース開発）	2
			情報創生演習Ⅱ（データ・マネジメント）	2
			情報創生演習Ⅱ（データ可視化）	2
			地域総合演習Ⅰ	4
			地域総合演習Ⅱ	4
			スポーツ経営学	2
			商法Ⅰ	2
			民法Ⅰ	2
			財政学Ⅰ	2

専門教育科目	コース応用科目	選択必修	行政法Ⅱ	2
			平和学	2
			比較文化研究	2
			スポーツ社会学	2
			現代日本社会論	2
			東アジア社会文化研究Ⅱ	2
			グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2
			北米地域研究	2
			ヨーロッパ史研究	2
			環境倫理学	2
			計算機概論	2
			計算機数学	2
			制御概論	2
			現象数理１	2
			最適化論	2
			データベース基礎論	2
			ネットワーク論	2
			コンピュータ・グラフィックス基礎論	2
			計画の論理	2
			都市・交通計画	2
			環境を考える	2
			自然災害のリスクマネジメント	2
			生態系の保全	2
			知的財産の基礎と活用	2
			地域経済論	2
			計	16単位以上
	コース自由選択科目	選択必修	コース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目の中から選択	
			計	10単位以上
	他コース選択科目	選択必修	自コース専門科目表のコース入門科目，コース基礎科目及びコース応用科目以外から選択	
			計	10単位以上
	卒業研究	必修		6単位
	専門教育科目　計			95単位以上
合計				130単位以上

＊２科目の内，所定の単位までしか卒業に必要な単位に参入されない。

17　教職に関する科目

授業科目	単位数
教師論	2
教育学概論	2
学習・言語心理学	2
発達心理学	2
教育の制度と経営	2
特別支援教育概論	2
教育課程論	2
国語科教育法Ⅰ	2
国語科教育法Ⅱ	2
国語科教育法Ⅲ	2
国語科教育法Ⅳ	2
社会科教育法	2
社会科・地理歴史科教育法	2
社会科・地理歴史科教育方法論	2
社会科・公民科教育法	2
社会科・公民科教育方法論	2
英語科教育法Ⅰ	2
英語科教育法Ⅱ	2
英語科教育法Ⅲ	2
英語科教育法Ⅳ	2
美術科教育法Ⅰ	2
美術科教育法Ⅱ	2
美術科教育法Ⅲ	2
美術科教育法Ⅳ	2
保健体育科教育法Ⅰ	2
保健体育科教育法Ⅱ	2
保健体育科教育法Ⅲ	2
保健体育科教育法Ⅳ	2
道徳教育	2
総合的な学習の時間の指導法	1
特別活動論	2
教育方法学	2
生徒指導論（進路指導を含む）	2
教育相談	2
教育実習事前事後指導	1
教育実習（中学）	4
教育実習（高校）	2
介護等体験	1
教職実践演習（中・高）	2

上記の科目のうち，「教育相談」「学習・言語心理学」「発達心理学」以外は進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。

18　学芸員資格に関する科目

授　業　科　目	単　位　数
生涯学習概論	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館情報・メディア論	2
博物館教育論	2
博物館実習	3

上記の科目は，進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。

19　公認心理師に関する科目

授　業　科　目	単　位　数
公認心理師の職責　＊	2
心理学概論	2
臨床心理学概論	2
心身行動研究法（心理学研究法）	2
行動統計学（心理学統計法）	2
心理学実験Ａ	2
心理学実験Ｂ	2
知覚・認知心理学	2
学習・言語心理学	2
感情・人格心理学	2
神経・生理心理学	2
社会・集団・家族心理学	2
発達心理学	2
障害者・障害児心理学	2
心理的アセスメント	2
心理学的支援法	2
健康・医療心理学	2
福祉心理学	2
教育・学校心理学	2
司法・犯罪心理学	2
産業・組織心理学	2
人体の構造と機能及び疾病	2
精神疾患とその治療	2
関係行政論　＊	2
心理演習　＊	2
心理実習　＊	2

1　上記の科目のうち，＊印の科目は進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。
2　公認心理師の受験資格（大学）は，卒業要件を満たすことにより，取得することができる。

20　日本語科目

授　業　科　目	単　位　数
日本語Ⅰ	2
日本語Ⅱ	2
日本語Ⅲ	2
日本語Ⅳ	2

上記の科目は，進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。

3．試　　験　　細　　則

1　試　　験

⑴　成績の考査の一環として学年暦に定める期間に試験（定期試験）を行う。

⑵　定期試験は，授業時間数の３分の２以上出席した者につき行う。

⑶　成績の考査を試験によらない科目は，論文，レポート，制作物の提出及び作業演習等をもって行う。

⑷　成績は，１科目につき100点をもって満点とし，60点以上をもって合格とする。

2　受 験 心 得

⑴　受講の許可を得ている科目に限り受験することができる。

⑵　遅刻した場合は，受験することができない。ただし，遅刻が20分以内で，やむを得ない理由があると監督教員が認めたときは，受験することができる。

⑶　受験の際は，学生証を携行し，机上の右上隅に置くこと。忘れた者は，学務部又は学務係で仮学生証の交付を受けること。

⑷　受験の際は，監督教員の指示に従うこと。

⑸　不正行為をした者は，徳島大学学則第52条に基づき処分される。

3　成績の通知・確認

⑴　履修科目の成績は，原則として前期・後期ともに学期内に通知する。ただし，前期の追試験・再試験及び９月に実施される集中講義等の成績は，11月上旬に通知する。

⑵　成績について疑義がある場合は，成績の通知日から１週間以内，ただし１週間後の同日が休業日である場合は，休業日明けの最初の平日までに学務係に申し出ることができる。申し出後の授業担当教員の対応に疑義がある場合は，文書により根拠を明示して学務係を通じて教務委員会に申し出ることができる。ただし，疑義の申し出ができるのは，以下の場合に限られる。

①　成績の誤記入など，明らかに授業担当教員の誤りであると思われるもの。

②　シラバスに記載されている到達目標，成績評価方法・基準などから，明らかに成績評価について疑義があると思われるもの。

⑶　成績記入は，次のとおりである。

１科目につき60点以上……合　格

不……不合格（再試験可）　　(不)……再受講（再試験不可）

欠……試験当日欠席（追試験又は再受講）　　(欠)……受験資格なし（再受講）

⑷　すべての学生は，入学時に「個別成績表の送付に係る同意書」を学務係に提出し，成績表の保証人への送付の可否について申し出ることとする。

ただし，成績表の送付を「否」とした場合でも，下記の事項に該当する場合には，保証人に成績表を送付する。

①　単位の修得状況の芳しくない者

②　進級要件又は卒業要件に満たない者

4　追　試　験

⑴　次の理由により定期検査が受けられなかった者は，「追試験」を願い出ることができる。

ア　本人の責に帰し得ない理由の場合

イ　病気の場合

願い出にあたっては，欠席の詳細な理由を記した「欠席届」，アまたはイを証明する「証明書」（医師の診断書など），「追試験願」を学務係に提出する。

「欠席届」「追試験願」の用紙は学務係で交付される。

⑵　追試験の願い出は，試験実施日から２週間以内に行うこと。ただし２週間後の同日が休業日である場合は，休業日あけの最初の平日までに行うこと。

⑶　追試験の許可は，教務委員会で審査のうえ行う。

⑷　追試験の受験を許可された者は，前期においては10月末までに，後期においては学期内に受験するものとする。

5　再　試　験

⑴　定期試験に不合格になり，かつ「再試験」の指示があった場合には，再試験を受けることができる。

⑵　再試験は，前期においては10月末までに，後期においては学期内に受験するものとする。

⑶　再試験を受験しようとするときは，学務係で願出用紙の交付を受け，当該試験の担当教員の認印を得たうえで，学務係に提出しなければならない。

⑷　願出用紙の提出は，その再試験が行われる日の前日までとする。

⑸　再試験に合格した者の成績は，１科目につき60点とする。

6　追試験・再試験成績の通知・確認

⑴　追試験・再試験の成績は，前期においては11月上旬に，後期においては学期内に学務係で本人に通知する。

⑵　通知を受けた者は，成績を確認して疑義のある場合は，成績の通知日から１週間以内，ただし１週間後の同日が休業日である場合は，休業日あけの最初の平日までに学務係まで申し出のうえ，確認すること。

4．コ　ー　ス　細　則

1　コ　ー　ス

社会総合科学科に別表に示すコースを置く。

2　コース配属及び変更

⑴　１年次学生は，コース選考についてのガイダンスを受け，学年暦によって定められた期日までに，コース志望届を提出しなければならない。

⑵　２年次以上の全学生が所属学科のいずれか一つのコースに所属しなければならない。コースへの配属は２年次の初めとする。

⑶　各コースの受入可能数は別表のとおりである。

⑷　受入可能数を超える志望者があるコースは，選抜を行う。選抜の方法は，次のうち一つまたは二つを用いる。

①成績，②面接，③筆記試験，④小論文，⑤実技

⑸　教育上支障がない場合に限り，選考の上，年度の初めにコースの変更を許可することがある。コース変更を希望する者は，２年次以降，学年暦によって定められた期日までにコース変更願を提出する。

（別表）

コ　ー　ス	受入可能数
国 際 教 養	60
心 身 健 康	60
公 共 政 策	60
地 域 創 生	60

５．徳島大学総合科学部学友会会則

（名称）

第１条　本会は，徳島大学総合科学部学友会と称し，事務所を徳島大学総合科学部内に置く。

（会員）

第２条　本会は，正会員（総合科学部）及び特別会員（総合科学部教職員）で組織する。

（目的）

第３条　本会は，学生の自治的活動を通じて，健全な学風の樹立，学生生活の向上及び将来における社会参加への準備を図ることを目的とする。

（事業）

第４条　本会は，前条の目的を達成するため，次の事業を行う。

一　学生が自治的に行う行事の企画及び実行。

二　学生のサークルに対する援助。

三　就職に関する学生の自治的活動。

四　その他本会が必要と認めた事項。

（役員）

第５条　本会に次の役員を置く。

一　会　　長　１名

二　副 会 長　１名

三　委 員 長　１名

四　副委員長　２名

五　監　　査　１名

六　幹　　事　３名

（役員の選出）

第６条　役員は，次の方法によって選出する。

一　会長は，学部長をもって充てる。

二　副会長は，学生委員会委員長をもって充てる。

三　委員長，副委員長，監査は，正会員から会長が指名する。

四　幹事は，正会員の中から委員長が委嘱する。

（役員の任務）

第７条　役員の任務は，次のとおりとする。

一　会長は，本会を代表し会務を総括する。

二　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときは，その職務を代行する。

三　委員長は，正会員の代表として本会の事業を総括する。

四　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故のあるときは，副委員長のうち１名が，その職務を代行する。

五　監査は，会計を監査する。

六　幹事は，会務を処理する。

（役員の任期）

第８条　役員の任期は，一年とし，再任を妨げない。

２　役員に欠員が生じた場合は，これを補充し，その任期は，前任者の残任期間とする。

（会議）

第９条　会長は，必要があると認めるときは，総会を招集することができる。

２　総会は，会則の改廃その他重要な事項を審議する。

３　総会の議事は，正会員の過半数の賛成によって議決し，議決にあたっては，あらかじめ作成された原案に対する委任状を認める。

（会計）

第10条　会計年度は，毎年４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

２　本会の経費は，正会員の入会金（200円），会費（4,000円），寄付金及びその他の収入をもって充てる。

３　入会金及び会費は入学時に納入する。

４　既納の入会金及び会費は返還しない。

（情報開示）

第11条　情報開示は次に従うものとする。

一　開示請求書発行は委員長のみが発行できるものとする。

二　開示請求依頼者は発行依頼を委員長に対して行う。

三　開示請求が行える学生は，総合科学部の学生に限定する。

四　開示可能な情報は，監査を受けた最新の決算のみとする。

五　開示された情報はいかなる方法によっても，コピー，複製等は行わないものとする。

6．徳島大学語学マイレージ・プログラム実施要領

平成 30 年 1 月 16 日
学長制定

（目的）

第１条　この要領は，徳島大学（以下「本学」という。）の学部教育において学生に一定水準以上の語学力，コミュニケーション力及び自己主導型学修力を身に付けさせるため，徳島大学語学マイレージ・プログラム（以下「マイレージ・プログラム」という。）の実施について必要な事項を定めるものとする。

（マイレージ・プログラム）

第２条　マイレージ・プログラムは，語学に関して，学生が修得した内容を客観的に評価する。

（対象者）

第３条　マイレージ・プログラムの対象者は，本学の学部学生とする。

（マイレージポイント）

第４条　第２条の評価は，学生が修得した内容について，次の各号に掲げる事項ごとにマイレージポイントに数値化することにより行う。

⑴　教養教育科目のうち語学教育に関し各学部が指定する授業科目の成績
⑵　専門教育科目のうち語学教育に関し各学部が指定する授業科目の成績
⑶　外国語技能検定試験の成績
⑷　教養教育院語学教育センターが実施する語学教育プログラムの履修
⑸　語学留学の実績
⑹　各学部が実施する語学教育プログラムの履修
⑺　その他本学がマイレージ・プログラムの対象として認めた事項

（マイレージレベル）

第５条　学部長は，学生に対して，取得したマイレージポイントの合計に応じて次項に定めるマイレージレベルを付与する。

２　前項のマイレージレベルの区分は，次の各号に掲げるとおりとする。

⑴　プラチナクラス
⑵　ゴールドクラス
⑶　ブロンズクラス
⑷　フリークエントクラス
⑸　ビジタークラス

（マイレージポイントの認定）

第６条　学部長は，学生が次の各号に該当する場合は，学生の申し出に基づき，修得単位及び学修をマイレージポイントとして認定することができる。

⑴　学則第 34 条の２の規定により他の大学又は短期大学において単位を修得したとき。
⑵　学則第 34 条の３の規定により大学以外の教育施設等において学修したとき。

⑶　学則第34条の４の規定により外国の大学又は短期大学において単位を修得したとき。

⑷　学則第34条の５の規定により既修得単位の認定を受けたとき。

（表彰）

第７条　学部長は，マイレージレベルが上位にある学生に対し，学部長表彰を行うことができる。

２　学部長は，第５条第２項に定めるマイレージレベルにおいてプラチナクラスを付与された学生のうちから特に優秀な成績を修めた者を，学長表彰の対象として推薦することができる。

（証明書の交付）

第８条　学部長は，学生から当該学生の語学能力について証明の願い出があったときは，別記様式により証明書を交付するものとする。

（事務）

第９条　マイレージ・プログラムに関する事務は，学務部教育支援課及び各学部事務部が行う。

（雑則）

第10条　この要領に定めるもののほか，マイレージ・プログラムの実施について必要な事項は，学部長及び教養教育院長が別に定める。

附　則

この要領は，平成30年４月１日から実施し，平成30年度入学者から適用する。ただし，歯学部歯学科の２年次に編入学する者については平成31年10月１日から，医学部保健学科及び理工学部理工学科の３年次に編入学する者並びに生物資源産業学部生物資源産業学科に入学する者については平成32年４月１日から，生物資源産業学部生物資源産業学科の２年次に編入学する者については平成33年４月１日から，それぞれ適用する。

Ⅲ. 語学マイレージ・プログラム

語学マイレージ・プログラム

1．目　　的

語学マイレージ・プログラムは，学部教育において一貫した語学教育体制を構築し，学生の目標・目的に合った語学力，コミュニケーション力・自己主導型学修力を養うことにより，十分な語学運用能力を持つ人材を育成することを目的にしています。

2．概　　要

語学マイレージ・プログラムは英語を基本としますが，英語以外の語学を専攻している学生のために，総合科学部ではドイツ語，フランス語，中国語の語学マイレージ・プログラムを用意しています。

語学マイレージ・プログラムは，

①教養教育科目の外国語科目の成績
②専門教育科目の外国語関連科目の成績
③外国語技能検定試験の成績
④教養教育院語学教育センターが実施する語学教育プログラムの履修
⑤語学留学等の実績
⑥各学部が実施する語学教育プログラムの履修
⑦その他語学マイレージ・プログラムの対象として認めた事項

からなり，それぞれの点数をマイレージポイントとして加算します。マイレージポイントの合計によってマイレージレベルがあがっていきます。語学マイレージ・プログラムについては，ブロンズクラス以上(700 ポイント以上)が卒業要件となります。**ブロンズクラスに達しない場合は卒業できないので注意してください。**

大部分の者は①～③でブロンズクラスに達するようになっていますが，それだけではブロンズクラスに達しない場合，④～⑦のプログラムを受講し，ポイントを加算することが可能です。

なお，④～⑦のプログラムは英語が苦手な人だけに提供するものではありません。積極的に選択プログラムにチャレンジし，さらに語学力の向上に努めてください。成績上位の者は，成績優秀者として学部長表彰・学長表彰の対象になりますので，就職活動等に生かすことができます。

① 教養教育科目の外国語科目の成績

外国語科目群の英語，ドイツ語，フランス語，中国語が指定されています。指定科目及びマイレージポイントの換算方法は，学部学科により異なります。

② 専門教育科目の外国語関連科目の成績

総合科学部で開講されている語学教育に関する専門教育科目のうち，数科目が指定されています。

③ 外国語技能検定試験の成績

学部によって，語学検定の種類が TOEIC-IP または TOEFL ITP のどちらかに指定されています。総合科学部の場合は入学時に選択することができ，TOEFL ITP の点数は，TOEIC-IP の点数へ換算して使用し

ます。

試験は１年次及び３年次にそれぞれ１回ずつ受験し，高得点のものを採用します。大学で一斉に実施する試験の他，在学中に個人で受験した試験の点数をマイレージポイントに認定することも可能です。在学中は何度でも高得点の成績に更新することができます。

TOEIC-IP，TOEFL ITP の他，TOEFL iBT や IELTS 等も使用できます。それぞれの換算点数は教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。

なお，総合科学部では３年次から４年次への進級要件が設定されています。詳細は 50 － 51 頁を参照。

④　語学教育センターが実施するプログラムの履修

地域創生・国際交流会館２階にある英語学習・コミュニケーションプラザ（English Learning Communication Space：通称ELCS）では，正課外に多様なワークショップやイベント等の英語プログラムを実施しています。この英語プログラムを修了することで，マイレージポイントが認定されます。

英語プログラムは事前予約制です。プログラムの日程や内容等については，語学教育センター HP（http://las.tokushima-u.com/language-education-center/）で確認してください。

⑤　語学留学等の実績

本学の指定大学が主催する語学研修を受講し，成績評価が合格に達した者に対し，各学部が語学マイレージ・プログラムで指定した教養教育科目の単位を認定するとともに，語学マイレージ・プログラムの「語学留学等」のマイレージポイントを加算します。マイレージポイントは，研修内容，研修時間数や取得した成績等及び面接により認定されます。

ただし，各学部の語学マイレージ・プログラムで指定した教養教育科目について適用し，各学部が指定していない教養教育科目については単位認定とします。

その他，指定大学以外での語学留学についても，マイレージポイントを認定することがあります。

詳しくは教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。

⑥　総合科学部が実施する語学教育プログラムの履修

総合科学部が独自に実施する語学プログラムに参加すれば，マイレージポイントが加算されます。

⑦　その他マイレージ・プログラムの対象として認めた事項

e-learning で受講できる「スーパー英語」のほか，各学部で独自の語学プログラムを用意しています。詳細は総合科学部学務係にお問い合わせください。

3. 卒業要件

卒業要件を満たすためには，各学部で定める修得単位のほか，マイレージレベルのうちブロンズクラス以上（700 ポイント以上）を取得していなければなりません。

総合科学部の学生には，４言語での語学マイレージ・プログラムを提供しています。基本は【英語】としていますが，【ドイツ語】【フランス語】【中国語】を希望する場合は，原則として２年次終了までに総合科学部学務係へ申請してください。

語学マイレージレベル（総合科学部共通）

クラス	ポイント合計	備考
プラチナクラス	1200 以上	
ゴールドクラス	1000 ～ 1199	
ブロンズクラス	700 ～ 999	700 ポイント以上が卒業要件
フリークエントクラス	600 ～ 699	
ビジタークラス	600 未満	

① 語学マイレージ・プログラム【英語】

区分／科目名等		必修／選択	ポイント	備考
教養教育科目	主題別英語	必修	120 ～ 200	注 1
	発信型英語	必修	120 ～ 200	
専門教育科目	Academic English Ⅰ	選択	60 ～ 200	注 2
	Academic English Ⅱ	選択		
	Extensive Reading	選択		
	総合科学実践講義Ｆ	選択		
	総合科学実践プロジェクトＡ	選択		
	総合科学実践プロジェクトＢ	選択		
	総合科学実践プロジェクトＥ	選択		
	現代日本社会論	選択		
外国語技能検定	TOEIC，TOEFL，実用英語技能検定又は IELTS	必修	10 ～ 990	注 3，入学時に選択
語学教育センターが実施するプログラム		選択	0 ～ 100	
語学留学等		選択	30 ～ 200	
総合科学実践プロジェクトＪのプログラム（短期プログラム）		選択	0 ～上限なし	注 4
協定校への長期留学プログラム		選択	0 ～上限なし	
その他，総合科学部が留学と認定したプログラム		選択	0 ～上限なし	
スーパー英語		選択	0 ～ 80	
高等教育研究センターが実施するプログラム		選択	0 ～上限なし	
卒業要件（ポイント合計）			700 以上	

（注１）主題別英語，発信型英語については，それぞれ２授業題目を履修することとし，１授業題目に対して 60 ～ 100 ポイントを付与する。
（注２）８科目の中から高得点の２科目まで採用する。
（注３）その他の外国語技能検定試験（英語）の成績については，TOEIC-IP 成績に換算してポイント化する。
（注４）認定単位１単位につき 25 ポイントを付与する。

② 語学マイレージ・プログラム【ドイツ語】

区分／科目名等		必修／選択	ポイント	備考
教養教育科目	ドイツ語入門Ⅰ・Ⅱ	必修	120 ～ 200	注 1
	ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ	必修	120 ～ 200	
専門教育科目	実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）	選択	60 ～ 100	
	実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）	選択	60 ～ 100	
外国語技能検定	ドイツ語技能検定試験	必修	0 ～ 950	
語学留学等		選択	30 ～ 200	
総合科学実践プロジェクトＪのプログラム（短期プログラム）		選択	0 ～上限なし	注 2
協定校への長期留学プログラム		選択	0 ～上限なし	
その他，総合科学部が留学と認定したプログラム		選択	0 ～上限なし	
卒業要件（ポイント合計）			700 以上	

（注１）ドイツ語入門Ⅰ・Ⅱ，ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱについては，それぞれ１授業題目を履修することとし，１授業題目に対して 60 ～ 100 ポイントを付与する。
（注２）認定単位１単位につき 25 ポイントを付与する。

③　語学マイレージ・プログラム【フランス語】

区分／科目名等		必修／選択	ポイント	備考
教養教育科目	フランス語入門Ⅰ・Ⅱ	必修	120 ～ 200	注１
	フランス語初級Ⅰ・Ⅱ	必修	120 ～ 200	
専門教育科目	実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）	選択	60 ～ 100	
	実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）	選択	60 ～ 100	
外国語技能検定	実用フランス語検定試験	必修	0 ～ 950	
語学留学等		選択	30 ～ 200	
総合科学実践プロジェクトＪのプログラム（短期プログラム）		選択	0～上限なし	注２
協定校への長期留学プログラム		選択	0～上限なし	
その他，総合科学部が留学と認定したプログラム		選択	0～上限なし	
卒業要件（ポイント合計）			700 以上	

（注１）フランス語入門Ⅰ・Ⅱ，フランス語初級Ⅰ・Ⅱについては，それぞれ１授業題目を履修することとし，１授業題目に対して 60 ～ 100 ポイントを付与する。
（注２）認定単位１単位につき 25 ポイントを付与する。

④　語学マイレージ・プログラム【中国語】

区分／科目名等		必修／選択	ポイント	備考
教養教育科目	中国語入門Ⅰ・Ⅱ	必修	120 ～ 200	注１
	中国語初級Ⅰ・Ⅱ	必修	120 ～ 200	
専門教育科目	実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）	選択	60 ～ 100	
	実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）	選択	60 ～ 100	
外国語技能検定	中国語検定試験	選択必修	0 ～ 950	どちらか１つを選択
	中国政府漢語水平考試(HSK)	選択必修	0 ～ 950	
語学留学等		選択	30 ～ 200	
総合科学実践プロジェクトＪのプログラム（短期プログラム）		選択	0～上限なし	注２
協定校への長期留学プログラム		選択	0～上限なし	
その他，総合科学部が留学と認定したプログラム		選択	0～上限なし	
卒業要件（ポイント合計）			700 以上	

（注１）中国語入門Ⅰ・Ⅱ，中国語初級Ⅰ・Ⅱについては，それぞれ１授業題目を履修することとし，１授業題目に対して 60 ～ 100 ポイントを付与する。
（注２）認定単位１単位につき 25 ポイントを付与する。

４．特別な単位認定に伴うマイレージポイントの認定

次の⑴～⑷の方法により教養教育科目の単位を認定した場合，併せてマイレージポイントも認定します。原則として，単位認定と併せてマイレージポイントを認定しますので，マイレージポイントのみの認定はありません。

また，単位認定された科目であっても，各学部で語学マイレージ・プログラムとして指定していない科目については，マイレージポイントの認定はありません。

⑴　入学前の既修得単位

本学入学前に単位を修得した大学・短期大学等の成績により，本学の教養教育科目の単位として認定するとともに，以下のとおりマイレージポイントを認定します。徳島大学の卒業生・中途退学者については，在学中に修得した点数がそのままマイレージポイントとなります。

① 大学又は短期大学等を卒業あるいは中途退学した者で，新たに第１年次に入学した者

入学前に修得した成績評価	マイレージポイント
秀（Ⓐ）	95
秀（Ⓐ）の定めがない場合の優（A）	90
秀（Ⓐ）の定めがある場合の優（A）	85
良（B）	75
可（C）	65
認定	70 又は面接により評価し 60 ～ 100 ポイントを認定する場合もある

② 編入学，補欠入学した者

①の取扱いに準じてマイレージポイントを認定します。

③ 本学の学生で転学部，転学科を許可された者

転学部（転学科）前に修得したマイレージポイントを，転学後の学部（学科）が指定する換算表に基づき再度付与します。

⑵ 放送大学で修得した単位の認定

本学在学中に放送大学で修得した単位を教養教育科目として単位認定するとともに，以下のとおりマイレージポイントを認定します。

放送大学の成績評価	マイレージポイント
Ⓐ	95
A	85
B	75
C	65

⑶ 外国語技能検定試験による単位認定

本学在学中に受験して取得した外国語技能検定試験の成績により，単位認定をした場合，以下の通りその科目の単位に加えてマイレージポイントを別途認定します。なおこの場合，単位認定に使用した外国語技能検定試験は，本項「２　概要」の③「外国語検定試験」としてのマイレージポイントにはなりません。

① 英語

検定試験の種類	評価等	単位認定	マイレージポイント認定（1授業題目につき）	備考
実用英語技能検定（英検）（公益財団法人　日本英語検定協会）	1級	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	95	
		発信型英語2単位	95	
	準1級	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	90	
TOEFL iBT（国際教育交換協議会）	100点以上	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	95	
		発信型英語2単位	95	
	80～99点	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	90	
TOEFL PBT TOEFL ITP（Level 1）（国際教育交換協議会）	600点以上	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	95	
		発信型英語2単位	95	
	550～599点	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	90	
TOEIC（一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会）	870点以上	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	95	
		発信型英語2単位	95	
	730～869点	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	90	
IELTS（Academic）（公益財団法人　日本英語検定協会，ブリティッシュ・カウンシル）	7以上	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	95	
		発信型英語2単位	95	
	6～6.5	基盤英語　2単位	なし	
		主題別英語2単位	90	

② ドイツ語

検定試験の種類	評価等	単位認定	マイレージポイント認定（1授業題目につき）	備考
ドイツ語技能検定試験（独検）（公益財団法人　ドイツ語学文学振興会）	準1級以上	ドイツ語入門Ⅰ・Ⅱ各1単位 ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ各1単位	95	
	2級		90	
	3級		80	
	4級	ドイツ語入門Ⅰ・Ⅱ各1単位	70	
	5級	ドイツ語入門Ⅰ1単位 又は ドイツ語入門Ⅱ1単位	60	

③ フランス語

検定試験の種類	評価等	単位認定	マイレージポイント認定（1授業題目につき）	備考
実用フランス語技能検定試験（仏検）（公益財団法人　フランス語教育振興協会）	2級以上	フランス語入門Ⅰ・Ⅱ各1単位 フランス語初級Ⅰ・Ⅱ各1単位	95	
	準2級		90	
	3級		80	
	4級	フランス語入門Ⅰ・Ⅱ各1単位	70	

④　中国語

検定試験の種類	評価等	単位認定	マイレージポイント認定（1授業題目につき）	備考
中国語検定試験（一般財団法人　日本中国語検定協会）	準１級以上	中国語入門Ⅰ・Ⅱ各1単位 中国語初級Ⅰ・Ⅱ各1単位	95	
	２級		90	
	３級		80	
	４級		70	
	準４級	中国語入門Ⅰ・Ⅱ各1単位	60	
中国政府漢語水平考試（HSK）（中国国家漢語水平考試委員会）	５級以上	中国語入門Ⅰ・Ⅱ各1単位 中国語初級Ⅰ・Ⅱ各1単位	95	
	４級		90	
	３級		80	
	２級		70	
	１級	中国語入門Ⅰ・Ⅱ各1単位	60	

⑷　留学による単位の認定

本学が指定する大学が主催する語学研修を受講し，成績評価が合格に達した者に対し，単位を認定するとともに，その科目に対するマイレージポイント及び「語学留学等」のマイレージポイントを認定します。それぞれのマイレージポイントは，研修内容，研修時間数や修得した成績等及び面接により認定ポイントを決定します。なお，留学によるマイレージポイントの認定は，該当科目が修得済みのために単位認定ができなかった場合であっても，留学によるマイレージポイントは単独で認定できることがあります。

その他，指定大学以外での語学留学についても，マイレージポイントを認定できることがあります。詳しくは教育支援課教養教育係へ問い合わせてください。

①　英語

研修時間	認定する題目及び単位数	マイレージポイント		備考
		科目ポイント	留学ポイント	
60時間以上90時間未満	主題別英語　２単位	60～100	90	
90時間以上120時間未満			120	
120時間以上			150	

②　フランス語

２単位をひとまとまりに，４単位を上限として認定します。ただし，各クラスとも60時間以上の研修時間をもって２単位に相当するものとします。

研修クラス	認定する題目及び単位数	マイレージポイント		備考
		科目ポイント	留学ポイント	
初心者対象	フランス語入門Ⅰ・Ⅱ各1単位	60～100	30～200	
既修90時間以上の能力を要するクラス	フランス語初級Ⅰ・Ⅱ各1単位			

③　中国語

研修時間	認定する題目及び単位数	マイレージポイント		備考
		科目ポイント	留学ポイント	
30時間以上60時間未満	中国語初級Ⅰ　1単位 又は 中国語初級Ⅱ　1単位	60～100	60	
60時間以上120時間未満	中国語入門Ⅰ・Ⅱ 各1単位		90	
120時間以上	中国語入門Ⅰ・Ⅱ 各1単位 中国語初級Ⅰ・Ⅱ 各1単位		150	

5．マイレージポイント等の確認

教務事務システムから，現在のマイレージポイントの合計やマイレージレベルを確認することができます。

詳しくは，**『徳島大学教養教育 2021 学びのファーストステップ』**を参照してください。

6．表　　彰

マイレージレベルが上位にある者は，学部長表彰の対象になります。さらに，プラチナレベルにあり特に優秀な成績を修めた者は，学長表彰されます。

7．証明書の発行

マイレージポイント及びマイレージレベルに応じた証明書を発行します。希望する者は，学務係へ申請してください。

Ⅳ. 教員免許状と各種資格

１．教員免許状の取得

本学部では，「１　教員免許状の種類及び教科」に示す教員免許が取得できます。本学部では，教員免許状取得を希望する学生に対して，１年次の 10 月頃に説明会を実施し，免許状取得に関する指導を行っています。免許状の取得を希望する学生はこの説明会に必ず出席してください。

教員免許状を取得するためには，卒業に必要な単位のほかに，卒業要件とならない授業科目を多数履修し，４年次には「教育実習」や「教職実践演習」を受講しなければなりません。

また，中学校教員免許状を取得するためには，「介護等体験」の受講が必修となっています。これらの科目で実施される学外での実習は，実習先のご好意によって受講が可能となっているものです。このような実情を踏まえ，本学部ではこれらの科目を受講するために要件を定めています。それらは，４－６及び５－１に示していますので，各自で確認してください。

また，免許の取得に必修の科目の中には，隔年開講のものもあります。履修に際しては，各年次の時間割によく目を通して，履修計画を立てるようにしてください。

以下に大まかに，免許状取得までの説明会・事前指導等の実施予定を示しておきます。詳細は，教務システムのメッセージで連絡，もしくは学務係前の「教職関連の掲示板」に掲示します。メッセージや掲示板を毎日確認するようにしてください。

【教職課程スケジュール概要】

日　　程	「教育実習」と「介護等体験」	『教職キャリアノート』と「教職実践演習」
１年次10月	教員免許状取得希望者に対する説明会 (「介護等体験」受講希望調査を含む)	『教職キャリアノート』の配付
12月	「介護等体験」受講説明会	
２年次４月	「介護等体験」事前指導 (社会福祉施設実習について)	『教職キャリアノート』の提出（学務係まで）
６月		『教職キャリアノート』講習会
８，９月頃	「介護等体験」（社会福祉施設実習（５日間)）	
10月		『教職キャリアノート』の提出（学務係まで）
11月	「介護等体験」事前指導 (鳴門教育大学附属特別支援学校実習について)	
12月	「介護等体験」(鳴門教育大学附属特別支援学校実習(２日間)) 右の講習会時に「教育実習」受講説明及び 「教育実習」受講希望調査	『教職キャリアノート』講習会
３年次４月	「教育実習」受講説明会	『教職キャリアノート』の提出（学務係まで）
６月		『教職キャリアノート』講習会
10月		『教職キャリアノート』の提出（学務係まで）
12月		『教職キャリアノート』講習会
４年次４月	「教育実習事前事後指導（事前指導)」(集中講義)	『教職キャリアノート』の提出（学務係まで）
５月～	「教育実習」※日程は実習校が指定する日程による。	「教職実践演習」開始
11月	「教育実習事前事後指導（事後指導)」(集中講義)	

※教員免許状取得に必要な単位数等については，次頁以降の「総合科学部教員免許状取得に関する単位修得要領」を熟読して確認し，各自の履修計画を立て，単位の修得を進めてください。

総合科学部教員免許状取得に関する単位修得要領

1　教員免許状の種類及び教科

総合科学部で取得可能な免許状の種類及び教科は次のとおりです。

「2　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」以降で示す単位修得方法を確認のうえ，必要な単位数を修得してください。

免許状の種類及び免許教科	関連するコース
中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）	国際教養コース
中学校教諭一種免許状（社会）	国際教養コース 公共政策コース 地域創生コース
高等学校教諭一種免許状（地理歴史）	国際教養コース 公共政策コース 地域創生コース
高等学校教諭一種免許状（公民）	公共政策コース 地域創生コース
中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）	国際教養コース
中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育）	心身健康コース
中学校教諭一種免許状（美術） 高等学校教諭一種免許状（美術）	地域創生コース

2　法令で規定された基礎資格及び所要単位数

教員免許状を取得する場合の基礎資格及び科目履修は次のとおりです。

本学部の学生は，「4　本学で開設している授業科目」に従って修得してください。

中学校教諭一種免許状

基礎資格：学士の学位を有すること

科目の区分	各項目に含めることが必要な事項	単位数
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		8
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
教育の基礎的理解に関する科目	4－3に記載	10
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	4－4に記載	10
教育実践に関する科目	教育実習	5
	教職実践演習	2
大学が独自に設定する科目		4
合　計		67

高等学校教諭一種免許状

基礎資格：学士の学位を有すること

科目の区分	各項目に含めることが必要な事項	単位数
教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		8
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
教育の基礎的理解に関する科目	４－３に記載	10
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	４－４に記載	8
教育実践に関する科目	教育実習	3
	教職実践演習	2
大学が独自に設定する科目		12
合　　計		67

ただし，**「４　本学で開設している授業科目」のうち，必修の指定のある科目は上記の単位数にかかわらず必ず修得しなければなりません。**なお，本学部では，「介護等体験」を中学一種免許状の必修の科目として開設しています（４－６「大学が独自に設定する科目」参照）。

3　法令で規定された単位数

3－1　教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

法令上規定された単位数は次のとおりです。**本学部では４－１「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」に従って修得してください。**

免許状の種類	免許法に定める科目	単位数
中学校教諭一種免許状	日本国憲法	2
	体育	2
高等学校教諭一種免許状	外国語コミュニケーション	2
	情報機器の操作	2

３－２　「教科及び教科の指導法に関する科目」

免許状種別及び教科別等による法令上規定された単位数は次のとおりです。**本学部では４－２「教科及び教科の指導法に関する科目」に従って修得してください。**

中学校教諭一種免許状

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
国語	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） 国文学（国文学史を含む。） 漢文学 書道（書写を中心とする。）	１単位以上 〃 〃 〃	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		８単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
社会	教科に関する専門的事項	日本史・外国史 地理学（地誌を含む。） 「法律学，政治学」 「社会学，経済学」 「哲学，倫理学，宗教学」	１単位以上 〃 〃 〃 〃	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		８単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
美術	教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。） 彫刻 デザイン（映像メディア表現を含む。） 工芸 美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	１単位以上 〃 〃 〃 〃	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		８単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
保健体育	教科に関する専門的事項	体育実技 「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学（運動方法学を含む。） 生理学（運動生理学を含む。） 衛生学・公衆衛生学 学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）	１単位以上 〃 〃 〃 〃	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		８単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
英語	教科に関する専門的事項	英語学 英語文学 英語コミュニケーション 異文化理解	１単位以上 〃 〃 〃	28
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		８単位以上	

高等学校教諭一種免許状

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
国語	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） 国文学（国文学史を含む。） 漢文学	1単位以上 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		4単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
地理歴史	教科に関する専門的事項	日本史 外国史 人文地理学・自然地理学 地誌	1単位以上 〃 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		4単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
公民	教科に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」 「社会学，経済学（国際経済を含む。）」 「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	1単位以上 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		4単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
美術	教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。） 彫刻 デザイン（映像メディア表現を含む。） 美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	1単位以上 〃 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		4単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
保健体育	教科に関する専門的事項	体育実技 「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学（運動方法学を含む。） 生理学（運動生理学を含む。） 衛生学及び公衆衛生学 学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）	1単位以上 〃 〃 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		4単位以上	

教科	各項目に含めることが必要な事項		単　位　数	合計単位数
英語	教科に関する専門的事項	英語学 英語文学 英語コミュニケーション 異文化理解	1単位以上 〃 〃 〃	24
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		4単位以上	

4　本学で開設している授業科目

4－1「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」

教員免許状取得にあたっては，本学で開設している以下の「授業科目」又は「授業題目」の中から各２単位，計８単位を修得して下さい。

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

免許法に定める科目	本学部で開設する授業科目・授業題目	中　学	高　校	摘　　要
日本国憲法	生活と社会：日本国憲法〔教養教育科目〕 憲法Ⅰ〔専門教育科目〕 憲法Ⅱ〔専門教育科目〕	2 2 2	2 2 2	１科目選択必修
体　　育	ウェルネス総合演習〔教養教育科目〕	2	2	
外国語コミュニケーション	英語〔教養教育科目〕 英語以外の外国語〔教養教育科目〕	2 2	2 2	１科目選択必修
情報機器の操作	情報科学：情報科学入門〔教養教育科目〕	2	2	
合　　計		8	8	

4－2　「教科及び教科の指導法に関する科目」

「教科に関する専門的事項」及び「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。)」について，以下のとおり修得してください。

4－2－1　「教科に関する専門的事項」

本学部では「教科に関する専門的事項」に関する科目を別表のとおり開設しているので，該当する免許状の種類及び教科に応じて，３－２「教科及び教科の指導法に関する科目」に示されている単位数以上を修得してください。

4－2－2　「各教科の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。)」

本学部では「各教科の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。)」に関する科目を次表のとおり開設しているので，該当する免許状の種類及び教科に応じて，３－２「教科及び教科の指導法に関する科目」に示されている単位数以上を修得してください。

各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

<table>
<tr><th rowspan="2">各項目に含めることが必要な事項</th><th rowspan="2">授業科目</th><th rowspan="2">単位数</th><th>中一種免</th><th>高一種免</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>必修</th><th>必修</th></tr>
<tr><td rowspan="25">各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</td><td>国語科教育法Ⅰ</td><td>2</td><td rowspan="4">8</td><td rowspan="4">4
選択必修</td><td rowspan="25">「教科教育法」
取得したい教科免許状の教科教育法を修得しなければならない。また，他の教科教育法の単位は「大学が独自に設定する科目」に算入されない。

中一種免（社会）では社会科教育法の他に社会科・地理歴史科教育法，社会科・地理歴史科教育方法論，社会科・公民科教育法，社会科・公民科教育方法論のうち３科目以上を履修しなければならない。</td></tr>
<tr><td>国語科教育法Ⅱ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>国語科教育法Ⅲ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>国語科教育法Ⅳ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>社会科教育法</td><td>2</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>社会科・
地理歴史科教育法</td><td>2</td><td rowspan="4">6
選択必修</td><td rowspan="2">4</td></tr>
<tr><td>社会科・
地理歴史科教育方法論</td><td>2</td></tr>
<tr><td>社会科・公民科教育法</td><td>2</td><td rowspan="2">4</td></tr>
<tr><td>社会科・
公民科教育方法論</td><td>2</td></tr>
<tr><td>英語科教育法Ⅰ</td><td>2</td><td rowspan="4">8</td><td rowspan="2">2
選択必修</td></tr>
<tr><td>英語科教育法Ⅱ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>英語科教育法Ⅲ</td><td>2</td><td rowspan="2">2
選択必修</td></tr>
<tr><td>英語科教育法Ⅳ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>美術科教育法Ⅰ</td><td>2</td><td rowspan="4">8</td><td rowspan="4">4
選択必修</td></tr>
<tr><td>美術科教育法Ⅱ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>美術科教育法Ⅲ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>美術科教育法Ⅳ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>保健体育科教育法Ⅰ</td><td>2</td><td rowspan="4">8</td><td rowspan="4">4
選択必修</td></tr>
<tr><td>保健体育科教育法Ⅱ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>保健体育科教育法Ⅲ</td><td>2</td></tr>
<tr><td>保健体育科教育法Ⅳ</td><td>2</td></tr>
</table>

４－３　「教育の基礎的理解に関する科目」

本学部では，「教育の基礎的理解に関する科目」を次表のとおり開設しているので，「２　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」に示されている単位数に係わらず，必修の指定のある科目は必ず修得してください。

教育の基礎的理解に関する科目

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数	中一種免 必修	高一種免 必修	備考
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	2	2	2	
教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教師論	2	2	2	
教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育の制度と経営	2	2	2	
幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	学習・言語心理学	2	2	2	
	発達心理学	2	2	2	
特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	2	2	2	
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2	2	2	

4－4 「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」

本学部では，「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」を次表のとおり開設しているので，「2　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」に示されている単位数に係わらず，必修の指定のある科目は必ず修得してください。

道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数	中一種免 必修	高一種免 必修	備考
道徳の理論及び指導法	道徳教育	2	2		
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	1	1	1	
特別活動の指導法	特別活動論	2	2	2	
教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法学	2	2	2	
生徒指導の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）	2	2	2	
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	2	2	

4－5 「教育実践に関する科目」

本学部では，「教育実践に関する科目」を次表のとおり開設しているので，「2　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」に示されている単位数以上を修得してください。ただし，これらの科目を履修するためには「5　履修上の注意」のとおり受講要件を満たす必要があります。

教育実践に関する科目

各項目に含めることが必要な事項	授　業　科　目	単位数	中一種免	高一種免	備　　考
			必　　修	必　　修	
教育実習	教育実習事前事後指導	1	1	1	
	教育実習（中学）	4	4		3週間
	教育実習（高校）	2		2	2週間
教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	2	2	

4－6　「大学が独自に設定する科目」

本学部では，「大学が独自に設定する科目」を次表のとおり開設しています。

また，本科目の単位数には，「2　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」及び3－2「教科及び教科の指導法に関する科目」で指定された単位数を超えて修得した単位数も単位数に算入されます。したがって，本科目の単位数は次表及び4－2－1「教科に関する専門的事項」，4－2－2「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」，4－3「教育の基礎的理解に関する科目」，4－4「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」から修得し，「2　法令で規定された基礎資格及び所要単位数」に示されている単位数以上を修得してください。

大学が独自に設定する科目

科目の区分	授業科目	単位数	中一種免	高一種免	摘　　要
			必修	必修	
大学が独自に設定する科目	介護等体験	1	1		社会福祉施設等で5日間 鳴門教育大学附属特別支援学校で2日間

本学部では「介護等体験」を中学校一種免許状の必修科目として開設しています。中学校一種免許状を取得する場合は，可能な限り2年次に履修してください。「介護等体験」を受講するには，受講の前年度に実施される「教員免許状取得希望者に対する説明会」及び「介護等体験」受講説明会に出席し，「希望調査票」を提出することが必要です。

また，「介護等体験」の実習までに開催される説明会・事前指導の全てに出席してください。全てに出席しなければ「介護等体験」を受講できません。

5　履修上の注意

5－1　受講要件と履修方法

「教育実習」及び「教職実践演習」を受講するためには，受講の前年度末において，以下の要件を満たしていなければなりません。

1）4年次に進級できる者。

2）下記の単位数を修得していること。

科目名	受　講　要　件	
	「教科に関する専門的事項」	「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 「教育の基礎的理解に関する科目」 「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」
教育実習（中学）	24 単位以上	16 単位以上 （教師論２単位，教育課程論２単位，生徒指導論（進路指導を含む）２単位，教育相談２単位，教科教育法８単位※を含む）
教育実習（高校）	24 単位以上	12 単位以上 （教師論２単位，教育課程論２単位，生徒指導論（進路指導を含む）２単位，教育相談２単位，教科教育法４単位※を含む）
教職実践演習 （中・高）	教育実習に必要な単位	

※教科教育法の修得単位数は原則とする。

①　「教育実習」を受講するには，次のことを行ってください。

〇受講の前々年度に「教育実習」希望調査票を提出する。

〇受講の前年度に実施される「教育実習」受講説明会に出席する。

〇受講年度の「教育実習事前事後指導」（集中講義）を受講し，「教育実習」の事前指導を受ける。

以上のことが全てできていなければ「教育実習」を受講できません。

なお，中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状を同時に取得する場合，「教育実習」は中学または高校のいずれかで３週間の実習を行うことになります。その場合，履修登録は「教育実習（中学）」としてください。ただし，３週間実習を行っても「教育実習（高校）」の単位は２単位です。

②　「教職実践演習」を受講するには，次のことを行ってください。

〇１年次後期に実施される「教員免許状取得希望者に対する説明会」に出席し，『教職キャリアノート』の意義，書き方等の指導を受ける。

〇受講の前年度までに開催されるすべての『教職キャリアノート』講習会に出席する。

〇『教職キャリアノート』に授業担当教員の確認印が押されている。

〇受講年度又は受講年度までに「教育実習」を受講している。

以上のことが全てできていなければ「教職実践演習」を受講できません。

なお，２年次以降から教員免許状の取得をめざす学生は，毎年後期に開催される「教員免許状取得希望者に対する説明会」に出席し，授業担当教員の指示に従ってください。

５－２　その他

①　他大学等で修得した「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に関する科目，「教育の基礎的理解に関する科目」，「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」，「教育実践に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」の単位は，その単位を修得した他大学等で取得できる免許状の必要最低単位数を上限として，本学部における当該科目を履修し修

得した単位として認められます。

② 他大学（鳴門教育大学など）で修得した単位を加えて免許状を取得しようとする場合には，前もって学務係に相談するようにしてください。なお，他大学（鳴門教育大学など）で修得した①に記載する科目の中には，本学での免許状の取得に必要な単位とはできない科目もあります。

③ 「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」に関する科目，「教育の基礎的理解に関する科目」，「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」，「教育実践に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」のうち，「教育の基礎的理解に関する科目」の「学習・言語心理学」，「発達心理学」及び「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」の「教育相談」は，進級及び卒業に必要な単位に認められます。

④ 教員免許状一括申請について，12月頃に連絡します。卒業予定者で免許状の取得を希望する者は，教務システムのメッセージ，掲示に注意してください。なお，申請にかかる手続きについては，キャリア支援室に確認してください。

別表

教科に関する専門的事項

免許教科　中一種免・高一種免「国語」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	中一種免 必修単位数		高一種免 必修単位数	
		必修	選択	必修	選択
国語学（音声表現及び文章表現に関するものを含む。）	総合科学の基礎A（日本語表現の基礎）	2		2	
	日本言語概説	2		2	
	応用日本語学概説	2		2	
	日本言語研究	2		2	
	応用日本語学研究	2		2	
	日本言語演習Ⅰ（社会言語学）		4		4
	方言と社会		2		2
	グローバル化教育科目：世界の中の日本語〔教養教育科目〕		2		2
国文学（国文学史を含む。）	日本表象文化論Ⅰ（日本古典文学）	2		2	
	日本表象文化論Ⅱ（日本近現代文学）	2		2	
	日本文化研究Ⅰ（日本古典文学）	2		2	
	日本文化研究Ⅱ（日本近現代文学）	2		2	
	日本文化研究演習Ⅰ（日本古典文学）		4		4
	日本文化研究演習Ⅰ（日本近現代文学）		4		4
漢文学	東アジア文化研究（漢文学）	2		2	
	東アジア社会文化研究Ⅰ		2		2
	東アジア社会文化研究Ⅱ		2		2
書道（書写を中心とする。）（中一種免「国語」取得に関してのみ，「教科に関する科目」の単位として認められる。）	書道	2			

免許教科　中一種免「社会」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	中一種免 必修単位数	
		必修	選択
日本史・外国史	近現代世界の成立と展開	2	
	日本史基礎研究Ⅰ		2
	日本史基礎研究Ⅱ		2
	日本史研究Ⅰ	2	
	日本史研究Ⅱ		2
	考古学概説	2	
	現代アジア社会Ⅰ		2
	現代アジア社会Ⅱ	2	
	グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2	
	ヨーロッパ史研究		2
	北米地域研究		2
	グローバル交渉史	2	
	歴史と文化：日本の古代史〔教養教育科目〕		2
	歴史と文化：古代・中世日本の社会〔教養教育科目〕		2
地理学（地誌を含む。）	地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2 選択必修	2
	地域構造論（人文地理学）		2
	地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2 選択必修	2
	地域変容論（地誌学）		2
	空間情報論Ⅰ		2
	空間情報論Ⅱ		2
	地域環境論（自然地理学）	2	
	歴史と文化：世界遺産が語る地理と歴史〔教養教育科目〕		2
	生活と社会：地理空間情報と人間社会〔教養教育科目〕		2
	生活と社会：地球環境問題〔教養教育科目〕		2
「法律学，政治学」	憲法Ⅰ	2	
	憲法Ⅱ	2	
	国際関係論（国際法を含む）	2	
	民法Ⅰ		2
	民法Ⅱ		2
	民法Ⅲ		2
	行政法Ⅰ		2
	行政法Ⅱ		2
	平和学		2
	総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）		2
	公共政策学		2
	商法Ⅰ		2
「社会学，経済学」	総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2	
	マクロ経済学入門	2	
	総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2	
	国際経済学Ⅰ	2	
	国際経済学Ⅱ		2
	社会変動論		2

	福祉社会論		2
	まちづくり地域社会論		2
	マクロ経済学Ⅰ		2
	マクロ経済学Ⅱ		2
	財政学Ⅰ		2
	財政学Ⅱ		2
	ミクロ経済学Ⅰ		2
	ミクロ経済学Ⅱ		2
「哲学，倫理学，宗教学」	総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2	
	現代科学論研究		2
	環境倫理学		2

免許教科　高一種免「地理歴史」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	高一種免 必修単位数	
		必修	選択
日本史	日本史基礎研究Ⅰ		2
	日本史基礎研究Ⅱ		2
	日本史研究Ⅰ	2	
	日本史研究Ⅱ		2
	考古学概説	2	
	歴史と文化：日本の古代史		2
	歴史と文化：古代・中世日本の社会		2
外国史	近現代世界の成立と展開	2	
	グローバル交渉史	2	
	現代アジア社会Ⅰ		2
	現代アジア社会Ⅱ	2	
	北米地域研究		2
	グローバル・ヒストリー（イギリス近代史）	2	
	ヨーロッパ史研究		2
人文地理学・自然地理学	地理学の基礎Ⅰ（人文地理学）	2	2
	地域構造論（人文地理学）	選択必修	2
	空間情報論Ⅰ		2
	空間情報論Ⅱ		2
	地域環境論（自然地理学）	2	
	歴史と文化：世界遺産が語る地理と歴史		2
	生活と社会：地理空間情報と人間社会		2
	生活と社会：地球環境問題		2
地誌	地理学の基礎Ⅱ（地誌学）	2	2
	地域変容論（地誌学）	選択必修	2

免許教科　高一種免「公民」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	高一種免 必修単位数	
		必修	選択
「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」	憲法Ⅰ	2	
	憲法Ⅱ	2	
	国際関係論（国際法を含む）	2	
	民法Ⅰ		2
	民法Ⅱ		2
	民法Ⅲ		2
	行政法Ⅰ		2
	行政法Ⅱ		2
	平和学		2
	総合科学の基礎Ｆ（公共政策学の基礎）		2
	公共政策学		2
	商法Ⅰ		2
「社会学，経済学（国際経済を含む。）」	総合科学の基礎Ｇ（経済学の基礎）	2	
	マクロ経済学入門	2	
	総合科学の基礎Ｈ（社会学の基礎）	2	
	国際経済学Ⅰ	2	
	国際経済学Ⅱ	2	
	社会変動論		2
	福祉社会論		2
	まちづくり地域社会論		2
	マクロ経済学Ⅰ		2
	マクロ経済学Ⅱ		2
	ミクロ経済学Ⅰ		2
	ミクロ経済学Ⅱ		2
	財政学Ⅰ		2
	財政学Ⅱ		2
「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	総合科学の基礎Ｃ（哲学・思想の基礎）	2	
	現代科学論研究		2
	環境倫理学		2
	総合科学の基礎Ｅ（心理学の基礎）	2	

免許教科　中一種免・高一種免「美術」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	中一種免 必修単位数		高一種免 必修単位数	
		必修	選択	必修	選択
絵画（映像メディア表現を含む。）	環境アート	2		2	
	芸術創生基礎演習	2		2	
	絵画表現演習Ⅰ（水性木版画）		2		2
	絵画表現演習Ⅰ（油性木版画）		2		2
	メディア情報論	2		2	
	メディア表現	2		2	
	メディア表現演習Ⅰ（メディアアート）		2		2
	メディア表現演習Ⅰ（インスタレーション）		2		2
	アート表現基礎	2		2	
	現代絵画論		2		2
	イノベーション教育科目： 絵画表現と技法の基礎〔教養教育科目〕		2		2
	イノベーション教育科目： 絵画表現と技法の応用〔教養教育科目〕		2		2
彫刻	彫刻研究	2		2	
デザイン（映像メディア表現を含む。）	映像デザイン	2		2	
	デザイン表現演習Ⅰ（映像とデザイン）		2		2
	デザイン表現演習Ⅰ（視覚伝達デザイン）		2		2
	写真画像保存技術概論		2		2
	スタディスキル： ビジュアルコミュニケーション〔教養教育科目〕		2		2
	イノベーション教育科目： アーツ・アンド・テクノロジー〔教養教育科目〕		2		2
工芸（中一種免「美術」取得に関してのみ，「教科に関する科目」の単位として認められる。）	工芸表現と技法	2			
美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	美術概論	2		2	
	芸術文化論	2		2	

免許教科　中一種免・高一種免「保健体育」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	中一種免 必修単位数		高一種免 必修単位数	
		必修	選択	必修	選択
体育実技	コーチング論実習Ⅰ（器械運動）	1		1	
	コーチング論実習Ⅱ（ダンス）	1		1	
	コーチング論実習Ⅲ（陸上競技）	1		1	
	コーチング論実習Ⅵ（水泳）	1		1	
	コーチング論実習Ⅷ（体つくり運動）	1		1	
	コーチング論実習Ⅳ（バスケットボール）	1		2選択必修	1
	コーチング論実習Ⅴ（ソフトボール）	1			1
	コーチング論実習Ⅶ（バレーボール）	1			1
	ウェルネス・プロジェクト実習（武道実習を含む）	2		2	
「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	健康体力科学の展開（運動学（運動方法学を含む））	2		2	
	コーチング論（体育原理を含む）	2		2	
	地域スポーツ文化論（体育史を含む）	2		2	
	スポーツ心理学	2		2	
	スポーツ社会学	2		2	
	スポーツ経営学	2		2	
	心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ社会学）		4		4
	心身健康総合演習Ⅰ（健康体力学）		4		4
	心身健康総合演習Ⅰ（スポーツ心理学）		4		4
生理学（運動生理学を含む。）	運動生理学	2		2	
	応用解剖生理学		2		2
	スポーツ栄養学（生理学を含む）	2		2	
	スポーツ科学実験実習（運動生理学を含む）	2		2	
	応用生理学		2		2
	心身健康総合演習Ⅰ（応用生理学）		4		4
衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2		2	
	健康科学の基礎		2		2
学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）	健康教育学（小児保健・学校安全を含む）	2		2	
	心身健康総合演習Ⅰ（健康教育学）		4		4
	精神疾患とその治療	2		2	
	学校保健論	2		2	
	救急処置法	2		2	
	健康行動論（学校安全を含む）	2		2	

免許教科　中一種免・高一種免「英語」

各項目に含めることが必要な事項	授業科目	中一種免 必修単位数		高一種免 必修単位数	
		必修	選択	必修	選択
英語学	英語研究Ⅰ (Studies in English-Linguistic Approaches)	2		2	
	英語研究Ⅱ (Studies in English-Phonetics)		2		2
	英語研究Ⅲ (Studies in English-Semantics and Pragmatics)		2		2
	国際語としての英語 (English as an International Language)	2		2	
	言語コミュニケーション演習Ⅰ (Seminar in Language and Communication Ⅰ)		4		4
	Extensive Reading (英語文法・語彙構築プログラム)		2		2
英語文学	英語圏文学研究	2		2	
	言語メディア研究演習Ⅰ (Seminar in Language and Media Ⅰ)		4		4
英語コミュニケーション	Academic Communications Ⅰ (英語文章表現)	4		4	
	Academic Communications Ⅱ (英語スピーチ＆ネゴシエーション)	4		4	
	Advanced Academic Communications Ⅰ (ライティング＆ディスカッション)	4		4	
	Advanced Academic Communications Ⅱ (論文作成＆ディベート)		2		2
	Academic English Ⅰ (日本文化・時事発信型英語)		2		2
	Academic English Ⅱ (４技能アカデミック英語入門)		2		2
異文化理解	異文化間コミュニケーション (Cross-Cultural Communication)	2		2	
	カルチュラルスタディーズ		2		2
	国際ジャーナリズム (International Journalism)		2		2

2．学芸員の資格取得

1　学芸員の資格

学芸員の資格は，博物館法第五条第一項の規定により，次のように定められています。

学士の資格を有する者で，大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。

2　文部科学省令で定められた博物館に関する科目

文部科学省令で定められた博物館に関する科目は以下のとおりです。

（開講学期は変更されることがありますので，受講前に時間割で必ず確認すること）

科　　目　　名	単　位　数	開講学年・学期
生涯学習概論	2単位	1年・前期集中
博物館概論	2単位	1年・前期集中
博物館経営論	2単位	2年・前期
博物館資料論	2単位	1年・後期集中
博物館資料保存論*	2単位	2年・前期集中
博物館展示論*	2単位	2年・後期集中
博物館教育論*	2単位	2年・後期集中
博物館情報メディア論	2単位	1年・前期集中
博物館実習	3単位	3年・前期集中
計	19単位	

本学部では，すべて上記の科目名のままで開講します。また＊の付いた３科目は，徳島県文化の森総合公園内の県立博物館・県立美術館・県立文書館との連携によって，鳴門教育大学・四国大学の学生と合同で受講する科目です。会場も文化の森で受講することとなります。

3　受講に際しての注意事項

⑴　２で示された博物館に関する科目のすべては，学芸員の資格を取得するための必須科目ですが，卒業に必要な単位には算入されません。

⑵　博物館教育論，博物館展示論，博物館資料保存論及び博物館実習は，学外の施設において受講する科目であることを踏まえ，受講要件として，以下の①及び②の両方を満たす者とします。

①　本学部に在学もしくは本学部を卒業した者，及び学部長が特に認めた者

②　各科目を受講するまでに以下に示す要件を満たした者

科　目　名	受講までに修得すべき科目と単位数
博物館教育論	「博物館概論」　2単位
博物館展示論	「博物館概論」・「博物館情報・メディア論」　計４単位
博物館資料保存論	「博物館概論」「博物館資料論」　計４単位
博物館実習	「博物館概論」及び「博物館資料論」を含めて12単位以上

4　そ　の　他

⑴　学芸員の資格取得のための説明は，集中講義として開催される「博物館概論」の講義冒頭に実施します。２年次から資格取得を希望する学生は，学務係に申し出て学芸員推進班の指導を受けて下さい。

⑵　科目の受講など，重要な連絡は，学務係前の掲示板の掲示を通して行います。必ず掲示を確認してください。

⑶　学芸員の資格取得のために，単位互換協定校の単位を修得し単位の認定を希望する場合は，事前に学務係に照会してください。

3．公認心理師の資格取得

1　公認心理師とは

公認心理師とは，公認心理師登録簿への登録を受け，公認心理師の名称を用いて，保健医療，福祉，教育その他の分野において，心理学に関する専門的知識及び技術をもって，次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。

⑴　心理に関する支援を要する者の心理状態の観察，その結果の分析

⑵　心理に関する支援を要する者に対する，その心理に関する相談及び助言，指導その他の援助

⑶　心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言，指導その他の援助

⑷　心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

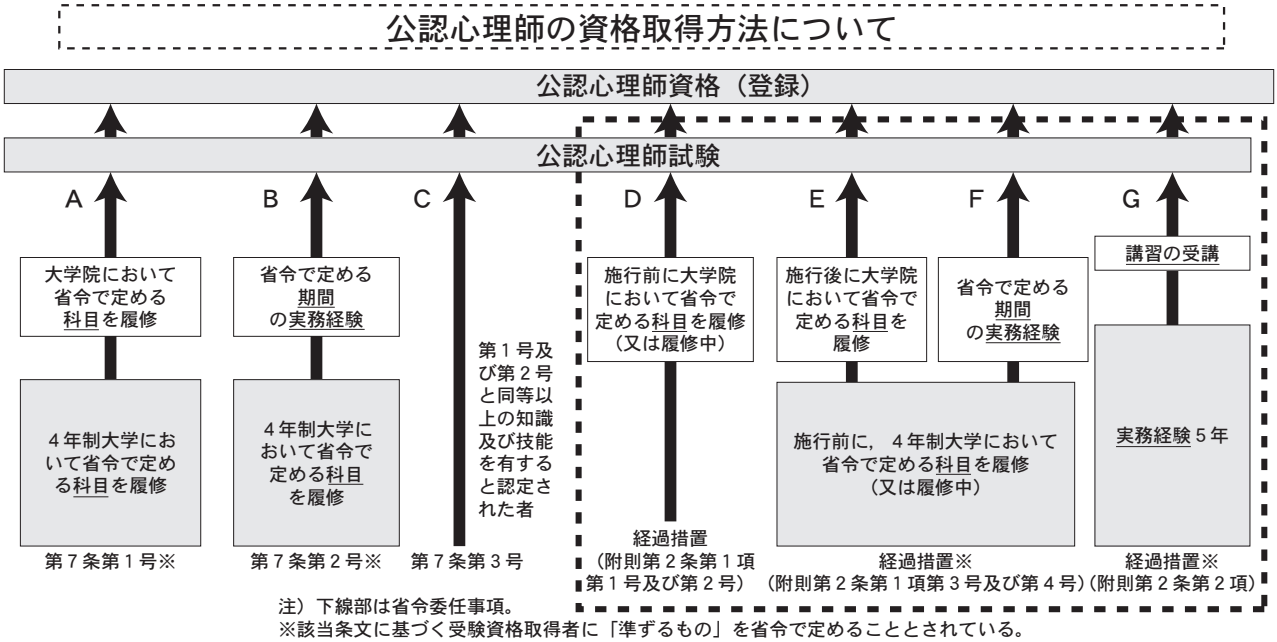
2　公認心理師の受験資格

公認心理師の受験資格は，公認心理師法第７条により，次のように定められています。

⑴　大学において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目として施行規則で定めるもの（以下「必要な科目」という。）を修めて卒業し，かつ，大学院において必要な科目を修めてその課程を修了した者等

⑵　大学において必要な科目を修めて卒業した者等であって，卒業後一定期間の実務経験（施行規則で定める施設において施行規則で定める期間以上）を積んだ者等

⑶　文部科学大臣及び厚生労働大臣が⑴及び⑵に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認めた者



※2019年度情報。最新情報については各自確認してください。

3　公認心理師施行規則で定められた公認心理師に関する科目（学部）

公認心理師施行規則で定められた公認心理師に関する科目（学部）は以下のとおりです。すべての単位を修得してください。

施行規則で定められた科目名	授業科目	単位数
公認心理師の職責	公認心理師の職責 ＊	2
心理学概論	心理学概論	2
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2
心理学研究法	心身行動研究法（心理学研究法）	2
心理学統計法	行動統計学（心理学統計法）	2
心理学実験	心理学実験Ａ 心理学実験Ｂ	2 2
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2
発達心理学	発達心理学	2
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2
心理的アセスメント	心理的アセスメント	2
心理学的支援法	心理学的支援法	2
健康・医療心理学	健康・医療心理学	2
福祉心理学	福祉心理学	2
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2
産業・組織心理学	産業・組織心理学	2
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2
関係行政論	関係行政論 ＊	2
心理演習	心理演習 ＊	2
心理実習	心理実習 ＊	2

上記の科目のうち，＊印の科目は進級要件，卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されません。

4　履修上の注意

⑴　３で示された公認心理師に関する科目は，公認心理師の受験資格を取得するための必須科目ですが，一部卒業に必要な単位数には算入されません。なお，心理学実験Ｂは，公認心理師の受験資格取得のためには必須ではありませんが，履修することが望ましい科目です。

⑵　心理実習は，保健医療，福祉，教育，司法・犯罪，産業・労働の５分野に関係する学外施設の見学を中心とした実習（80 時間以上）とします。

心理実習の受講条件は，原則，以下の授業科目すべての単位を修得できていることとします。

公認心理師の職責	２単位	心理学概論	２単位
臨床心理学概論	２単位	福祉心理学	２単位
教育・学校心理学	２単位	司法・犯罪心理学	２単位
産業・組織心理学	２単位	健康・医療心理学	２単位
心理演習	２単位		

※　「心理演習」と「心理実習」については，受講希望者が多数の場合，その他の公認心理師関連科目の成績に基づき受講者制限を実施します。

※　「心理実習」では，別途，実習費が必要となる場合があります。

5　その他

⑴　公認心理師に関する重要な連絡は，学務係前の掲示板の掲示もしくは教務システム（お知らせ，メッセージ）からの通知で行います。必ず，各自で確認してください。

⑵　公認心理師に関するガイダンス等には必ず出席してください。

4．認定心理士の資格取得

1　認定心理士とは

心理学の専門家として仕事をするために必要な，最小限の標準的基礎学力と技能を修得していることを（公社）日本心理学会が認定するものです。指定された科目の単位を修得することによって取得できます。

2　認定申請に必要な履修科目

認定申請に必要な科目領域と単位数ならびに本学における開講科目については，次ページの表の通りです（(　) 内の数字は単位数)。

3　認定心理士申請について

認定心理士の認定申請は，大学を卒業した後で資格取得希望者が個人で申し込むことを原則としています（卒業前に「仮認定」をうけることもできます)。大学を卒業し，その在学期間に取得した単位を認定単位として申請します。

面接試験や筆記試験はなく，一度取得すると更新等の手続きも必要ありません。

資格の申請の手引きおよび申請書類は，(公社) 日本心理学会のホームページよりダウンロードすることができます。

申請には指導教員等の署名・捺印，成績証明書，卒業証明書が必要になります。卒業前に準備しておくと良いでしょう。また，領域 a，b，c については，受講年度のシラバスの提出が必要になります。

「認定心理士」単位認定基準

<table>
<tr><td rowspan="3">基礎科目</td><td>領域ａ
心理学概論</td><td>基本主題</td><td>心理学概説(2)，心理学初歩(2)
＜以上，教養教育科目＞
心理学概論(2)
＜以上，総合科学部開講科目＞</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>領域ｂ
心理学研究法</td><td>基本主題</td><td>行動統計学（心理学統計法）（２：2017 年度以前入学者は「行動統計学」），
心身行動研究法（心理学研究法）（２：2017 年度以前入学者は「心身行動研究法」，2015 年度以前入学者は「人間行動研究法」）</td><td rowspan="2">８単位以上
※最低４単位分は領域ｃの単位</td></tr>
<tr><td>領域ｃ
心理学実験実習</td><td>基本主題</td><td>心理学実験Ａ(2)，心理学実験Ｂ(2)
2019 年度以前入学者は以下の４科目を履修すること
心理学実験実習Ⅰ(1)，心理学実験実習Ⅱ(1)，
心理学実験実習Ⅲ(1)，心理学実験実習Ⅳ(1)</td></tr>
<tr><td rowspan="6">選択科目</td><td>領域ｄ
知覚心理学
学習心理学</td><td>基本主題</td><td>知覚・認知心理学(2)，学習・言語心理学(2)</td><td rowspan="6">16 単位以上
５領域のうち３領域以上で，それぞれが少なくとも４単位以上
※必ず基本主題を含むこと</td></tr>
<tr><td>領域ｅ
生理心理学
比較心理学</td><td>基本主題</td><td>神経・生理心理学(2)</td></tr>
<tr><td>領域ｆ
教育心理学
発達心理学</td><td>基本主題</td><td>発達心理学（２：2018 年度以前入学者は「生涯発達心理学」，2015 年度以前入学者は「心理学の基礎Ⅰ」）
教育・学校心理学（２：2018 年度以前入学者は「教育心理学」）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">領域ｇ
臨床心理学
人格心理学</td><td>基本主題</td><td>臨床心理学概論（２：2017 年度以前入学者は「臨床心理学」，2015 年度以前入学者は「心理学の基礎Ⅱ」），
感情・人格心理学(2)，健康・医療心理学(2)，福祉心理学(2)，教育相談(2)，心理学的支援法(2)</td></tr>
<tr><td>副次主題</td><td>精神疾患とその治療(2)</td></tr>
<tr><td>領域ｈ
社会心理学
産業心理学</td><td>基本主題</td><td>社会・集団・家族心理学(2)，司法・犯罪心理学(2)，
産業・組織心理学(2)</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>領域ｉ
心理学関連科目
卒業論文
卒業研究</td><td></td><td>スポーツ心理学(2)，卒業研究（４：心理学に関するもの）</td><td>卒論は最大４単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">基礎科目，選択科目，その他の科目で総計 36 単位以上が必要</td></tr>
</table>

5．健康運動指導士の資格取得

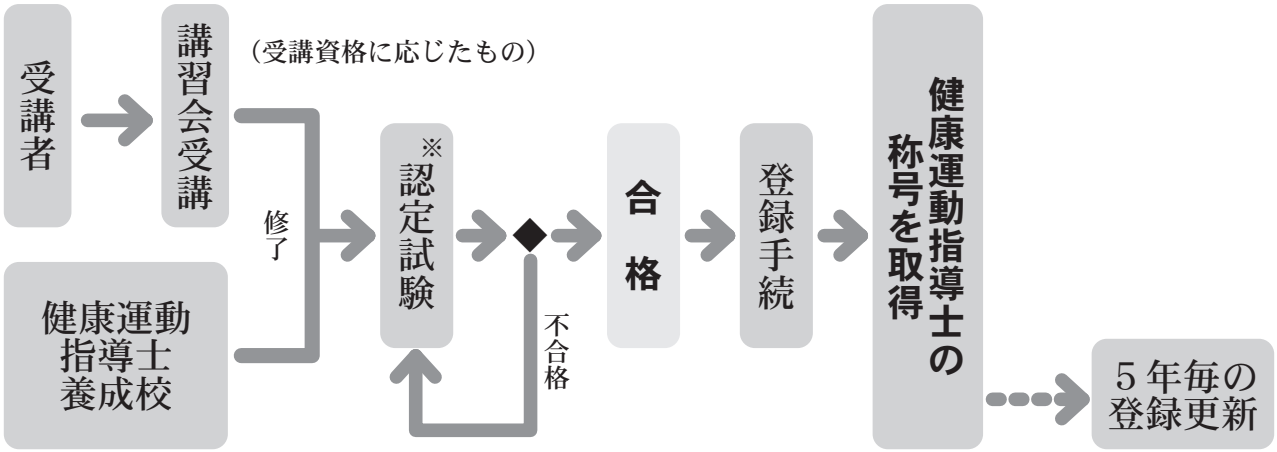
1　「健康運動指導士」について

健康運動指導士は，スポーツクラブや保健所・保健センター，病院・介護施設などにおいて，人々の健康を維持・改善するために，安全かつ適切な運動プログラムを提案・指導する専門家です。厚生労働省所管の⑲健康・体力づくり事業財団が養成・資格の認定・登録事業を行っています。

健康運動指導士は，特に運動を重視した国の施策として展開された第２次国民健康づくり対策（アクティブ80 ヘルスプラン）から誕生した資格です。現在，「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本21)」が積極的に展開されていますが，メタボリックシンドロームの予防，生活習慣病ハイリスク者への運動指導，少子高齢社会を踏まえた介護予防のための運動指導に関する専門的知識及び技術を有する者として動機づけ，支援，または積極的支援対象者に対して生活習慣の改善のための取り組みに資する働きかけを担う人材として期待されています。

2　「健康運動指導士」養成校＝指定された授業単位を修得することで認定試験が受験できる

健康運動指導士の称号は，次の図のように，健康運動指導士養成講習会を受講するか，または，健康運動指導士養成校の養成講座を修了して，健康運動指導士認定試験に合格した上で，健康運動指導士台帳に登録されなければなりません。



※養成校卒業後４年以内
詳しくは⑲健康・体力づくり事業財団　http://www.health-net.or.jp/shikaku/index.html　を参照

本学部では，社会総合学科心身健康コースに健康運動指導士養成校としての養成プログラムを開設しており，そこで指定された科目の単位修得により認定試験を受験することができます。

3　「健康運動指導士養成プログラム」として指定されている科目

健康運動指導士養成プログラムとして指定されている科目は，年次ごとに開講されており，中には隔年開講のものもあるので，１年次から３年次までの履修計画を立てて，必要とされる単位を全て修得することが，認定試験の受験資格となります。

	前　　期		後　　期	
2　年	健康科学の基礎	2	健康教育学	2
	運動生理学	2	スポーツ心理学	2
	応用解剖生理学	2		
	コーチング論	2		
	コーチング論実習Ⅰ＊	1	コーチング論実習Ⅱ＊	1
	コーチング論実習Ⅷ＊	1	コーチング論実習Ⅲ＊	1
3　年	健康行動論（集中）	2	スポーツ栄養学（集中）	2
	救急処置法	2	コーチング論実習Ⅱ＊	1
	スポーツ科学実験実習	2	コーチング論実習Ⅲ＊	1
	コーチング論実習Ⅰ＊	1		
	コーチング論実習Ⅷ＊	1		
	ウェルネス・プロジェクト実習　　2			
合計　26　単位				

・コーチング論実習＊は隔年開講科目であるため，2・3年次が合同で履修します。
・通年の「ウェルネス・プロジェクト実習」の履修学生のうち「健康運動指導士養成クラス」の学生は，実習先をフィットネスクラブ「ハッピー徳島」と定め，健康増進施設実習・水泳水中運動指導実習として実施します。
・養成校の認定（更新）審査中につき，指定科目の一部が変更になる場合があります。

4　「健康運動指導士養成クラス」による資格取得サポート

心身健康コースに配属された2年次から「健康運動指導士養成クラス」を編成し，クラス担当の指導，教員を置き，履修指導や資格情報，模試などの資格取得のためのサポートを月1回程度で実施します。先輩からのアドバイスや，授業の復習，相互自習など，学生主体となったゼミ形式で，4年次の9月，あるいは3月に認定試験を受けるまでの学習を支援します。4年間の在学中に養成プログラム科目にかかるすべての単位を修得したものは，卒業後の受験も認められます（卒業後4年以内）。再受験は可能ですが，できるだけ4年次の2回の試験で合格できるように努力してください。

6．公認スポーツ指導者養成講習会「免除適応コース」（共通科目Ⅰ）

1　日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会「免除適応コース」（共通科目Ⅰ）について

本学部では，日本スポーツ協会のスポーツ指導者養成講習会「免除適応コース」承認校となっています。適応コースとは日本スポーツ協会で実施しているスポーツ指導者養成講習会と同じカリキュラムを本学部で履修することができ，講習が免除されるシステムです。

本学部で免除適応されるのは（共通科目Ⅰ）であり，単位の修得後，オンラインテストに合格すると，「免除適応コース修了」が認定されます。

以下の日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格を取得する場合，共通科目が免除されます（専門科目の受講は必要です)。

コーチ１（競技種目別）
クラブマネジャー
アシスタントマネジャー
ジュニアスポーツ指導員

2　公認スポーツ指導者養成講習会「免除適応コース」（共通科目Ⅰ）として指定されている科目

心身健康コースで開講している下記の科目を履修し，単位を取得する必要があります。

（２年次）

健康体力科学の展開	スポーツ経営学（隔年開講）	スポーツ社会学
コーチング論	スポーツ心理学	健康教育学

（３年次）

スポーツ栄養学（隔年開講）　救急処置法

3　手続等について

⑴　説明会（２年次４月開催予定）
⑵　日本スポーツ協会マイページへの登録（無料）
⑶　テキスト（リファレンスブック）購入（4,400 円）
⑷　修了申請
⑸　検定試験（オンラインテスト）

7．アシスタントマネジャーの資格取得

1　日本スポーツ協会公認『アシスタントマネジャー』について

本学部では，日本スポーツ協会が認定するスポーツマネジメント資格「アシスタントマネジャー」の講習会免除適応コースの承認を受けています。

スポーツマネジメント資格には，「クラブマネジャー」と「アシスタントマネジャー」があります。「クラブマネジャー」とは，地域スポーツクラブなどにおいて，クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう，健全なクラブ経営を行うためのマネジメント能力を身につけるための資格です。「アシスタントマネジャー」は，その組織経営のための諸活動をサポートするために必要なスポーツクラブのマネジメントに関する基礎的知識を有し，協働できる能力を身につけるための資格です。本学部において，定められた科目を履修することで，「アシスタントマネジャー」資格取得のための養成講習会の受講を免除されており，４年次および卒業以降の検定試験の受験によって資格取得が可能になります。

2　「アシスタントマネジャー養成コース」として指定されている科目

「アシスタントマネジャー」を取得するためには，心身健康コースで開講している下記の科目を卒業年度までに履修し，単位を修得する必要があります。

それによって，日本スポーツ協会公認「アシスタントマネジャー」の 35 時間の養成講習会の受講を免除され，受験資格を得ることができます。

（２年次）

健康体力科学の展開	スポーツ経営学（隔年開講）	スポーツ社会学
コーチング論	スポーツ心理学	健康教育学

（３年次）

救急処置法	スポーツマーケティング論（隔年開講）
スポーツ栄養学	

3　資格取得に必要な費用

□アシスタントマネジャーテキスト	2,100 円（購入することが望ましい）
□修了証明書	3,300 円
□検定料	3,300 円

4　その他

10 月頃に検定試験の案内，１月頃に修了証明書の手続きについて掲示します。

8．ジュニアスポーツ指導員の資格取得

1　日本スポーツ協会公認『ジュニアスポーツ指導員』について

本学部では，日本スポーツ協会が認定するフィットネス系資格「ジュニアスポーツ指導員」の，講習会免除適応コースの承認を受けています。

「ジュニアスポーツ指導員」とは，発育発達期の身体的･心理的特徴についての専門的な知識と技能を持ち，2歳から15歳の子ども達を対象に，総合的な体づくりと基礎的動作の習得を目的としたプログラムを提供できる指導者の資格です。本学部において，定められた科目を履修することで，「ジュニアスポーツ指導員」資格取得のための養成講習会の受講を免除されており，4年次および卒業以降の検定試験の受験によって資格取得が可能になります。

2　「ジュニアスポーツ指導員養成コース」として指定されている科目

「ジュニアスポーツ指導員」を取得するためには，心身健康コースで開講している下記の科目を卒業年度までに履修し，単位を取得する必要があります。それによって，日本スポーツ協会公認「ジュニアスポーツ指導員」の23時間の養成講習会の受講を免除され，受験資格を得ることができます。

（2年次）

健康体力科学の展開	スポーツ経営学（隔年開講）	スポーツ社会学
コーチング論	スポーツ心理学	健康教育学
コーチング論実習Ⅰ（隔年開講）		

（3，4年次）

スポーツ栄養学（隔年開講）	救急処置法	
ウェルネス・プロジェクト実習　または　教育実習（中学保健体育）		

3　資格取得に必要な費用

□ジュニアスポーツ指導員テキスト	2,530円（購入することが望ましい）
□修了証明書	3,300円
□検定料	3,300円

4　その他

10月頃に検定試験の案内，1月頃に修了証明書の手続きについて掲示します。

9．社会調査士の資格取得

社会調査士資格制度について

社会調査士は，一般社団法人　社会調査協会により認定される制度です。

社会調査士資格制度の目的

情報化社会としての現代社会は，おびただしい数の社会調査の行われる社会である。変動の激しい，多極化・複雑化の進む社会的現実をとらえ，生起するさまざまな社会問題への対応と解決を図っていくうえで，社会調査は不可欠の方法である。

こうした社会調査の高まる重要性に比して，その担い手となる専門的人材の育成システムの現状はきわめて未整備の状態にあるといってよい。その結果として，現在実施されている社会調査の一部については，しばしば方法上・倫理上の問題点が指摘されており，社会調査の質的な改善や水準向上を求める声には大きなものがある。

こうした声に応え，事態の改善をはかるためには，なによりも社会調査に関する教育体制を整備し，調査を担当する人材の育成を制度化すると同時に，その専門的職業としての資格の制度化をはかることが必要とされる。このたび日本教育社会学会，日本行動計量学会，日本社会学会の３学会が，相互の連携協力のもとに，「社会調査士」資格の制度化をはかり，「社会調査士資格認定機構」の設立を構想したのは，そうした社会制度に応えることをねらいとするものである。（社会調査士資格認定機構設立趣旨書より）

（平成 20 年 12 月 25 日より，「社会調査士資格認定機構」は，体制を整備し，名称を新たに「一般社団法人　社会調査協会」として新しいスタートを切りました。）

社会調査士資格取得のための標準カリキュラム

社会調査士取得のためには，以下のＡ～Ｇに対応する授業科目単位を修得する必要があります。

Ａ：社会調査の基本的事項に関する科目
Ｂ：調査設計と実施方法に関する科目
Ｃ：基本的な資料とデータの分析に関する科目
Ｄ：社会調査に必要な統計学に関する科目
Ｅ：量的データ解析の方法に関する科目
Ｆ：質的な分析の方法に関する科目
Ｇ：社会調査の実習を中心とする科目
＊　ＥとＦはどちらかひとつを選択してください。

Ａ～Ｇがどの授業科目に対応するかは毎年協会に申請するため，多少変動がありますので，申請の際には必ず，一般社団法人　社会調査協会のホームページ（http://jasr.or.jp/）を参照してください。

本学部では，一般社団法人　社会調査協会の発行する社会調査士資格取得のための必要な科目（社会調査協会標準カリキュラムに準拠）を設置しております。

社会調査士資格には，卒業以前に取得できる「社会調査士（キャンディデイト)」資格と，卒業資格取得後に申請，あるいは，社会調査士（キャンディデイト）資格を変更して取得する正規の「社会調査士」資格があります。資格申請受付期間は毎年変更がありますので，必ず HP を確認してください。

資格取得希望者は，以下の要件に従って書類を準備，申請してください。

社会調査士（キャンディデイト）の場合，申請にあたっては，必ず自身が資格申請要件を有しているかどうか確認してください。

【資格申請要件】

① 在籍期間が２年以上であること

② 社会調査士科目を設置している大学（機関）で標準カリキュラムＡ～Ｇに対応した科目単位を申請時までに，３科目以上単位修得していること

③ ２の単位修得済み科目と今年度履修中の科目の合計が５科目以上であること
（ただしＥ／Ｆ科目は選択制のため１科目と数える）

【資格申請手順】

① 社会調査協会ホームページ（http://jasr.or.jp/）から様式をダウンロードし，必要事項を記入

② 必要書類を準備
１．単位取得を証明する書類
２．科目を履修中であることを証明する書類

③ 資格認定手数料を郵便局にて振込み，領収証コピーを様式裏面に貼付
振込用紙は調査協会から各大学へ送られている，所定の用紙を使用してください。
口座番号：00110 － 1 － 654739
加入者名：一般社団法人　社会調査協会

④ 上記の様式および必要書類を，連絡責任者に提出
（本校連絡責任者　矢部拓也）

注）本規定は，2017 年３月時点のものであり，今後，改訂される可能性があります。申請に際しては，各自，社会調査協会のホームページをよく読んでから申請にのぞんでください。

10. 社会福祉主事の資格取得

社会福祉主事について

社会福祉主事は，「社会福祉法第 19 条」に規定されている「任用資格」で，福祉事務所現業員として任用される者に要求される資格（任用資格）であり，社会福祉施設職員等の資格に準用されています。「任用資格」とは，社会福祉主事として採用されて始めて「社会福祉主事」と名乗れるということを意味します。任用資格を取得するためには，大学在学中に，下記に示す社会福祉主事任用資格指定科目の内，3 科目以上を受講する必要があります。

社会福祉主事の職務は，下記に示す福祉施設等において，福祉各法に定められた援護・育成・公正の措置に関する事務を行うことです。社会福祉主事任用資格の必要な職種は以下のとおりです。

【行政】

1．福祉事務所

現業員，査察指導員，老人福祉指導主事，家庭児童福祉主事［児童福祉事業従事 2 年以上等］，家庭相談員［児童福祉事業従事 2 年以上等］，母子相談員

2．各種相談所

知的障害者福祉司［知的障害者福祉事業従事 2 年以上等］，身体障害者福祉司［身体障害者福祉事業従事 2 年以上等］，児童福祉司［児童福祉事業従事 2 年以上等］

【社会福祉施設】

施設長，生活指導員　等

※［　］内は，社会福祉主事任用資格に加えて必要な要件

社会福祉主事任用資格指定科目

【社会福祉法第 19 条 1 号に定められた指定科目一覧】

社会福祉概論，社会福祉事業史，社会福祉援助技術論，社会福祉調査論，社会福祉施設経営論，社会福祉行政論，社会保障論，公的扶助論，児童福祉論，家庭福祉論，保育理論，身体障害者福祉論，知的障害者福祉論，精神障害者保健福祉論，老人福祉論，医療社会事業論，地域福祉論，法学，民法，行政法，経済学，社会政策，経済政策，心理学，社会学，教育学，倫理学，公衆衛生学，医学一般，リハビリテーション論，看護学，介護概論，栄養学，家政学

本学部での履修と，社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書の発行について

社会福祉主事として任用されるに際しては，卒業証明書と成績証明書によって履修を証明することができることとなっています。但し，採用に際して社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書の提示を求められることがあります。その場合には，本学部では，次に示す科目の内の 3 科目を履修することにより，福祉主事任用資格必要科目履修証明書を発行することができます。

【社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書発行のために受講が必要な科目】

本学開講科目（読替科目）	指　定　科　目
・民法Ⅰ及びⅡ	民法
・行政法Ⅰ及びⅡ	行政法
・教育学概論	教育学
・心理学概論	心理学
・福祉社会論	地域福祉論
・社会統計学Ⅰ及びⅡ	社会福祉調査論
・環境倫理学	倫理学
・衛生・公衆衛生学	公衆衛生学
・人体の構造と機能及び疾病	医学一般

※１民法，行政法及び社会統計学はⅠとⅡの両方を受講して１科目と見なされるので，両方とも受講すること。

※２心理学概論は，総合科学部専門科目開講科目のものとする。

11. GIS 学術士の資格取得

1 「GIS 学術士」の資格制度について

「GIS 学術士」とは，GIS の学術を保有する者として，公益社団法人日本地理学会により認定される制度です。

2 「GIS 学術士」の資格制度の目的

「GIS」とは，地理情報科学（Geographic Information Sciences）および地理情報システム（Geographic Information System）を指し，「GIS」の学術とは地理情報をコンピュータで系統的に取得・構築，管理，分析，総合，表示･伝達することに係わる学術を意味します。「地理情報」とは，地理的な位置や範囲と属性情報が対になっている情報を指します。「GIS 学術士」の資格制度は，GIS の知識と技術の向上をはかり，適正な GIS 学術を普及し，もって地理情報科学及び地理学の進歩と社会の発展に貢献することを目的としています。（「GIS 学術士資格認定規定」をもとに作成）。

3 「GIS 学術士」資格取得のための標準カリキュラム

「GIS 学術士」資格取得のためには，以下の【A】～【D】に対応する授業科目単位を修得する必要があります。

【A】：GIS に関連する情報処理を中心とする科目

【B】：GIS の基本的機能と空間データの講義を中心とする科目

【C】：GIS による地図作成・空間分析の実習を中心とする科目

【D】：GIS を利用した卒業論文を執筆する科目（または，それに相当する演習）

（指導教員を選ばないが，卒業論文における GIS 利用の適・不適は，申請書と作成された論文によって，日本地理学会資格専門委員会が判定する。）

総合科学部のどの授業科目が【A】～【D】に対応するかは，年度ごとに多少の変動がありますので，申請の際には必ず，公益社団法人日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページ（下記 URL）にある「実績証明団体」の「徳島大学総合科学部社会総合科学科地域創生コース」の項目を参照してください。

http://ajg-certi.jp/

4 「GIS 学術士」資格申請に際して

「GIS 学術士」の取得は卒業後になります（申請は卒業前に可）。ただし，下記の要件を満たしていれば，卒業前に「GIS 学術士（見込み）」の認定を受けることができます。「GIS 学術士（見込み）」が認定されれば，資格要件科目をすべて修得した後に，「GIS 学術士」資格への変更を申請することが可能になります。

○「GIS 学術士（見込み）」の認定要件

① 大学在籍期間が３年以上であること。

② ３の【A】【B】【C】に対応した科目の単位を申請時までに２科目以上修得していること。

③ ②の単位修得済み科目と今年度履修中の科目の合計が３科目以上であること。

5　資格申請手順について

以下では「GIS 学術士（見込み）」の申請手順について簡潔に記します。

① 公益社団法人日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページから各種申請書をダウンロードして必要事項を記入します。

http://ajg-certi.jp/

② 単位修得・科目履修を証明する書類を準備します。

③ 手数料を払い込みます。（「GIS 学術士（見込み）」は認定審査手数料 1,000 円＋税）。払込金受領書のコピーを申請書の裏面に貼付してください。

【払込先（郵便局）】

振替口座：00130 － 0 － 413143

加入者名：公益社団法人日本地理学会資格専門委員会

＊払込金受領書の「ご依頼人」の欄に，住所，氏名（大学名・学生番号）を記入してください。

④ 上記の必要書類一式を公益社団法人日本地理学会資格専門委員会まで郵送してください。

注 1）上記の情報は 2019 年 12 月時点のものであり，今後改訂される可能性もあります。申請に際しては，公益社団法人日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページを必ず事前に確認してください。不明な点があれば，塚本章宏（「GIS 学術士」徳島大学総合科学部代表担当者）まで問い合わせください。

12. 日本語教師の養成

国際交流基金による「海外の日本語教育の現状」(2018) によると，世界の日本語学習者は約 385 万人，教師数は約 7 万 7 千人となっています。学習者数は，この 10 年でほぼ変わりませんが，日本での就労機会や日系企業への就職を希望する外国人は，年々増加の一途をたどっています。来日後の日本語教育，来日時に同伴する児童生徒への日本語支援など，国内外での日本語教育は，グローバル化の進む日本社会において，重要な役割を担っています。日本政府の国家戦略の一つとして，日本国内への留学生や優秀な労働者の積極的な受け入れを進めており，日本語教師の必要性は今後とも増していくでしょう。

総合科学部では，日本語教員としての基礎的な資質・能力を身につけるための科目として，表 1 にある日本語教育関連の授業を開講しています。これらの科目は，文化審議会国語分科会が平成 31 年 3 月 4 日に取りまとめた「日本語教師【養成】における教育内容」に掲げられた必須の教育内容を盛り込んだものです。
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/r1393555_03.pdf
これらの科目を履修して単位を取得することで，そのことを証明する証明書を本学部が発行します。日本語教師のための公的な資格や免許ではありませんが，日本語教師としての基礎的な資質・能力を身につけたことの証明になります。国内外の日本語学校はもちろん，官公庁や教育現場などに必要な人材として，日本語教師としての資格は，将来生かすことができると思います。

表 1 「日本語教員養成講座」で開設している授業科目と単位数

群	主な必須の教育内容	必要単位数	科目名	単位数
Ⅰ	世界と日本の社会と文化 世界と日本の日本語教育事情	2 ～ 4	※世界の中の日本語	2
			総合科学の基礎Ｂ（文化研究の基礎）	2
			総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2
Ⅱ	コミュニケーションストラテジー 待遇・敬意表現	2 ～ 4	日本言語概説	2
			日本言語演習Ⅰ	4
Ⅲ	言語学習 一般言語学	2 ～ 4	日本言語研究	2
			応用日本語学研究	2
Ⅳ	日本語教育のための日本語分析	2 ～ 4	総合科学の基礎Ａ（日本語表現の基礎）	2
	日本語教育のための語彙体系		応用日本語学概説	2
Ⅴ	異文化コミュニケーション 対人関係能力	2 ～ 4	総合科学実践講義Ａ（グローバル文化論）	2
			総合科学実践講義Ｆ（多文化共生論）	2
			総合科学部実践プロジェクトＡ（グローバル日本語支援）	2
			総合科学部実践プロジェクトＢ（サマープログラム協力）	2
Ⅵ	日本語教師の資質・能力	2 ～ 4	日本語教授法Ⅰ	2
	教授法など		日本語教授法Ⅱ	2
Ⅶ	評価法	2 ～ 4	日本語教育方法論Ⅰ	2
	授業分析・自己点検能力		日本語教育方法論Ⅱ	2
Ⅷ	コースデザイン	2 ～ 4	日本語教材研究	2
	教材分析・作成・開発など		日本言語演習Ⅱ	4
Ⅸ	教育実習	1 ～ 3	総合科学部実践プロジェクトＪ（中国・台湾・オーストラリア研修）	2
すべての群から必要最低単位数を修得して，なおかつ合計 26 単位以上を修得すること				

※は教養教育院開設科目

13. グローバル人材育成学習プログラム

総合科学部では，学科横断的な複数科目を受講することで一定のまとまった知識や能力を獲得できるようにまとめた一連の科目を「学習プログラム」と名付けてまとめ，「グローバル人材育成学習プログラム」を用意しています。これらの科目の一部のみを受講することもできますが，プログラム所定の単位を修得した場合は，プログラム単位修得証明書を発行します。くわしくは学務係でたずねてください。

この学習プログラムは，所定の科目の修得と短期留学，さらには海外交流協定校※1などへの長期留学（セメスター単位）の経験を踏まえて，異文化に対する豊かな洞察力と確かな語学力を身につけ，国内外の社会で世界的な視野をもって活躍することができる人材を育成することを目的としています。日本文化および多文化理解のための科目履修（1，2年次中心）に，早期（1年次が望ましい）の短期留学を経て，2年次後期以降の長期留学という学習課程をここでは想定しています。

このプログラムには英語を軸とするものと中国語を軸とするものがあります。所定科目とプログラム修了証明書の取得に必要な単位数は表1のとおりです。必要単位数を修得した上で，語学検定試験の成績，短期留学の経験，長期留学での単位修得の有無などを加味して，証明書には複数のランクが設定されています。その種類と取得要件は表2のとおりです。Sランクを取得した場合，学部長による表彰の対象になります。証明書の申請は3年次11月以降から出来ます。すでに証明書を取得している場合でも，語学検定試験の成績向上などにより，再申請が可能です。

英語を軸とするプログラムに参加する場合は1年次終了時に，中国語を軸とするプログラムに参加する場合は2年次終了時までに学務係で登録してください※2。なお，このプログラムへの登録が，海外交流協定校への長期留学（セメスター単位）の条件になっています。交流協定校への留学を希望する皆さんは，必ずこのプログラムに登録してください。

※1 「手引き」27頁参照

※2 ただし，語学検定試験で以下のいずれかの水準を超えた場合は，英語を軸とするプログラムの場合は2年次中途，中国語を軸とするプログラムの場合は3年次中途での登録を認めます。

英　語	TOEFL iBT　80点	TOEFL ITP　550点	TOEIC　730点	実用英語技能検定（英検）準1級	IELTS　6.0点
中国語	中国語検定4級	HSK　2級	TECC　400点		

※ 海外交流協定校への派遣留学について，年に2度の報告会を開催しています。派遣された皆さんは，帰国後にその経験を後輩に伝えるために，そこで報告することが義務づけられています。また，留学を希望する皆さんはその準備のために必ず参加してください。

表１　グローバル人材育成学習プログラム修了証明書取得に必要な単位数

授業カテゴリー	必要単位数	授業科目・題目名※※
日本の社会と文化を理解するための科目	10 単位	別表１－１
サマー・スクール参加科目		
グローバル化と現代社会の諸問題を理解するための科目	6 単位	
英語運用能力向上のための科目※	8 単位	
中国語運用能力向上のための科目※	8 単位	
		合計　24 単位以上

※英語８単位，中国語８単位はいずれかを選択。

※※授業科目･題目名については別表１－１を参照すること。ただし，教養教育科目の授業題目については年度によって変更になる場合があるので学務係で確認すること。

表２－１　プログラム修了証明書のランク

証明書のランク	ポイント
S	22 以上
A	19 以上
B	16 以上
C	11 以上

表２－２　加算ポイント基準（語学検定はいずれか一つを採用する）

語学検定（英語）ランク	ポイント
TOEFL iBT100，TOEIC870，英検１級，IELTS7.0 以上	11
TOEFL iBT80，TOEIC730，英検準１級，IELTS6.0 以上	8
TOEFL iBT60，TOEIC550，英検２級，IELTS5.0 以上	5
TOEFL iBT45，TOEIC450，英検準２級，IELTS4.0 以上	2
語学検定（中国語）ランク	ポイント
HSK ５級，HSK 口頭試験高級，中国語検定準１級，TECC700 点以上	11
HSK ４級，HSK 口頭試験中級，中国語検定２級，TECC600 点以上	8
HSK ３級，HSK 口頭試験初級，中国語検定３級，TECC500 点以上	5
HSK ２級，中国語検定４級，TECC400 点以上	2
短期語学等研修（３週間以上）	ポイント３
長期（セメスター単位）留学	ポイント
５科目以上単位認定	11
３科目以上単位認定	8
１科目以上単位認定	5
海外インターンシップ経験	ポイント３

※ TOEFL は iBT 試験を利用する。TOEIC は IP 試験を除く。

別表１－１　令和３年度開講の授業

授業カテゴリー	科　　目　　名	必要単位数
日本の社会と文化を理解するための科目	**（教養教育科目）** 徳島を考える 日本国憲法 江戸時代後期の社会変動と明治維新 能・狂言・文楽・歌舞伎 世界の中の日本語 古代・中世日本の社会 沖縄社会文化論 **（総合科学部科目）** 近現代世界の成立と展開 現代日本社会論 日本研究Ⅰ（Japanese Studies） 日本研究Ⅱ（Japanese Studies）	10単位
総合科学部サマー・スクール科目	**（総合科学部科目）** 総合科学実践プロジェクトＢ	
グローバル化と現代社会の諸問題を理解するための科目	**（教養教育科目）** 異文化／自文化研究へのいざない 国際政治学入門 国際協力論－入門編 現代世界の展開Ⅰ **（総合科学部科目）** 比較宗教学 グローバル交渉史 国際関係論（国際法を含む） 平和学 現代国際情勢概論 国際協力論－応用編 グローバル･ヒストリー 国際語としての英語 総合科学実践プロジェクトＡ，Ｂ，Ｅ	6単位
英語運用能力向上のための科目※	**（総合科学部科目）** Academic English Ⅰ，Ⅱ Academic Communications Ⅰ，Ⅱ	8単位
中国語運用能力向上のための科目※	**（教養教育科目）** 中国語入門 中国語初級 **（総合科学部科目）** 実用外国語基礎演習（中国語）Ⅰ，Ⅱ 実用中国語演習	8単位
	計	24単位以上

14. とくしま創生人材教育プログラム（COC+R プログラム）

・本教育プログラムは，文部科学省「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業（COC ＋ R 事業)」に令和２年度に採択され，令和３年度入学生から開始する徳島大学独自の教育プログラムです。
・地域を創生する能力と素養を育成するための特別のプログラムです。
・徳島の地域で将来性のある企業で活躍できる職に就くため，行政などでまちづくりや地域の開発を担う技術者やリーダーとなるため，大学時代に地域の多様な企業や行政の仕事，OB ／ OG などの方々と知りあうことなど，皆さんにとって大きな力を身に付ける機会となります。徳島県内で将来働くことを考えている人は，履修してください。

履修プログラムの流れ　以下の２つの分野の科目を履修します。

★★地域学習・実習科目★★

地域の先進的な業種や地域の未来を学び，地域で活躍する人々と知り合い，皆さんの実践力を身に付ける科目です。

１年生　＜徳島を知ろう＞　まずは，以下の教養教育科目（地域科学科目）を履修してください。

１）エクスターンシップ（地域企業を知る・読み解く）　通年２単位

徳島県内の主要な企業・行政の経営者・OB ／ OG と学内でグループワークをします。また複数の企業で半日程度の短期のインターンシップをして，地域で活躍する人々とのつながりを体験します。６月から７月，10 月から 12 月の通年履修です。

２）徳島の魅力・徳島で働く　前期夏期集中（８月）　２単位

四国大学･徳島文理大学･阿南工業高等専門学校と共同で行う授業です。徳島県内で活躍するリーダーや OB ／ OG を講師に迎えて，働く経験やメリットを学びます。他大学の学生と一緒にワークショップで地域創生を考えます。

１年～３年　＜実践力を身に付けよう。自らのライフデザインを作ろう。＞

実践力を身に付ける，徳島の先進的な企業等でのインターンシップにチャレンジしてください。

３）実践型インターンシップ（教養教育・地域科学）1，２年　通年２単位
４）実践力養成型インターンシップ（総合科学部　専門科目）２年　２単位
５）実践力養成型インターンシップ（理工学部　専門科目）３年　２単位
６）産業体験実習（生物資源産業学部　専門科目）２年　１単位

地域で働き，生活し，人生で目指すこと，自分のライフをデザインする。

７）ライフデザイン　教養教育・生活と社会　2，３年　２単位（R ４開講予定）
８）ダイバーシティ・キャリアデザイン　教養教育・グローバル　３年　２単位（R ５開講予定）

７），８）の科目の詳しい内容は開講前年度に発表します。

★★基礎力育成科目の履修★★

地域で活躍するための基礎力を身に付ける科目です。共通科目に加えて，３つの分野からなります。

共通科目　情報科学入門　教養教育・情報科学　必修２単位

テーマ１　情報処理（データサイエンス）

1　データサイエンスへの誘い　教養科目・イノベーション　２単位
2　プログラミング入門及び演習　理工学部・情報光システム　２単位
3　情報処理基礎論　総合科学部　２単位
4　ソフトウェア設計及び実験　理工学部・情報系　６単位
5　社会統計学Ⅰ　総合科学部　２単位
6　アプリケーション開発演習　理工学部・共通　２単位

テーマ２　マネジメント　（プロジェクト管理）

1　イノベーション思考入門　教養教育・イノベーション　２単位
2　商品企画・開発論　生物資源産業学部　２単位
3　地域・生物資源経済学Ⅰ　生物資源産業学部　２単位
4　プロジェクトマネジメント基礎　理工学部・共通　２単位
5　会計学Ⅰ　総合科学部　２単位
6　経営学Ⅰ　総合科学部　２単位
7　アントレプレナーシップ演習　理工学部・共通　２単位

テーマ３　デザイン・コミュニケーション

1　ビジュアル・コミュニケーション　教養教育・イノベーション　２単位
2　グラフィック・ファシリテーション入門　教養教育・イノベーション　２単位
3　映像デザイン　総合科学部　２単位
4　アイデア・デザイン創造　理工学部・共通　２単位
5　デザイン表現演習Ⅰ　総合科学部　２単位
6　参加型デザイン　理工学部・社会基盤デザイン　２単位
7　デザイン表現演習Ⅱ　総合科学部　２単位

自らの興味をもとに，一つの分野を選び集中して履修することを推奨します。なお，上記科目（一部を除く）は他学部・他学科・他コースの学生も他学部・他学科・他コース履修制度や単位互換等で履修できます。科目は今後追加されることがあります。

○ COC+R プログラム履修登録

徳島で将来働きたいと考えている人は，COC ＋ R　プログラムの履修登録をしてください。プログラム履修は原則として１年次配当の地域学習・実習科目を履修した人（エクスターンシップ，徳島の魅力・徳島で働く，実践型インターンシップ）が対象です。登録は１年次終了後にＷＥＢサイトの専用フォームから行います。

プログラム履修者には以下のような支援・特典があります。

〇とくしまでのつながりイベントなどの情報提供

徳島で働く先輩らとのつながり，地域の企業の情報が得られる多彩なイベント，セミナーなどの情報を提供します。

〇専門外の資格取得支援

プログラム履修者には，就職等に有利な，自分の専門分野以外の資格取得を支援します。

〇履修証明，地域クリエーター・マイレージ・ポイント（略称：地域クリエーターポイント）

下記のような，就職時にポートフォリオとして示せる証明がもらえます。

1）プログラム修了，履修証明

地域学習・実習科目のうち２科目以上を含み，地域学習・実習科目と基礎力育成科目から合計６科目以上を履修した人にプログラム履修修了書を交付します。２年次終了時に地域学習・実習科目１科目以上を含み，地域学習・実習科目と基礎力育成科目から合計３科目以上履修した人にはプログラム履修証明を交付します。

2）地域クリエーター・マイレージ・ポイント（地域クリエーターポイント）の認証

プログラム履修者には，上記科目の履修時間数およびCOC ＋ R 事業関連のイベント，セミナー等への出席を地域クリエーターポイントとして付与し，その認証状を交付します。

3）地域クリエーター表彰

高い地域クリエーターポイントを取得した学生は徳島大学長・徳島県知事名で表彰されます。２年次終了までの地域クリエーターポイント取得上位者（３年生で表彰），および３年次終了までの上位者（４年生で表彰）が表彰対象です。

とくしま創生人材教育プログラム（COC+R)　カリキュラムマップ（令和３年度入学学部生）

科目開講学部等　学部　教：教養教育　総：総合科学部　理：理工学部　生：生物資源産業学部
P：地域クリエーター・マイレージ・ポイント（地域クリエーターポイント）　実時間：単位修得の必要以上に学習した時間がポイントになります。

V. そ　　の　　他

コース担当教員一覧表

社会総合科学科

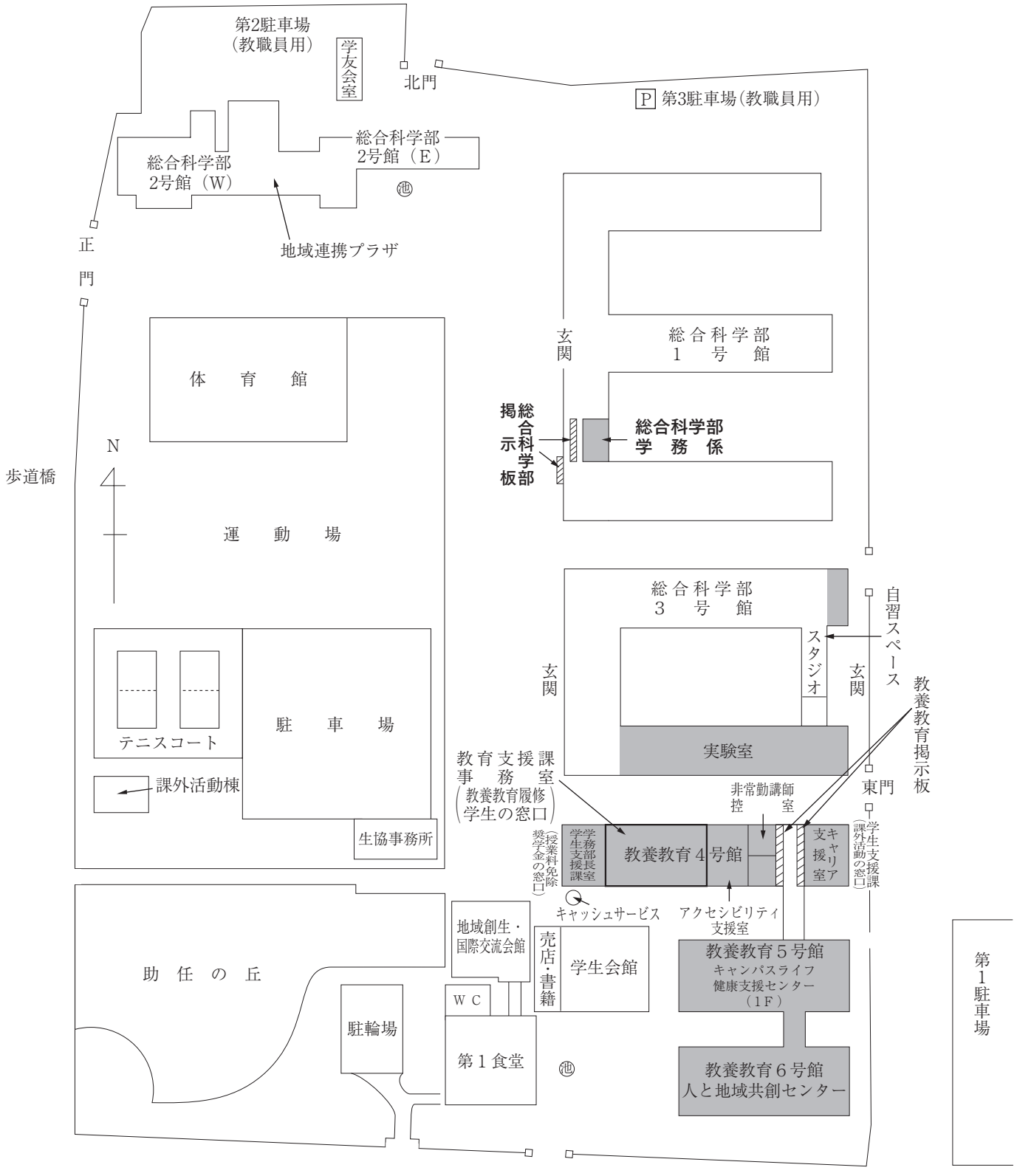
コース名	職名	氏名
国際教養コース	教授	荒武達朗
	教授	井戸慶治
	教授	佐久間亮
	教授	スティーヴンズ, メリディス・アン
	教授	田久保浩
	教授	田島俊郎
	教授	堤和博
	教授	ヘルベルト, ヴォルフガング
	教授	㊐ 村上敬一
	教授	依岡隆児
	教授	山口裕之
	教授	山田仁子
	准教授	新田元規
	准教授	今井晋哉
	准教授	㊚ 河田和子
	准教授	熊坂元大
	准教授	座喜純
	准教授	田中佳
	准教授	中島浩二
	准教授	㊝ 樋口友乃
	准教授	山内暁彦
	准教授	吉岡宏祐
	准教授	吉田文美
	准教授	シートゲス, オラフ
	講師	㊞ 服部恒太
心身健康コース	教授	坂田大輔
	教授	佐藤健二
	教授	㊐ 佐藤充宏
	教授	㊞ 佐藤裕
	教授	三浦哉
	教授	山口鉄生
	教授	山本真由美
	准教授	内海千種
	准教授	佐竹昌之
	准教授	中川隆彦
	准教授	中塚健太郎
	准教授	福森崇貴
	准教授	㊚ 横谷謙次
	准教授	山本哲也
	講師	㊝ 津村秀樹
	講師	甲田宗良

㊐：コース長　㊝：教務委員　㊚：学生委員　㊞：就職委員

コース名	職名	氏名
公共政策コース	教授	㊐ 饗場 和彦
	准教授	上原 克之
	准教授	㊚ 小田切 康彦
	准教授	清水 真人
	准教授	㊙ 趙 彤
	講師	㊛ 柴田 尭史
地域創生コース	教授	石田 基広
	教授	㊐ 衣川 仁
	教授	桑原 恵
	教授	髙橋 晋一
	教授	豊田 哲也
	教授	中村 豊
	教授	平木 美鶴
	教授	㊙ 矢部 拓也
	准教授	掛井 秀一
	准教授	河原崎 貴光
	准教授	㊚ 佐原 理
	准教授	㊛ 田口 太郎
	准教授	塚本 章宏
	准教授	内藤 直樹
	准教授	山口 博史
	准教授	渡邉 克典

㊐：コース長　㊛：教務委員　㊚：学生委員　㊙：就職委員

総合科学部(教養教育棟を含む)建物配置図

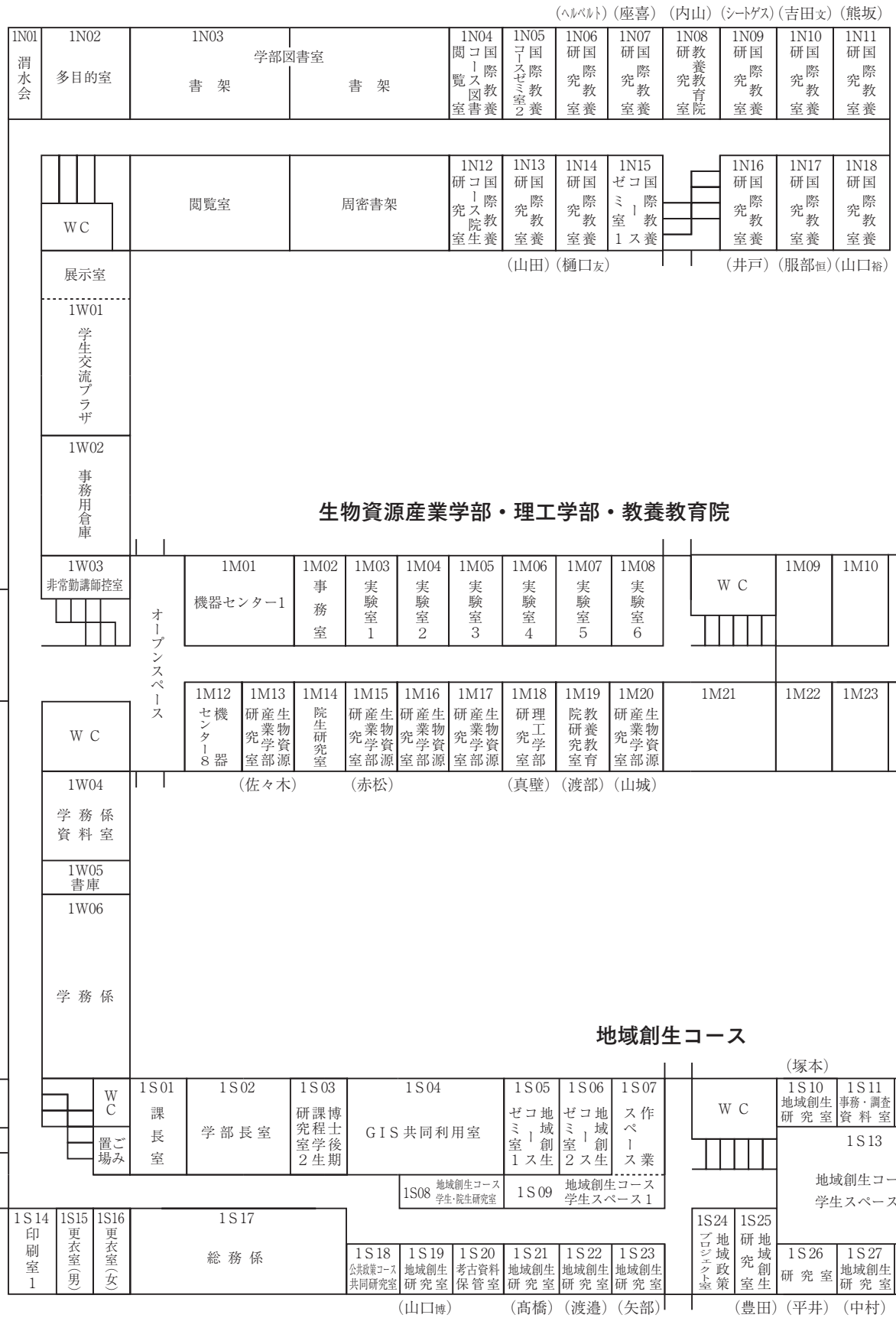


講義室・実験室および教員研究室配置図

〔１階〕

総合科学部１号館

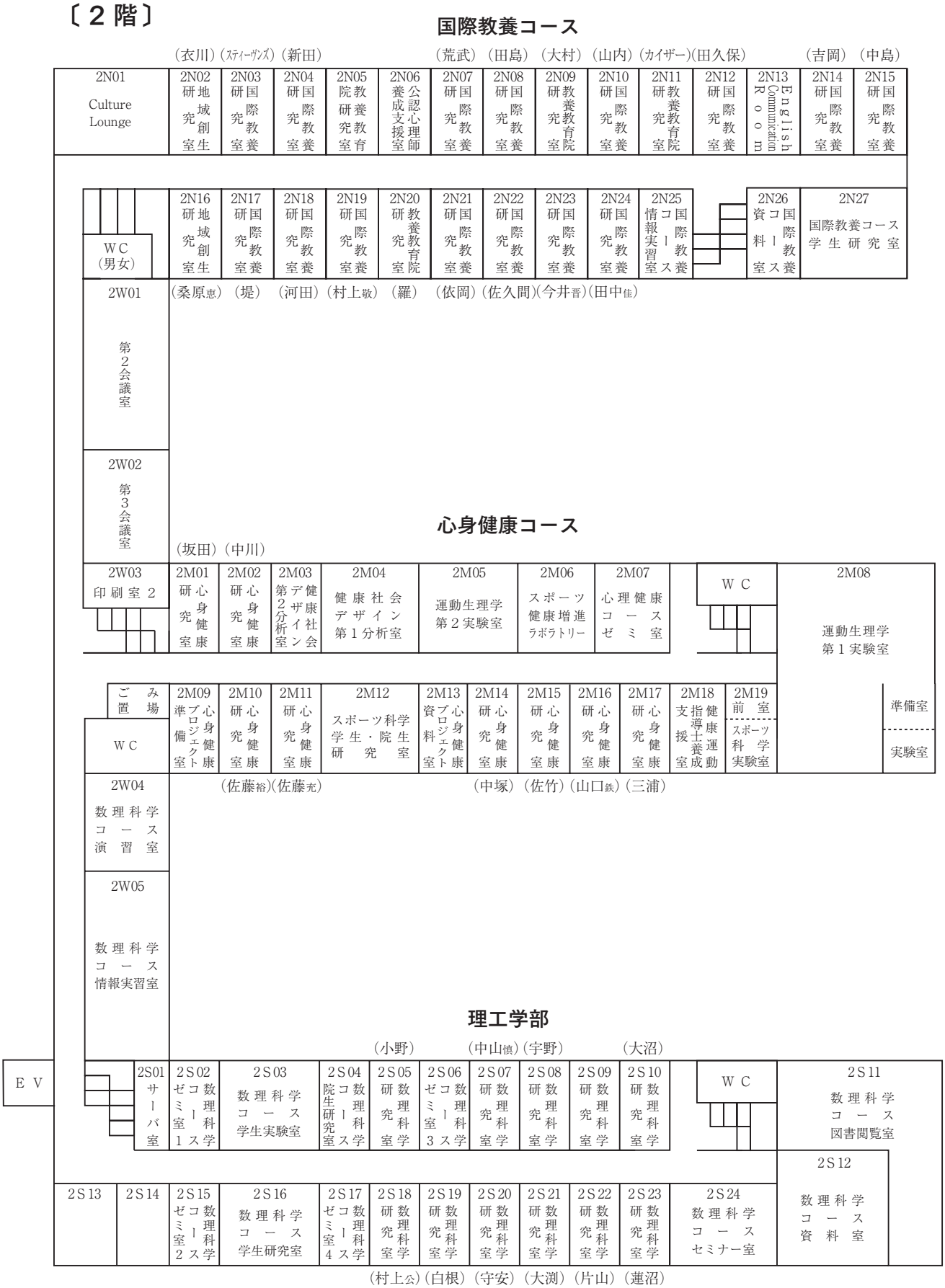
国際教養コース



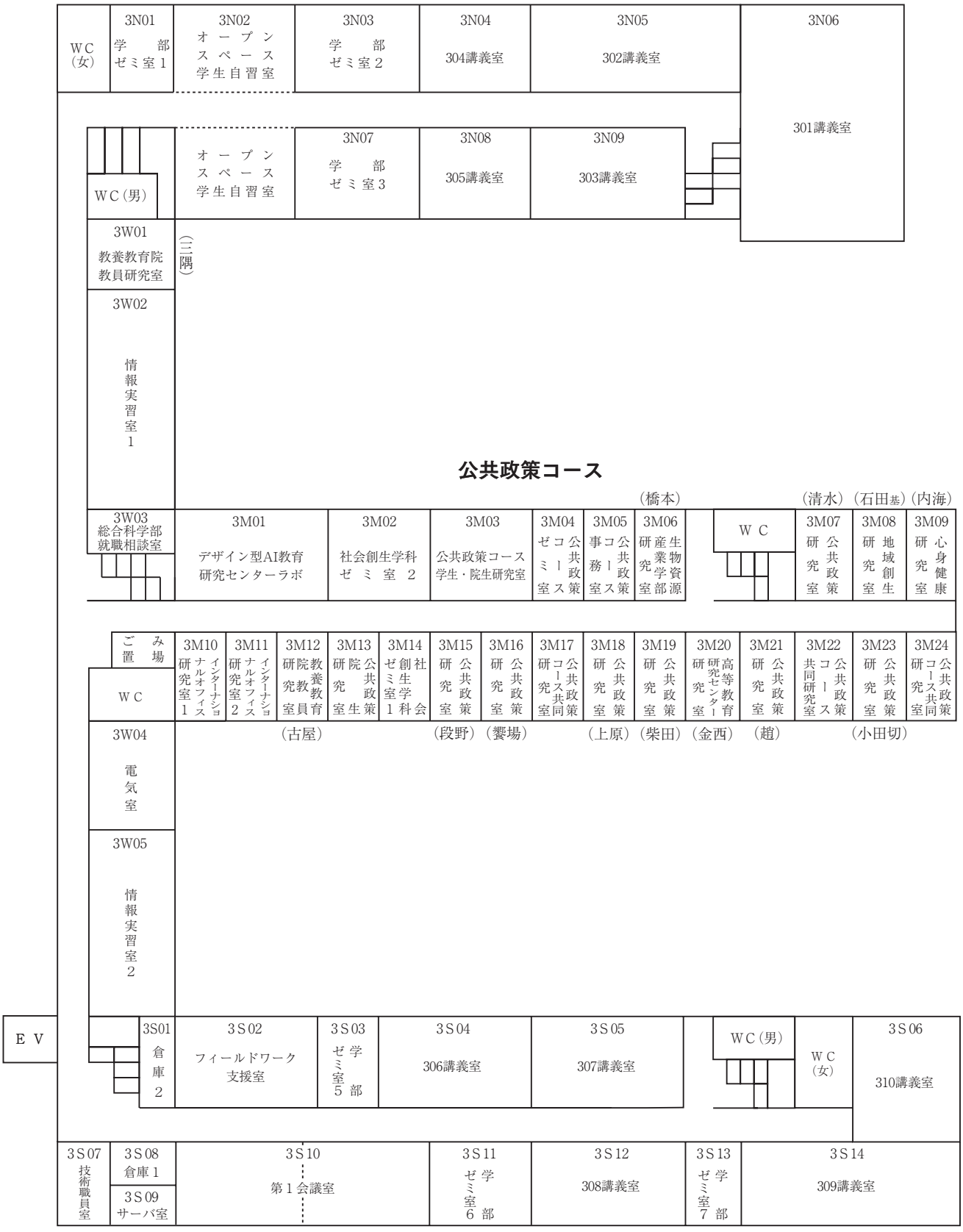
生物資源産業学部・理工学部・教養教育院

地域創生コース

〔２階〕

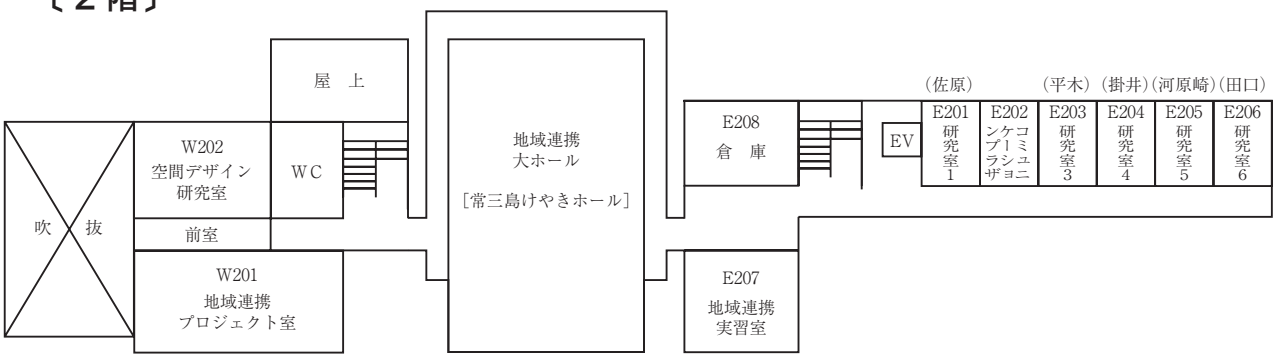

国際教養コース
（衣川）（ｽﾃｨｰｳﾞﾝｽﾞ）（新田）
（荒武）（田島）（大村）（山内）（ｶｲｻﾞｰ）（田久保）
（吉岡）（中島）
2N01 Culture Lounge
2N02 研究室 地域創生
2N03 研究室 国際教養
2N04 研究室 国際教養
2N05 研究室 院教養教育
2N06 養成支援室 公認心理師
2N07 研究室 国際教養
2N08 研究室 国際教養
2N09 研究室 教養教育院
2N10 研究室 国際教養
2N11 研究室 教養教育院
2N12 研究室 国際教養
2N13 English Communication Room
2N14 研究室 国際教養
2N15 研究室 国際教養
WC（男女）
2N16 研究室 地域創生
2N17 研究室 国際教養
2N18 研究室 国際教養
2N19 研究室 国際教養
2N20 研究室 教養教育院
2N21 研究室 国際教養
2N22 研究室 国際教養
2N23 研究室 国際教養
2N24 研究室 国際教養
2N25 情報実習室 国際教養コース
2N26 資料室 国際教養コース
2N27 国際教養コース学生研究室
2W01 第2会議室
（桑原恵）（堤）（河田）（村上敬）（羅）（依岡）（佐久間）（今井晋）（田中佳）
2W02 第3会議室
心身健康コース
（坂田）（中川）
2W03 印刷室2
2M01 研究室 心身健康
2M02 研究室 心身健康
2M03 第2分析室 健康社会デザイン
2M04 健康社会デザイン第1分析室
2M05 運動生理学第2実験室
2M06 スポーツ健康増進ラボラトリー
2M07 心理健康コース ゼミ室
WC
2M08 運動生理学第1実験室
ごみ置場
2M09 準備室 心身健康プロジェクト
2M10 研究室 心身健康
2M11 研究室 心身健康
2M12 スポーツ科学学生・院生研究室
2M13 資料室 心身健康プロジェクト
2M14 研究室 心身健康
2M15 研究室 心身健康
2M16 研究室 心身健康
2M17 研究室 心身健康
2M18 支援室 健康運動指導士養成
2M19 前室
スポーツ科学実験室
準備室
実験室
WC
（佐藤裕）（佐藤充）
（中塚）（佐竹）（山口鉄）（三浦）
2W04 数理科学コース演習室
2W05 数理科学コース情報実習室
理工学部
（小野）（中山慎）（宇野）（大沼）
EV
2S01 サーバ室
2S02 ゼミ室1 数理科学コース
2S03 数理科学コース学生実験室
2S04 院生研究室 数理科学コース
2S05 研究室 数理科学
2S06 ゼミ室3 数理科学コース
2S07 研究室 数理科学
2S08 研究室 数理科学
2S09 研究室 数理科学
2S10 研究室 数理科学
WC
2S11 数理科学コース図書閲覧室
2S12 数理科学コース資料室
2S13
2S14
2S15 ゼミ室2 数理科学コース
2S16 数理科学コース学生研究室
2S17 ゼミ室4 数理科学コース
2S18 研究室 数理科学
2S19 研究室 数理科学
2S20 研究室 数理科学
2S21 研究室 数理科学
2S22 研究室 数理科学
2S23 研究室 数理科学
2S24 数理科学コースセミナー室
（村上公）（白根）（守安）（大渕）（片山）（蓮沼）

〔３階〕

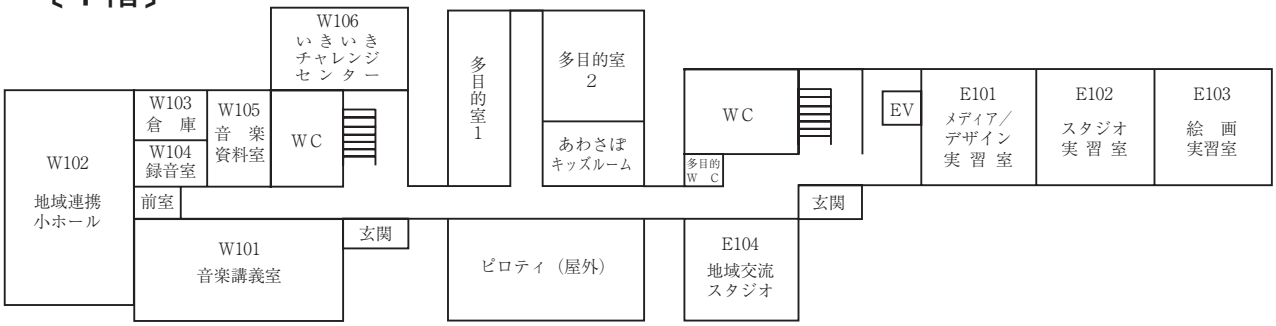

WC（女）
3N01 学部ゼミ室１
3N02 オープンスペース 学生自習室
3N03 学部ゼミ室２
3N04 304講義室
3N05 302講義室
3N06 301講義室
WC（男）
オープンスペース 学生自習室
3N07 学部ゼミ室３
3N08 305講義室
3N09 303講義室
3W01 教養教育院教員研究室
（三隅）
3W02 情報実習室１
公共政策コース
（橋本）（清水）（石田基）（内海）
3W03 総合科学部就職相談室
3M01 デザイン型AI教育研究センターラボ
3M02 社会創生学科ゼミ室２
3M03 公共政策コース学生・院生研究室
3M04 公共政策コースゼミ室
3M05 公共政策コース事務室
3M06 生物資源産業学部研究室
WC
3M07 公共政策研究室
3M08 地域創生研究室
3M09 心身健康研究室
ごみ置場
WC
3M10 インターナショナルオフィス研究室１
3M11 インターナショナルオフィス研究室２
3M12 教養教育院教員研究室
3M13 公共政策研究室
3M14 社会創生学科ゼミ室１
3M15 公共政策研究室
3M16 公共政策研究室
3M17 公共政策コース共同研究室
3M18 公共政策研究室
3M19 公共政策研究室
3M20 高等教育研究センター研究室
3M21 公共政策研究室
3M22 公共政策コース共同研究室
3M23 公共政策研究室
3M24 公共政策コース共同研究室
（古屋）（段野）（饗場）（上原）（柴田）（金西）（趙）（小田切）
3W04 電気室
3W05 情報実習室２
EV
3S01 倉庫２
3S02 フィールドワーク支援室
3S03 学部ゼミ室５
3S04 306講義室
3S05 307講義室
WC（男）
WC（女）
3S06 310講義室
3S07 技術職員室
3S08 倉庫１
3S09 サーバ室
3S10 第１会議室
3S11 学部ゼミ室６
3S12 308講義室
3S13 学部ゼミ室７
3S14 309講義室

2　号　館

〔２階〕

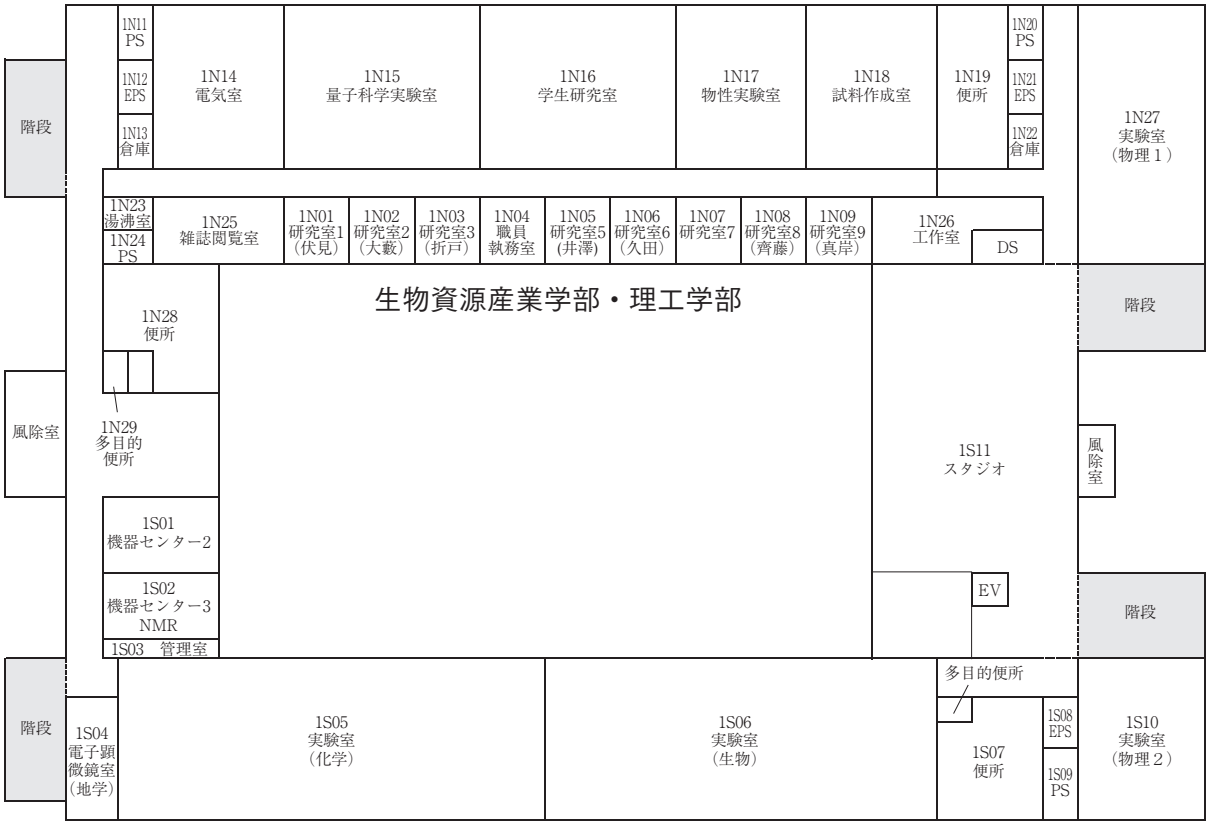

屋　上
地域連携
大ホール
［常三島けやきホール］
E208
倉　庫
EV
（佐原）
（平木）（掛井）（河原崎）（田口）
E201
研究室1
E202
ンケコプーミラシュザヨニ
E203
研究室3
E204
研究室4
E205
研究室5
E206
研究室6
W202
空間デザイン
研究室
WC
吹　抜
前室
W201
地域連携
プロジェクト室
E207
地域連携
実習室

〔１階〕


W106
いきいき
チャレンジ
センター
多目的室1
多目的室
2
あわさぽ
キッズルーム
WC
EV
E101
メディア／
デザイン
実習室
E102
スタジオ
実習室
E103
絵　画
実習室
W102
地域連携
小ホール
W103
倉　庫
W104
録音室
W105
音　楽
資料室
WC
多目的
WC
前室
玄関
玄関
W101
音楽講義室
ピロティ（屋外）
E104
地域交流
スタジオ

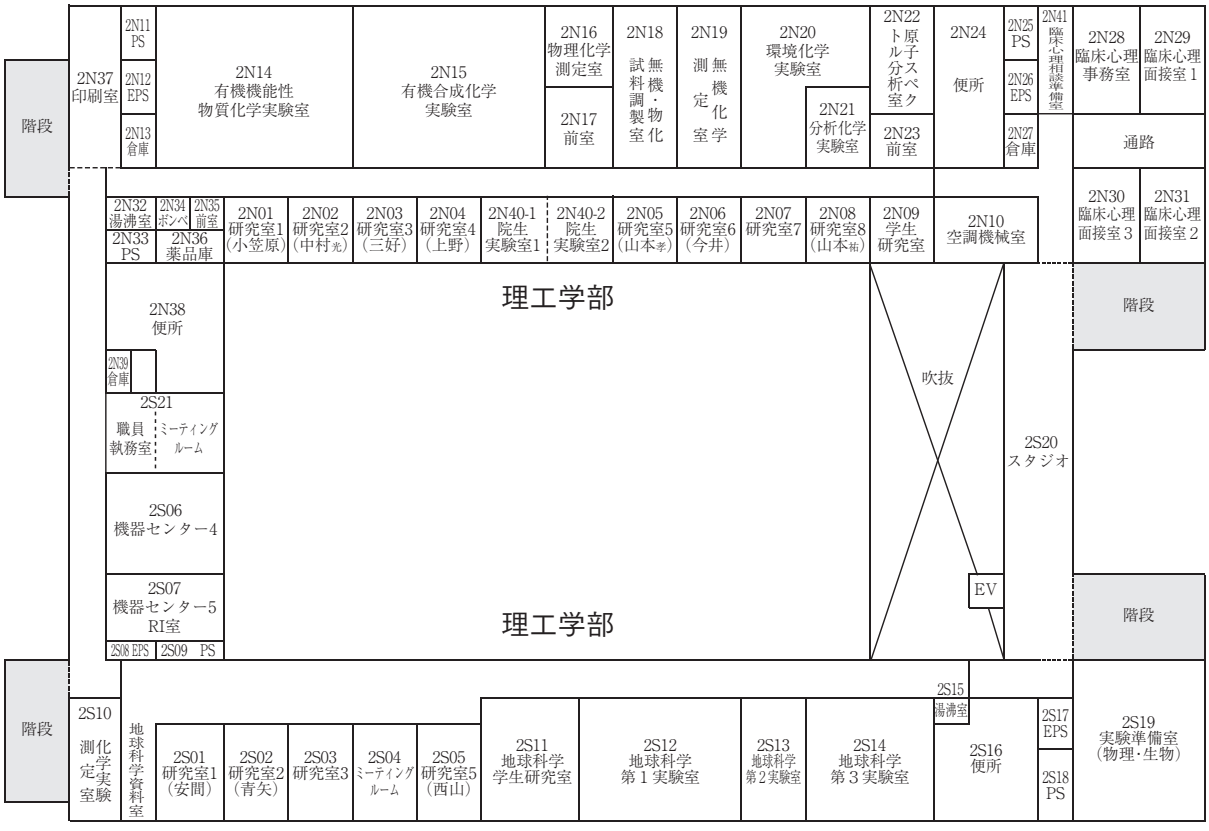
3　号　館

〔１階〕



階段
1N11 PS
1N12 EPS
1N13 倉庫
1N14 電気室
1N15 量子科学実験室
1N16 学生研究室
1N17 物性実験室
1N18 試料作成室
1N19 便所
1N20 PS
1N21 EPS
1N22 倉庫
1N27 実験室（物理１）
1N23 湯沸室
1N24 PS
1N25 雑誌閲覧室
1N01 研究室1（伏見）
1N02 研究室2（大藪）
1N03 研究室3（折戸）
1N04 職員執務室
1N05 研究室5（井澤）
1N06 研究室6（久田）
1N07 研究室7
1N08 研究室8（齊藤）
1N09 研究室9（真岸）
1N26 工作室
DS
1N28 便所
生物資源産業学部・理工学部
階段
風除室
1N29 多目的便所
1S11 スタジオ
風除室
1S01 機器センター2
1S02 機器センター3 NMR
1S03 管理室
EV
階段
階段
1S04 電子顕微鏡室（地学）
1S05 実験室（化学）
1S06 実験室（生物）
多目的便所
1S07 便所
1S08 EPS
1S09 PS
1S10 実験室（物理２）

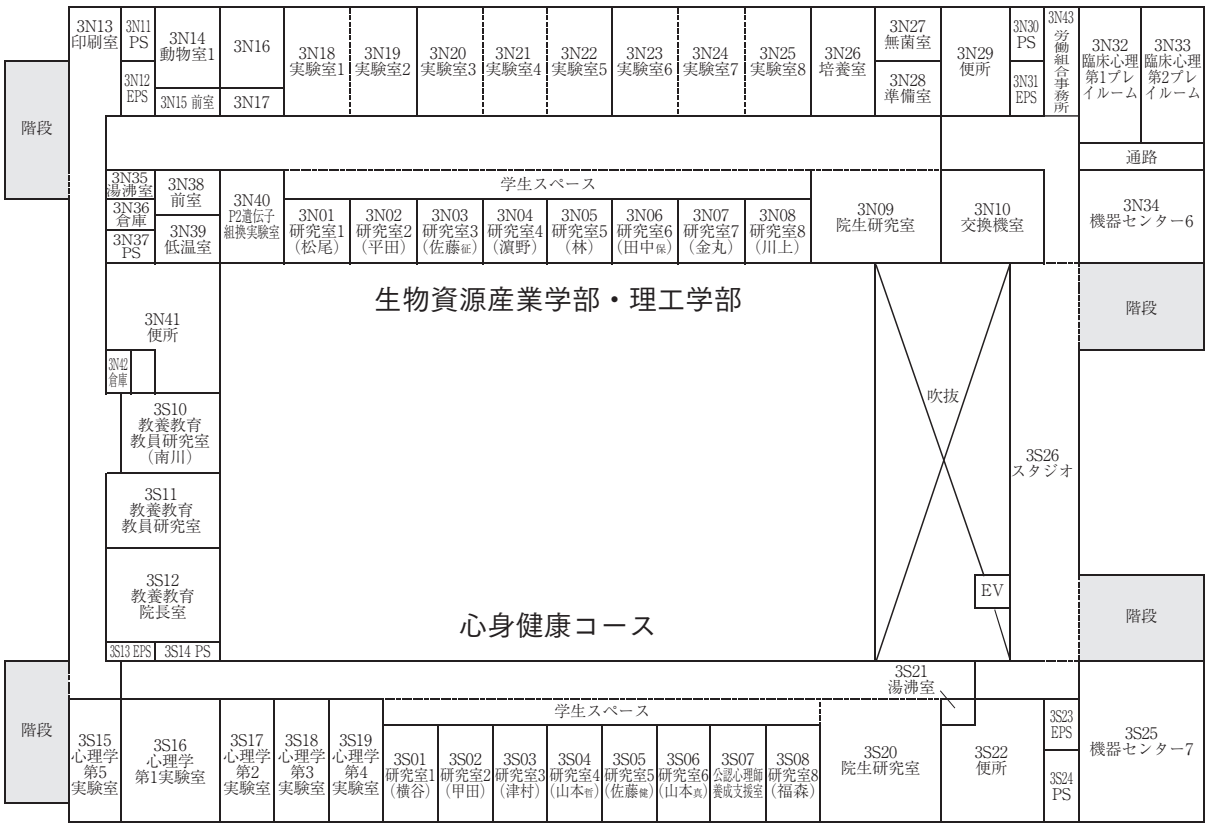
〔２階〕



階段
2N37 印刷室
2N11 PS
2N12 EPS
2N13 倉庫
2N14 有機機能性物質化学実験室
2N15 有機合成化学実験室
2N16 物理化学測定室
2N17 前室
2N18 無機・物化試料調製室
2N19 無機化学測定室
2N20 環境化学実験室
2N21 分析化学実験室
2N22 原子スペクトル分析室
2N23 前室
2N24 便所
2N25 PS
2N26 EPS
2N27 倉庫
2N41 臨床心理相談準備室
2N28 臨床心理事務室
2N29 臨床心理面接室１
通路
2N32 湯沸室
2N33 PS
2N34 ボンベ
2N35 前室
2N36 薬品庫
2N01 研究室1（小笠原）
2N02 研究室2（中村光）
2N03 研究室3（三好）
2N04 研究室4（上野）
2N40-1 院生実験室1
2N40-2 院生実験室2
2N05 研究室5（山本孝）
2N06 研究室6（今井）
2N07 研究室7
2N08 研究室8（山本祐）
2N09 学生研究室
2N10 空調機械室
2N30 臨床心理面接室３
2N31 臨床心理面接室２
2N38 便所
理工学部
階段
2N39 倉庫
2S21 職員執務室
ミーティングルーム
吹抜
2S20 スタジオ
2S06 機器センター4
2S07 機器センター5 RI室
EV
階段
2S08 EPS
2S09 PS
理工学部
階段
2S10 化学実験測定室
地球科学資料室
2S01 研究室1（安間）
2S02 研究室2（青矢）
2S03 研究室3
2S04 ミーティングルーム
2S05 研究室5（西山）
2S11 地球科学学生研究室
2S12 地球科学第１実験室
2S13 地球科学第２実験室
2S14 地球科学第３実験室
2S15 湯沸室
2S16 便所
2S17 EPS
2S18 PS
2S19 実験準備室（物理・生物）

3　号　館

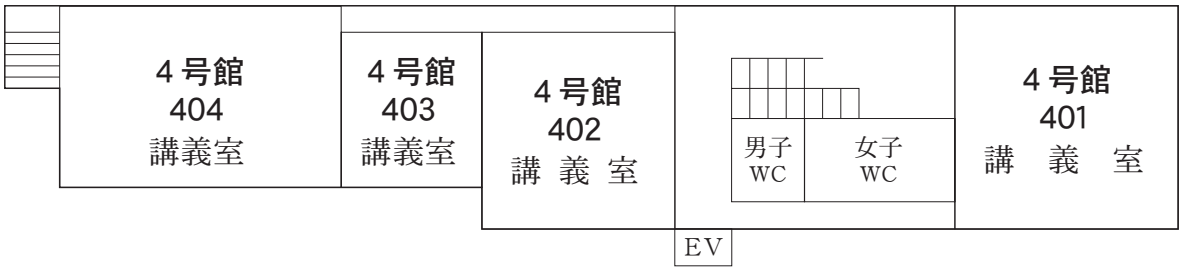
〔3階〕


3N13 印刷室
3N11 PS
3N12 EPS
3N14 動物室1
3N15 前室
3N16
3N17
3N18 実験室1
3N19 実験室2
3N20 実験室3
3N21 実験室4
3N22 実験室5
3N23 実験室6
3N24 実験室7
3N25 実験室8
3N26 培養室
3N27 無菌室
3N28 準備室
3N29 便所
3N30 PS
3N31 EPS
3N43 労働組合事務所
3N32 臨床心理第1プレイルーム
3N33 臨床心理第2プレイルーム
階段
通路
3N35 湯沸室
3N36 倉庫
3N37 PS
3N38 前室
3N39 低温室
3N40 P2遺伝子組換実験室
学生スペース
3N01 研究室1 (松尾)
3N02 研究室2 (平田)
3N03 研究室3 (佐藤征)
3N04 研究室4 (濵野)
3N05 研究室5 (林)
3N06 研究室6 (田中保)
3N07 研究室7 (金丸)
3N08 研究室8 (川上)
3N09 院生研究室
3N10 交換機室
3N34 機器センター6
生物資源産業学部・理工学部
3N41 便所
3N42 倉庫
吹抜
3S26 スタジオ
3S10 教養教育教員研究室 (南川)
3S11 教養教育教員研究室
3S12 教養教育院長室
EV
心身健康コース
3S13 EPS
3S14 PS
3S21 湯沸室
3S15 心理学第5実験室
3S16 心理学第1実験室
3S17 心理学第2実験室
3S18 心理学第3実験室
3S19 心理学第4実験室
学生スペース
3S01 研究室1 (横谷)
3S02 研究室2 (甲田)
3S03 研究室3 (津村)
3S04 研究室4 (山本晋)
3S05 研究室5 (佐藤健)
3S06 研究室6 (山本真)
3S07 公認心理師養成支援室
3S08 研究室8 (福森)
3S20 院生研究室
3S22 便所
3S23 EPS
3S24 PS
3S25 機器センター7

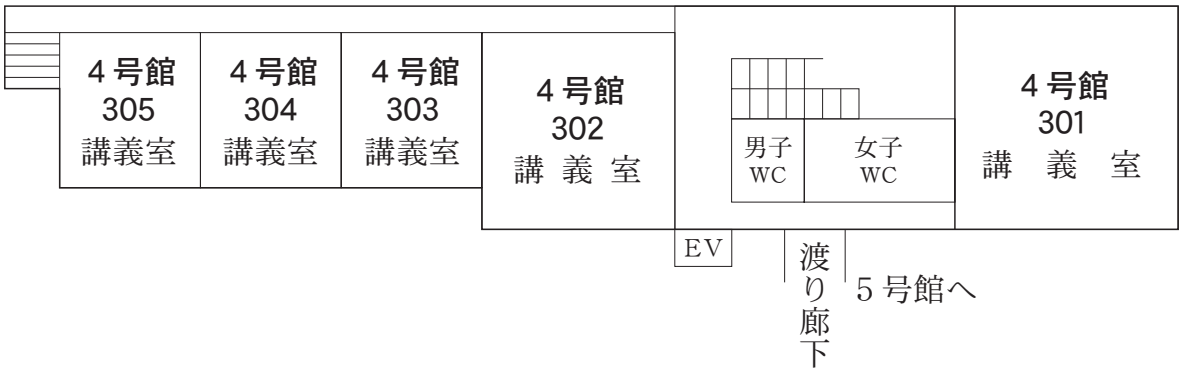
教養教育４号館

教養教育講義室と教養教育の窓口，課外活動の窓口，授業料免除･奨学金の窓口，キャリア支援室などがあります。

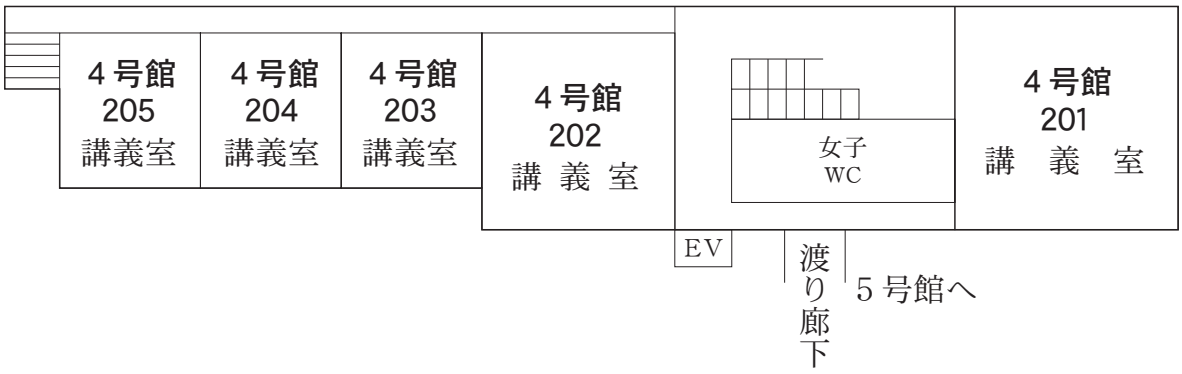
〔４階〕



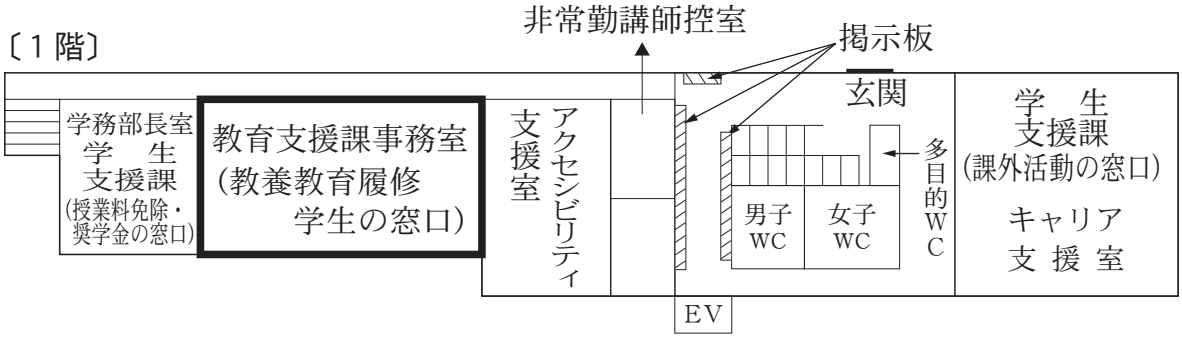
〔３階〕



〔２階〕



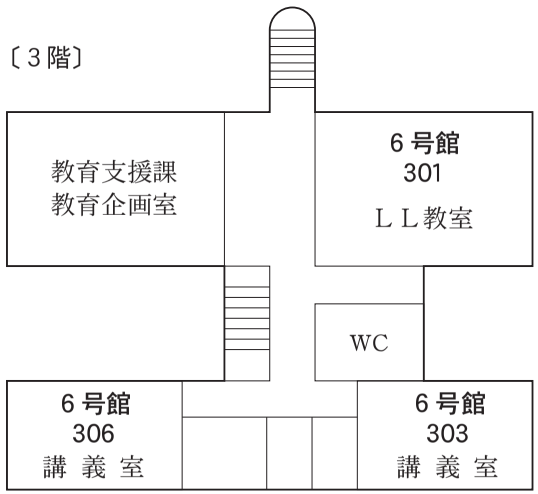
〔１階〕



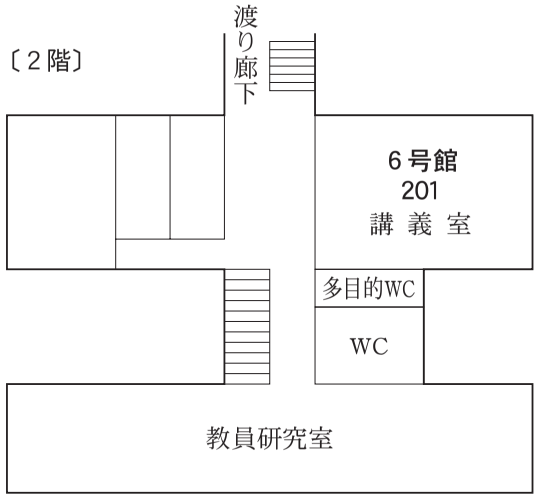
教養教育６号館

教養教育講義室などがあります。

〔３階〕



〔２階〕

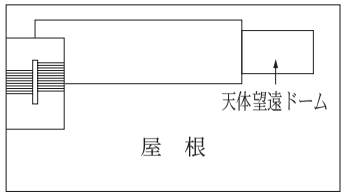


教養教育５号館

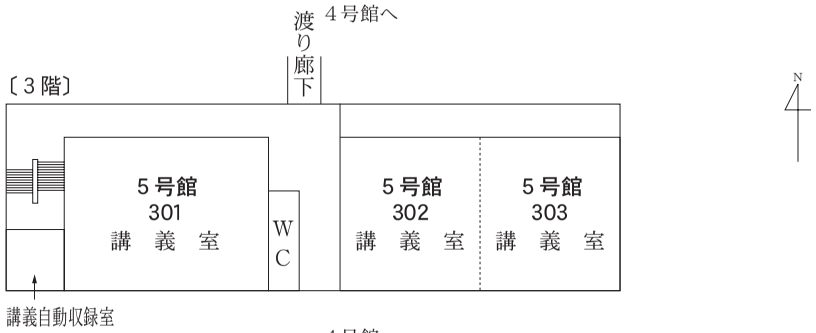
教養教育講義室(学生自習スペース含む)とキャンパスライフ健康支援センターがあります。

〔４階〕

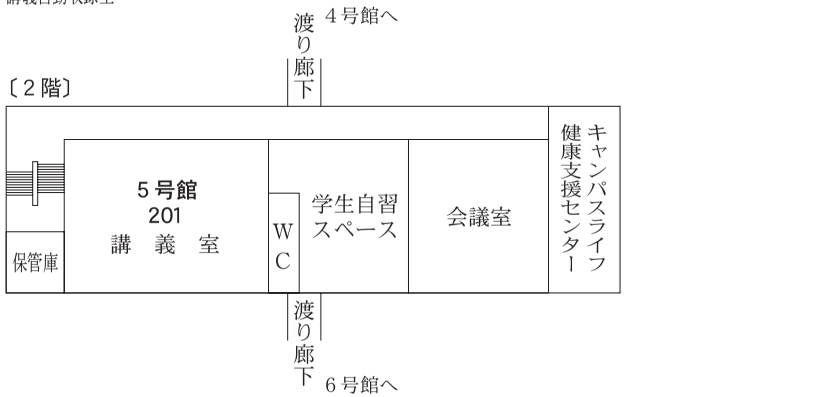
〔屋階〕



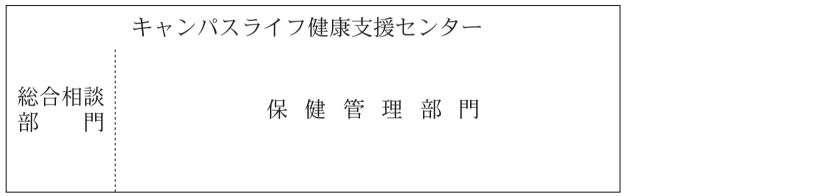
〔３階〕



〔２階〕



〔１階〕



理工学部講義室配置図

N
変電室
知能情報・北棟
知能情報・南棟
ポストLED フォトニクス 研究所
情報センター 院生棟
2階:
(情)1-A [202]
(情)1-B [202]
3階:
(情)2-C [301]
光応用棟
総合研究実験棟
カフェ
産学官連携プラザ
シンボルストリート
風洞実験室
建設系 実験室
降雨実験室
水理実験室
建設棟
環境防災 研究センター
生物資源 産業学部 学務係2F
多目的 ホール (3階)
図書館
池
正門
守衛室
第2食堂
カフェテリア
工業会館
薬品庫
化学・生物棟
実習棟
機械棟
イノベーションプラザ
掲示板
会計課経理係 (授業料等納付場所)
理工学部共通講義棟
車庫
電気電子棟
1階:学務係, 総務係, 予算管理係
会計課経理係
(授業料等納付場所)
2階:K201～K206
CALL(学生自習室)
3階:K301～K309
長期インターンシップ支援室
4階:K401～K407
5階:K501～K507
6階:K601, K602,
創成学習スタジオ

令和3（2021）年度　総合科学部学年暦

4月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9 (1)	10
11	12 (1)	13 (1)	14 (1)	15 (1)	16 (2)	17
18	19 (2)	20 (2)	21 (2)	22 (2)	23 (3)	24
25	26 (3)	27 (3)	28 (3)	29	30 木(3)	

5月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6 (4)	7 (4)	8
9	10 (4)	11 (4)	12 (4)	13 (5)	14 (5)	15
16	17 (5)	18 (5)	19 (5)	20 (6)	21 (6)	22
23	24 (6)	25 (6)	26 (6)	27 (7)	28 (7)	29
30	31 (7)					

6月

日	月	火	水	木	金	土
		1 (7)	2 (7)	3 (8)	4 (8)	5
6	7 (8)	8 (8)	9 (8)	10 (9)	11 (9)	12
13	14 (9)	15 (9)	16 (9)	17 (10)	18 (10)	19
20	21 (10)	22 (10)	23 (10)	24 (11)	25 (11)	26
27	28 (11)	29 (11)	30 (11)			

7月

日	月	火	水	木	金	土
				1 (12)	2 (12)	3
4	5 (12)	6 (12)	7 (12)	8 (13)	9 (13)	10
11	12 (13)	13 (13)	14 (13)	15 (14)	16 (14)	17
18	19 (14)	20 (14)	21 (14)	22	23	24
25	26 (15)	27 (15)	28 (15)	29 (15)	30 (15)	31

8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2 (16)	3 (16)	4 (16)	5 (16)	6 (16)	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

10月

日	月	火	水	木	金	土
					1 (1)	2
3	4 (1)	5 (1)	6 (1)	7 (1)	8 (2)	9
10	11 (2)	12 (2)	13 (2)	14 (2)	15 (3)	16
17	18 (3)	19 (3)	20 (3)	21 (3)	22 (4)	23
24	25 (4)	26 (4)	27 (4)	28 (4)	29 (5)	30
31						

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1 (5)	2 (5)	3	4 (5)	5 (6)	6
7	8 (6)	9 (6)	10 (5)	11 (6)	12 (7)	13
14	15 (7)	16 (7)	17 (6)	18 (7)	19 (8)	20
21	22 (8)	23	24 (7)	25 (8)	26 (9)	27
28	29 (9)	30 (8)				

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1 (8)	2 (9)	3 (10)	4
5	6 (10)	7 (9)	8 (9)	9 (10)	10 (11)	11
12	13 (11)	14 (10)	15 (10)	16 (11)	17 (12)	18
19	20 (12)	21 (11)	22 (11)	23 (12)	24 (13)	25
26	27	28	29	30	31	

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11 (12)	12 (12)	13 (13)	14	15
16	17 (13)	18 (13)	19 (13)	20 (14)	21 (14)	22
23	24 (14)	25 (14)	26 (14)	27 (15)	28 (15)	29
30	31 (15)					

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1 (15)	2 (15)	3 (16)	4 (16)	5
6	7 (16)	8 (16)	9 (16)	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

凡 例

- ……春季，夏季，冬季，学年末休暇等
- ……新入生オリエンテーション
- ……総括授業・定期試験期間
- ……追再試期間
- ……補講期間
- ……開学記念日
- ……入学試験等
- ……入学式・卒業式
- ……大学祭
- ……祝祭日

※（　）の数字は授業回数を示す。

総合科学部の英語表記の頭文字「IAS」をモチーフに、人と人をつなぐかたちを描きながら、奥行きのある「諸科学の融合」を表現したシンボルマーク。「諸科学の融合」は「人と人との和合」「世界中の人々の融和」につながっていくことに期待を込めている。

大学への問い合わせ及び緊急連絡先
〇徳島大学総合科学部事務課学務係
ＴＥＬ　088－656－7108
ＦＡＸ　088－656－9314

Faculty of Integrated Arts and Sciences
Tokushima University